# 実践のあゆみ
# 第１２号

平成２０年度研究紀要

千葉県立特別支援学校流山高等学園

# ま　え　が　き

校　長　　加　藤　　哲

学校教育法の一部改正がなされ、特別支援教育が本格的にスタートして二年目を迎えた今年度は、学習指導要領が改訂となり、教育課程の編成においても新たな時代を迎えたと言うことができます。

そうした大きな時代の流れの中で、創立１２年目を迎えた本校は、変革の時を迎えています。平成２２年度に、旧流山東高等学校の跡地に本校の第二キャンパス（仮称）を設置し、１学年の定員１２０名、全校３６０名の学校として生まれ変わる予定です。現在、施設設備面、教育課程の両面で、準備を進めているところです。新たな専門教科として「流通サービス」と「福祉」の内容を加える予定です。「流通サービス」は前回の学習指導要領改訂で盛り込まれ、「福祉」は今回改定された新学習指導要領に盛り込まれた専門教科です。本校では、これまでのもの作りを中心とした専門教育にこの二つの内容を加え、総合的な職業教育を展開していく予定です。

新たな時代に向けての取り組みが進む中、本校では今年度から「『社会自立・職業自立』に必要な『人間力』を高める教育実践」を研究主題として、実践研究に取り組むこととしました。昨年度までの研究主題「自立への支援～『キャリア発達』の視点を踏まえて～」を引き継ぎ、本校が最終的に求める生徒の姿と、それに向けた実践のあり方を探ろうというものです。

職業自立を目指す本校にとっては、専門教科を中心とした職業教育の在り方が大きなテーマとなります。本校が第二キャンパス構想の中で検討している総合的な職業教育の枠組みの中で、人間力を高める教育実践をどのように展開していくかが大きな課題であり、新しいキャンパス構想を支える理念として、この研究の成果を位置づけていきたいと考えています。

また、新しい学習指導要領に自立活動の指導内容として盛り込まれた「人間関係の形成」は、本校卒業生の姿から大きなテーマとして指摘され、課題となってきた内容です。現在、自立活動の内容の一つとして取り組んでいますが、人間力の構成要素の一つとして捉え、教育活動全体の中にどのように位置づけ、実践を展開していくかを探っていきたいと考えています。

人間力という視点からの研究は、流山高等学園のこれまでの１２年間のまとめになるテーマであると考えています。

最後になりましたが、本研究に際して御指導いただいた神奈川県立保健福祉大学教授松為信雄先生、公開研究会でご講演を頂いた毎日新聞社社会部副部長　野沢和弘様、シンポジウムのパネリストとして提言していただいた、細川雅彦様、市岡武様、坂本秀美様、伊藤靖浩様に心から感謝申し上げます。

目　　次

Ⅰ　テーマ　3
　１　研究主題　3
　２　主題設定の理由　3
Ⅱ　目的　3
Ⅲ　これまでの取り組み　4
　１　本校の教育課程　4
　２　自立への支援～キャリア発達の視点を踏まえて～　5
Ⅳ　今年度の実践　6
　１　内容と方法　6
　２　研究組織　7
　３　研究計画　8
Ⅴ　研究結果　8
　１　現場実習先へのアンケート実施結果　8
　　（１）アンケートの方法　8
　　（２）アンケートの目的　8
　　（３）調査内容　9
　　（４）アンケートの結果について　9
　２　自己評価力を高めて自己肯定感を促す授業実践　１１
　　（１）普通教科における授業実践【社会科】　１１
　　（２）専門教科における授業実践【園芸技術科　農業コース】　１３
　　（３）専門教科における授業実践【工業技術科　成型コース】　１５
　　（４）専門教科における授業実践【生活技術科　縫製コース】　１８
　３　新しい評価方法の作成　２０
　　（１）試案作成のねらいと内容について　２０
　　（２）キャリア発達段階から見た「人間力」チェック表（試案）について　２０
Ⅵ　考察　２２
　１　現場実習先へのアンケート実施結果　２２
　２　自己評価力を高めて自己肯定感を促す授業実践　２２
　　（１）自己評価とは　２２
　　（２）自己評価力とは　２３
　　（３）自己評価力の発達段階　２３
　　（４）本校の実践について　２４
　３　新しい評価方法の作成　２４
Ⅶ　まとめ　２５
　１　「人間力」をどうとらえるか　２５
　　（１）「キャリア教育」から「人間力」へ　２５
　　（２）「キャリア教育」から「人間力」の関係　２６
　２　流山高等学園が考える「人間力」　２７
　　「人間力」イメージ図　２８
Ⅷ　今後の課題　２９
　１　キャリア発達段階から見た「人間力」チェック表の活用　２９
　２　本校がめざす生徒像とそれに向けた実践のあり方　２９
Ⅸ　関係資料　３１

# Ⅰ　テーマ

## １　研究主題

「社会自立・職業自立」に必要な『人間力』を高める教育実践

## ２　主題設定の理由

本校では、これまで学校の重点目標に「人づくり・ものづくり・学力づくり」を挙げ、こうした目標を具現化するための教育課程作りを研究課題として取り組んできた。これまで専門教科、普通教科、特別活動、総合的な学習の時間など、本校の教育活動ほぼ全てについて研究を進め、最近では「キャリア発達の視点」を研究課題として取り組んできた。これらの取り組みは、どれも「生きる力」をはぐくむ教育実践を根幹にし、生徒一人一人の卒業後の豊かな生活をめざしたものである。特別支援学校において県内唯一職業学科を置く本校では、「職業教育及び就労支援を中心とした特別支援教育の中核機関」としての役割を担い、職業教育を通して「自立」のためのよりよい支援の実践を深めてきたと言える。これまでの本校卒業生の就職率は平均９８％と高い率を示し、離職した卒業生もほとんどの人が再就職して就労生活を送っている。平成２０年８月現在の就労率は約９割で、就労支援について言えば、この数字はこれまでの実践の積み重ねの結果であると言える。

しかし、これまでの研究実践からは、生徒一人一人の実態把握とニーズを捉えること、その上でキャリア発達の諸能力を高めていく必要があることが明確になった。また、近年職場等において、基礎学力や専門知識に加え、コミュニケーション能力や実行力等が重視され、社会の変化への対応や、実践的な問題解決能力が求められている。「他者や社会、自然や環境と共に生きること」など、変化に対応するための能力が求められ、「生きる力」をはぐくむための支援をさらに充実させていくことが必要になってきている。社会自立・職業自立に向けた支援を大きな柱とする本校では、卒業後にどう生きていくか、そのために今何をしなくてはいけないのかについて理解を深め、生徒の自立に向けた支援をさらに充実したものにしていかなければならない。「人間力」を高める教育実践は、これまで取り組んできたキャリア教育の考えを発展させたものであり、「生きる力」をはぐくむための支援をより充実させるものであると考える。「人間力」とは、「生きる力」の理念をさらに具体化したもの、すなわち現実の社会で力強く生きていく資質・能力であり、現実の社会に健全に生き、自分らしさを発揮する資質・能力である。こうしたことを踏まえ、本校の生徒が社会で生きていくために必要な生活力や実行力、表現力などを培うために、流山高等学園の考える「人間力」（自立に必要な力、身に付けてほしい力、生き甲斐につながる力）とは何かを明らかにし、「生きる力」をはぐくむ支援のさらなる充実をめざして本研究主題を設定した。

# Ⅱ　目的

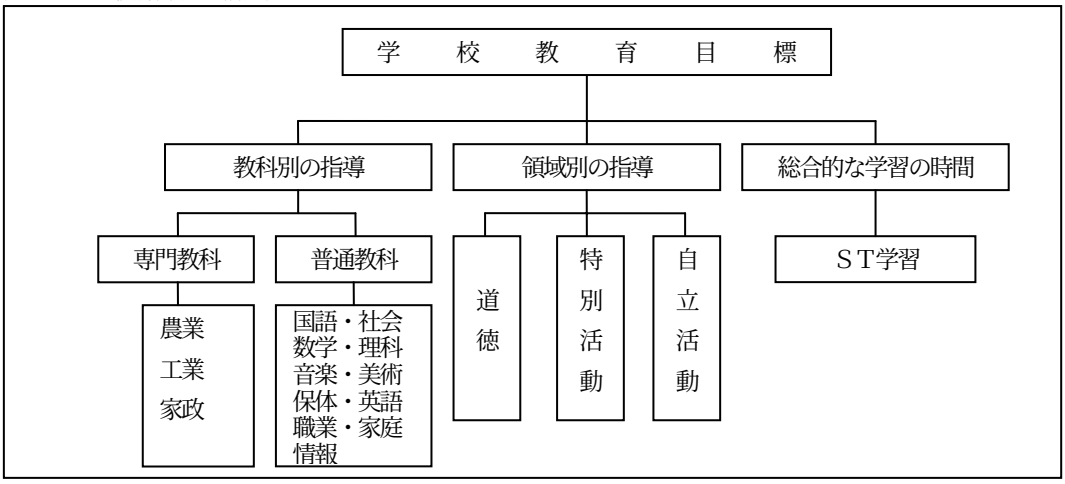
流山高等学園が考える「人間力」を明らかにし、社会で生きていくために必要な基礎的な知識・技能、コミュニケーション能力、問題解決能力、体力等を培う教育課程の創造を行い、自分らしさを発揮する資質や能力を身に付けるような支援を進め、「生きる力」をはぐくむ。

# Ⅲ　これまでの取り組み

## １　本校の教育課程

本校は、軽度の知的障害者を対象とし、職業に関する学科を設置する高等部のみの定員制の特別支援学校である。「農業」、「工業」、「家政」を中心とした職業に関する３つの学科と７つのコースを設置した高等部単独の特別支援学校は、千葉県内では本校だけである。生徒は、卒業後の就労や社会自立を目指して学校生活に取り組んでいる。職業教育を一層推進し、職業自立を図る教育実践を深めていくことが本校の大きな役割の一つであり、教育課程では、「社会自立・職業自立」に必要な知識・技能・態度の育成を目指した編成になっている。（図Ⅲ－１）

図Ⅲ－１　教育課程の構造図




本校の教育課程は、教科別の指導・領域別の指導・総合的な学習の時間の３つによって編成されている。教科別の指導では、「専門教科」と「普通教科」とに分け、午前中は主に専門教科として各コースの実習を行い、午後は普通教科の授業を行っている。専門教科は実習を学習の中心に捉え、将来の働く生活の中で必要とされる基本的な力の育成を目指して取り組んでいる。普通教科は自立に必要な力、生活に必要な力を指導していくために、教科の目標と指導内容を配列した年間計画を作成している。領域別の指導は、「道徳」「特別活動」「自立活動」で、いずれも時間枠を設けて展開している。総合的な学習の時間は、本校では「ＳＴ学習」と呼んでいる。一人一人が自らの「step」を乗り越えながら、次の「stage」へと進むための学習であることから、共通して使われている「ＳＴ」の文字をとって「ＳＴ学習」と名付けた。日課表（表Ⅲ－２）を見ても分かる通り、午前中は主に専門教科として各コースの実習を行っている。専門教科の授業時数は週１５時間を確保し、活動の中心となっている。本校では「もの作り」を中心とした職業教育に取り組み、「もの作り」を通して「社会自立・職業自立」を目指している。

表Ⅲ－２　日課表

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 委 | 専門実習 | 専門実習 | 専門実習 | ＳＴ |
| 2 | 専門実習 | | | | 家庭科 |
| 3 | | | | | |
| 4 | | 専門／自活 | | | |
| 5 | 美 | 理 | 体 | 英 | 国 |
| 6 | 体 | 数 | 社 | 音 | 情 |
| 7 | ＨＲ／道徳 | 体 | 数 | 職 | 選択教科 |
| 部活動 | | | | | |

（例：工業技術科３年）

## ２　自立への支援～キャリア発達の視点を踏まえて～

本校では、昨年度まで「自立への支援～キャリア発達の視点を踏まえて～」を研究テーマとし、「キャリア教育」についての取り組みを進めてきた。職業教育を実践している本校は、教育内容そのものが「キャリア教育」であると言え、「キャリア発達」のために育成すべき能力に焦点をあてて実践的な研究を進めるとともに、社会自立･職業自立に必要な力を育てるための教科指導について、「キャリア発達の視点」から実践を深めていくことを目指して研究を積み重ねてきた。

「キャリア発達の視点を踏まえて」という副題には、普段の教育活動、つまり生徒たちの自立に向けた支援を「キャリア発達」の視点で捉え、整理することで生徒一人一人の発達段階や発達課題を明らかにして、より実践的な支援に結びつけていこうというねらいがある。本校では、「キャリア発達にかかわる諸能力」（図Ⅲ－３）つまり、「人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力」を、どう育てるかという視点を踏まえることで、教科別の指導の充実が図られるのではないかと考えた。そこで教科別の指導・支援内容について、「キャリア発達にかかわる諸能力」との関連を明確にしてきた。社会自立・職業自立に必要な力を育てるための教科指導について、「キャリア発達の視点」から生徒一人一人のニーズに応じた「自立の姿」を考えていったのである。
（詳細は平成１９年度研究紀要実践のあゆみ第１１号を参照）

図Ⅲ－３　キャリア発達にかかわる諸能力

| 領　域 | 領　域　説　明 |
|---|---|
| 人間関係形成能力 | 他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。 |
| 情報活用能力 | 学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。 |
| 将来設計能力 | 夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。 |
| 意思決定能力 | 自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。 |

研究結果からは、授業を構成していく中で「キャリア発達に関わる諸能力」との関連を明らかにすることで、指導者の意識改革が起こり、授業展開や支援方法の工夫・改善へとつながることが分かった。また、本校で取り組んできたものを活かし、「キャリア発達の視点」からの評価を考えていくこと、「キャリア発達の視点」を職員共通の視点として今後の実践に活かしていくこと、などが課題となった。

# Ⅳ　今年度の実践

## １　内容と方法

研究内容①　企業へのアンケート～社会で生きていくために必要な力はなにか？～

| 目的 |
| --- |
| 卒業生や実習先の職場、その他必要と思われる所へのアンケートなどを行い、本校生徒の課題や社会が求める力、豊かに生きていくために身に付けておきたいことなどを確認する。 |
| 方法 |
| 現場実習の期間を活用し、生徒が通っている実習先の企業にアンケートをお願いする。知的障害者を雇用する場合に重視する力について質問するアンケートを作成し、実習開始日にアンケートの依頼を行う。評価聴取のときに回収するようにする。企業の都合により、回答はＦＡＸ、郵送でも可とした。 |

研究内容②　全教科で「人間力」を主題にした研究授業を行い、協議会を開催する。

| 目的 |
| --- |
| ・「人間力」を培うための授業の方法を検討する。<br>・「キャリア発達の視点」を踏まえた授業をさらに発展させ、生徒のより確かな力の定着をめざす。<br>・「新しい評価方法」作成の取り組みに活かす。 |
| 研究会 |
| ○学科・コース会議（各専門コース）<br>○教科部会（各教科） |
| 方法 |
| １，各専門コース、各普通教科で年間を通して最低１回以上の研究授業を計画して行い、協議する。<br>２，研究授業では、「キャリア発達の視点」や「指導・支援内容とキャリア発達の諸能力との関連」などを明らかにするとともに、生徒の自己理解を促す（自己評価力を高める）支援の工夫を試みる。<br>３，研究授業を行った後に、実践のあり方、自己理解を促す支援の工夫について協議を行い、内容をまとめる。<br>４，公開研究会とは別に授業展開を行う。 |
| 時期 |
| １，7/17（木）までに研究授業の計画書を提出する。（6/26 の教科会議、7/14 の学科・コース会議などで検討を進める。）<br>２，９～１０月中に研究推進係が授業展開を行う。<br>３，１０月～１月の間に各教科の研究授業を行う。 |

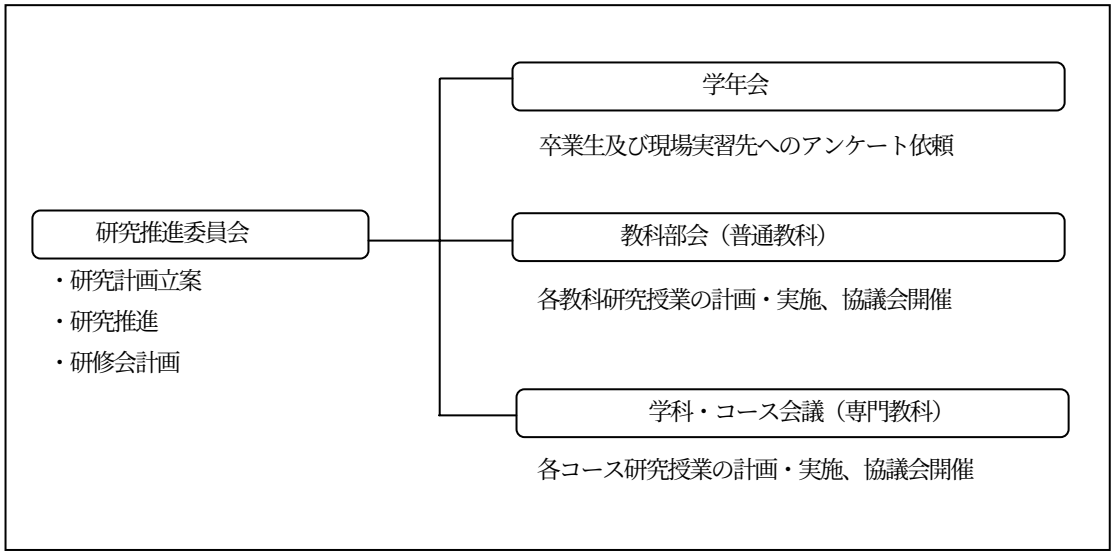
研究内容③

キャリア発達の視点によるアセスメントや、生徒の自己評価力を高めるキャリア発達段階表の作成など、新しい評価方法を作成する。

（これまでの研究の成果と課題をふまえて研究を進める）

| 目的 |
| --- |
| キャリア発達の視点から、生徒のアセスメントや自己評価の方法、様式等を検討する。 |
| 研究会 |
| 研究推進委員会 |
| 方法 |
| 昨年度までの研究で取り組んできた「キャリア発達の諸能力を養う指導・支援内容段階表」などを活用し、キャリア発達の視点からの評価を考える。 |

## 2　研究組織



## ３　研究計画

| 月 | 行事 | 学年会 | 教科部会 | 学科・コース会議 | 研究推進委員会 |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 | | | | | 全体計画 |
| 5 | 全校研修会 5/23 | 研究主題研修会 | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | | | ・研究授業日程計画作成 | | |
| 8 | | | | | 公開研究会準備 |
| 9 | | アンケート実施 | 各教科による研究授業実施 | | |
| 10 | | | | | |
| 11 | | | | | |
| 12 | 公開研究会 12/3 | 公開授業　シンポジウム | | | |
| 1 | | | 研究のまとめ | 研究のまとめ | 研究紀要作成 |
| 2 | | | | | 次年度研究計画作成 |
| 3 | 全校研修会 3/ | 研究のまとめ、次年度の計画研修会 | | | |

# Ⅴ　研究結果

## １　現場実習先へのアンケート実施結果

「社会自立・職業自立」をめざしている本校では、本校が抱える課題や社会が求める力、豊かに生きていくために身に付けておきたいことなどについて理解を深め、日々の教育活動に活かしていかなくてはならない。これまでの実践から、進路に関わるデータが多く存在し、過去にも企業へのアンケート調査を実施し、社会が求める力について整理したことがある。今年度「人間力」を研究主題においた取り組みを進めるにあたり、これまでのデータを整理するとともに、改めて現場実習先、その他必要と思われる所へのアンケート調査を行い、本校生徒が抱える課題や社会が求める力、豊かに生きていくために身に付けておきたいことなどを確認することにした。

### （1）アンケートの方法

調査対象　本校２，３年生の現場実習先企業（８５社）
調査時期　平成２０年１０月
回収数５０　回収率約６０％

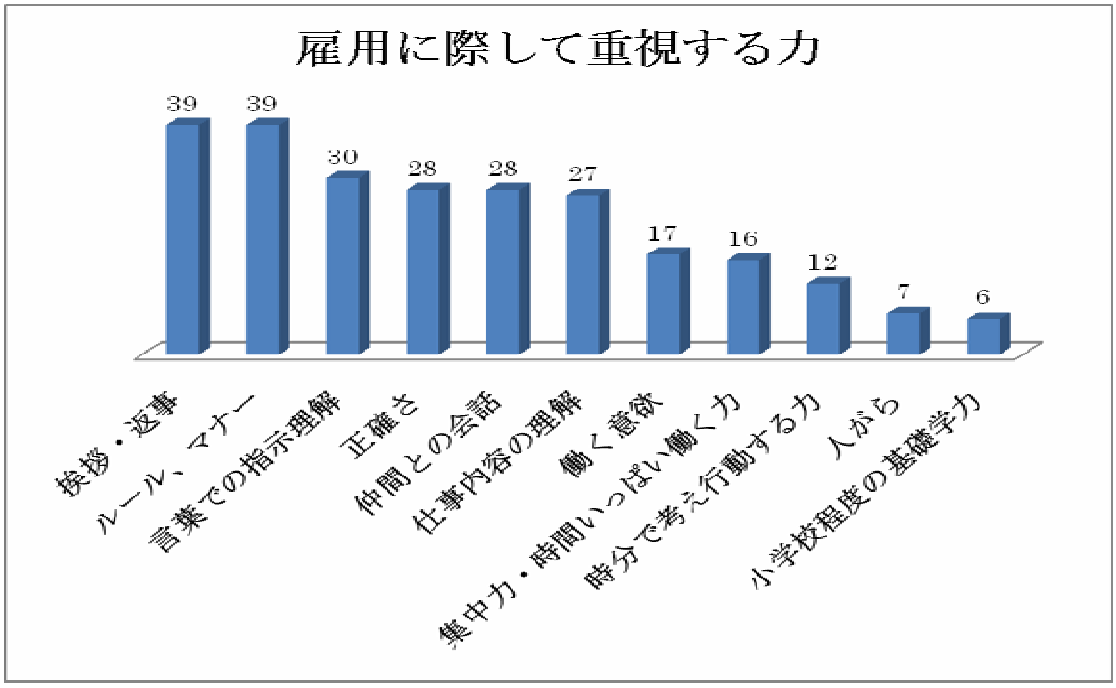
### （2）アンケートの目的

本校生徒の課題や社会が求める力、豊かに生きていくために身に付けておきたいことなどについて理解を深め、今後の支援に役立てる。

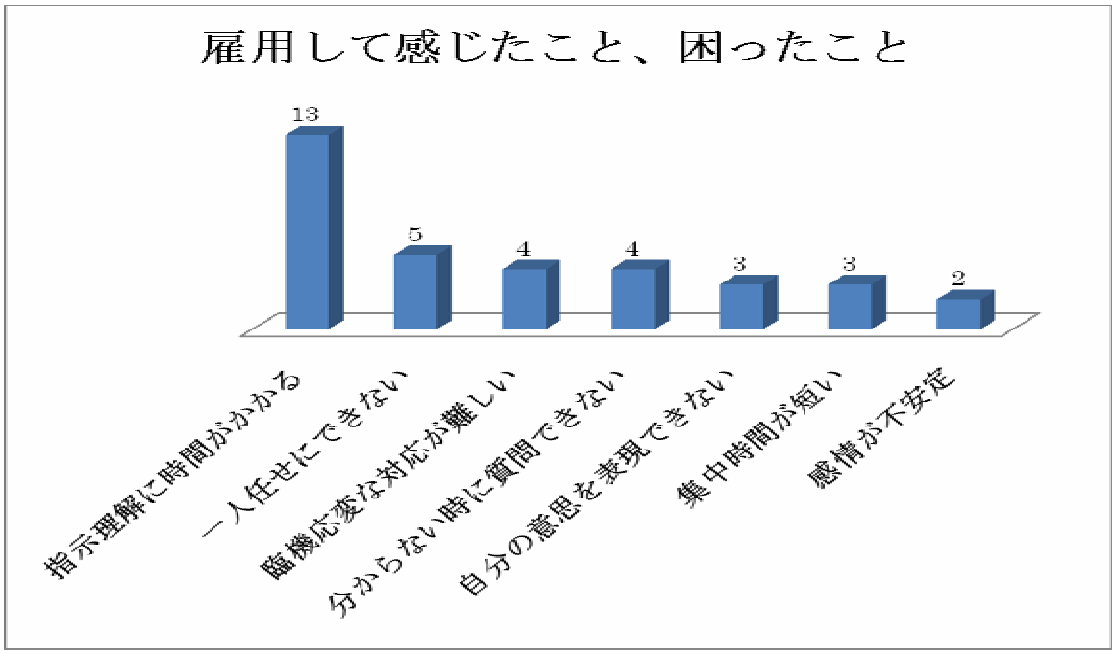
**（3）調査内容**

知的障害者を雇用する際に会社でとくに重視する力について選択し、障害者を雇用して困ったことや学校生活で身につけてほしい力などについて記述していただく。アンケート用紙については関係資料（ｖ－１）参照。

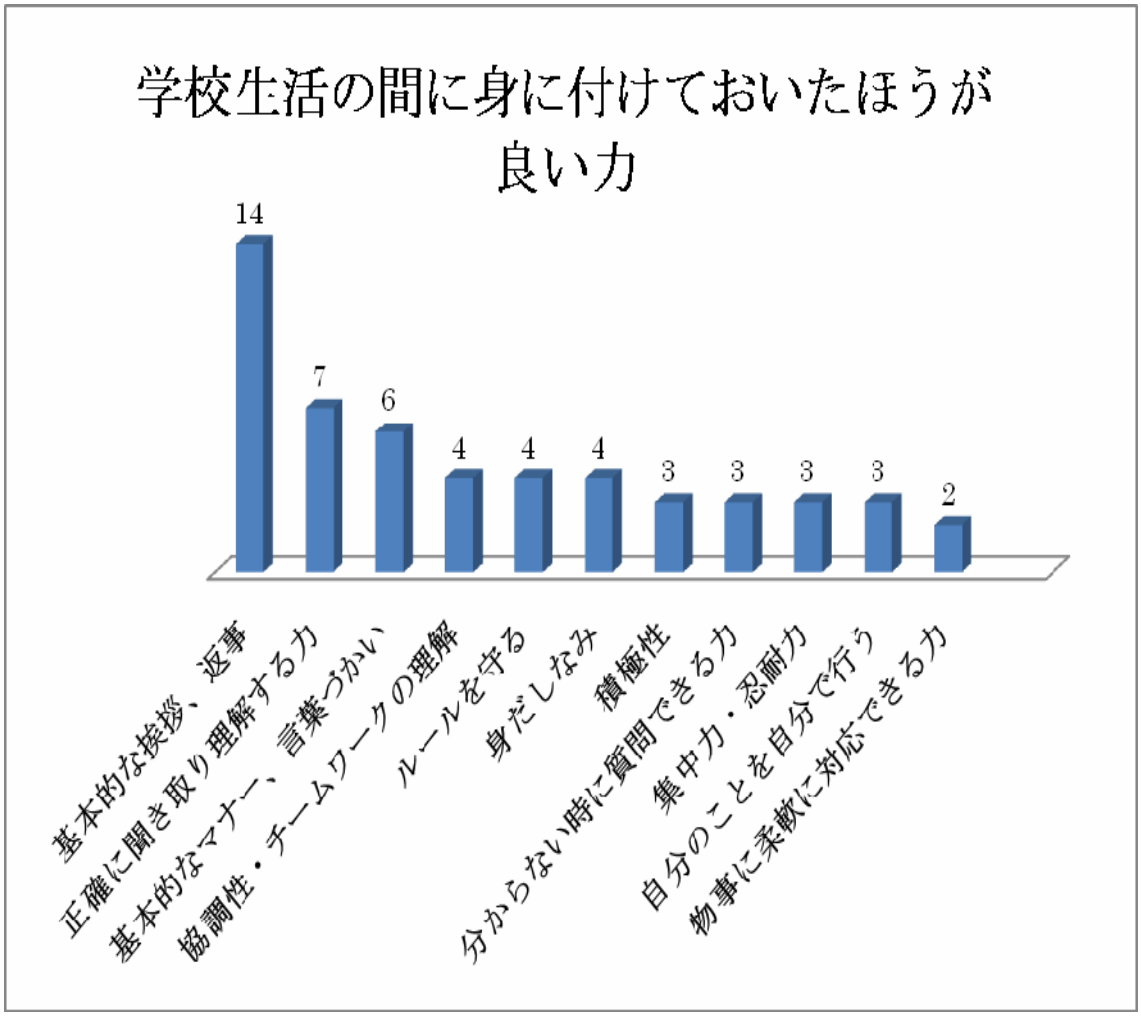
**（4）アンケートの結果について**




＊その他　健康管理、時間を守る、自主性、応用力、思いやり




＊その他　・清潔感にかける　・周囲との協調性にかけ、集団行動が難しい
・場や状況に応じた判断がむずかしい・休憩中の不自然な態度




その他

・現場での実習体験を増やす（4）
・生徒の興味関心や、趣味を詳しくリサーチして将来に反映できるようにする。（2）
・感謝する気持ち
・正確さ、速さ
・生活の中の実体験を増やす
・寒暖に耐えうる体力。食事をきちんと摂り、体を鍛えておく
・普通免許取得
・パソコンデータ入力業務ができる力（物流関係）
・資格取得

## ２　自己評価力を高めて自己肯定感を促す授業実践

本校がこれまで取り組んできた「キャリア発達の視点」を踏まえた実践をさらに発展させ、「人間力」を高める実践を深めるために、研究授業では生徒の自己評価力を高め、自己肯定感をはぐくむ支援の工夫について取り組みを進めた。「キャリア教育」は教師主導のものであるが、「人間力」の考えを基にして、教師主導のキャリア教育から生徒が活用できるキャリア教育の実現を考えたとき、教師と生徒の間をつなぐものが「授業」であり、両者を媒介する‘つなぎ’の役割を果たすのが「自己評価力を高めて自己肯定感を促す支援」であると考えている。また、自己肯定感をはぐくむ支援を充実することで、「人間力」を高めていくことができるのではないかと考えている。学習指導案は、これまでと同様にキャリア発達の視点を明記するとともに、今年度は、さらに「人間力」についても明記することにした。

### （1）普通教科における授業実践【社会科】

本校の社会科では、３年を通じて次に挙げる４つの目標を達成すべく日々実践を進めている。

1 卒業後の社会生活に必要な決まりや制度を知り、必要に応じて生活に生かす姿勢を育てる。
2 日常生活に関係の深い公共施設や公共物などの働きを理解し、適切に利用する。
3 政治、経済、文化などの社会的事象に興味や関心を持ち、これらに関する基本的な事柄を理解する。
4 いろいろな地域の自然や生活の様子を理解し、社会の変化に関心を持つとともに、日本や世界の出来事について考える。

しかし、授業時数が２０時間程であることかから、教育目標である「社会自立・職業自立」を達成させるための指導内容をいかに精選するかが、毎回の社会科部会で議論となるところである。

① ねらい

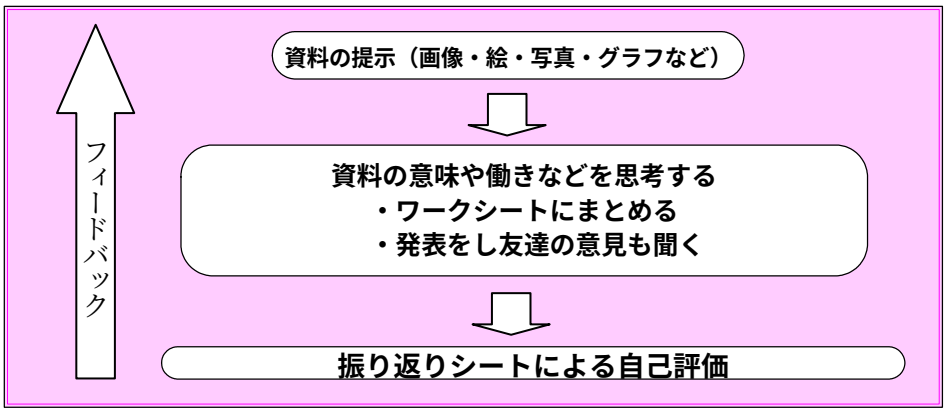
社会科においての本校の実態は様々で、a 中学校で通常級に在籍して不十分であるが歴史・地理・公民の学習経験がある生徒、b 特別支援学級で公共の施設の学習や実態にあった地図の学習などをしてきた経験のある生徒、c 今まで「社会科」を学習してきた経験は一切なく、小中学校は教科領域を合わせた教育課程を経験してきた生徒の３パターンに分けられる。２学年について調査したところ、b の割合が多い。中学校までの社会の学習が理解できずに抵抗感がある生徒も少なくない。逆に特定の時代や社会事象・地理や鉄道などに興味があり、精通している生徒も見受けられる。年間２０時間の授業それぞれに達成感・成就感を味わわせ、「今日はこんな学習ができた」「こんなことが理解できた」「こんなことを考えることができた」と感じることができれば自己肯定感が高まり、生きる力、人間力につながっていくと考え、毎時間の「ふりかえりシート」による自己評価を取り入れた授業実践を試みた。

② 実践経過

「自己評価」の前にまずは指導内容・方法についての検証を行った。指導内容については従来「日本を知ろう～都道府県について」「選挙について」「市役所の働き」など小学校３年生程度であったが、「くらしに役立つ社会（東洋館出版）」を教科書とし、「私たちのくらしと社会」として法律や社会のしくみに関する学習や、「私たちのくらしと公共施設」「私たちの暮らしと経済」などトップダウンで卒業後のくらしに直結する内容での指導をとり入れ、将来がイメージできるような事柄に絞った。

指導方法については白地図に県名を書き入れていくような作業的な内容からビデオ・写真・絵やグラフなどの資料から様々な情報を読みとり、思考することによって「自分で考える力」「学んだことを生活に生かすことができる力」が伸長できるように心がけた。さらにロールプレイングなどを授業の中で積極的に取り入れることによって社会科がより生活に身近になるように配慮した。

図ｖ－２　自己評価を取り入れた授業の流れ

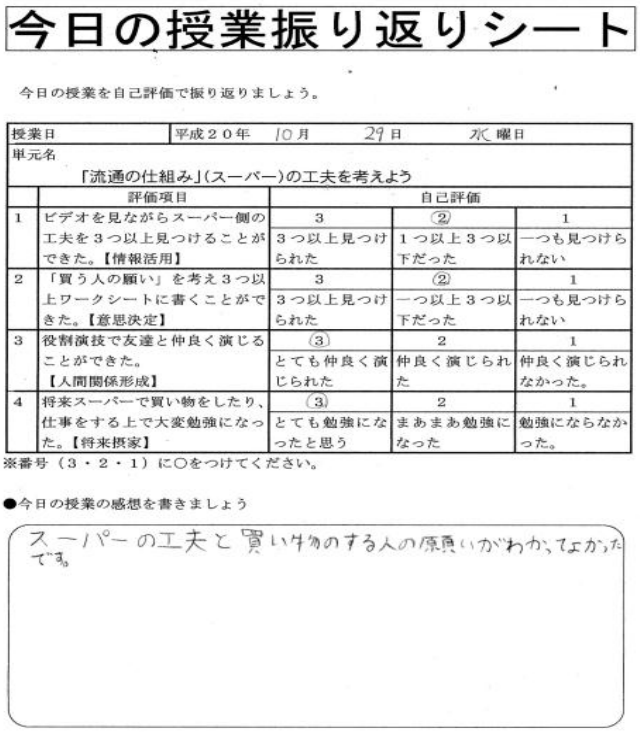



評価項目の設定に当たってはキャリア発達における４つの諸能力である「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」に沿った項目を挙げ、授業ごとに達成してもらいたい基準を具体的に設定し、達成できたか否かがすぐに自分で判断できるようにした。

③　実践を振り返って

生徒たちは日々の授業の振り返りシートに活発に進んで記入する姿が見られた。自分自身をもっと見つめ、将来へ向かっての力を一人一人が獲得するには、さらなる評価項目の精選が必要になってくると感じた。

図ｖ－３　振り返りシートの例



今日の授業振り返りシート

今日の授業を自己評価で振り返りましょう。

| 授業日 | 平成２０年　10月　29日　水曜日 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 単元名 | 「流通の仕組み」(スーパー)の工夫を考えよう | | | |
| | 評価項目 | 自己評価 | | |
| 1 | ビデオを見ながらスーパー側の工夫を３つ以上見つけることができた。【情報活用】 | 3<br>３つ以上見つけられた | ②<br>１つ以上３つ以下だった | 1<br>一つも見つけられない |
| 2 | 「買う人の願い」を考え３つ以上ワークシートに書くことができた。【意思決定】 | 3<br>３つ以上見つけられた | ②<br>一つ以上３つ以下だった | 1<br>一つも見つけられない |
| 3 | 役割演技で友達と仲良く演じることができた。【人間関係形成】 | ③<br>とても仲良く演じられた | 2<br>仲良く演じられた | 1<br>仲良く演じられなかった。 |
| 4 | 将来スーパーで買い物をしたり、仕事をする上で大変勉強になった。【将来設家】 | ③<br>とても勉強になったと思う | 2<br>まあまあ勉強になった | 1<br>勉強にならなかった。 |

※番号（３・２・１）に○をつけてください。

●今日の授業の感想を書きましょう

スーパーの工夫と買い物のする人の願いがわかってよかったです。

## （2）専門教科における授業実践【園芸技術科　農業コース】

① ねらい

毎日の反省の中で、その日の実習を振り返り自己評価を行っているが、常に自己評価の甘い生徒と、自分に厳しい生徒がいる。自分自身の評価に加えて、客観的に自分がまわりからどの様に評価されているか知ることで自己肯定感を増やし、人間力を高めるようにしていきたい。

② 実践経過

毎日、その日の活動について反省し、次の項目について自己評価を行っている。　ａ 時間いっぱい一生懸命取り組むことができたか、　ｂ あいさつ・返事・報告が大きな声でしっかりできたか、　ｃ 友達や先生と協力して作業できたか、　ｄ 準備や片付けに自分から取り組むことができたかの４項目について３段階の評価を行っているが、毎日のことになるとマンネリ化しやすい傾向にあった。そこで前期後期の終わりに、２１の項目(表ｖ－４)について自己評価とともに、同じグループの教師と生徒が評価し、それを他者評価として自己評価と比較できるようにした。

しかし、作業自己評価観点の２１の項目そのままでは、細かすぎて生徒には分かりにくいことから、２１の項目を内容に応じて、「働くための基本ルール、作業能力、コミュニケーション、意欲」の４つの分野に分類してグラフ（表ｖ－５）に表し、自己評価と他者評価を比べられるようにした。折れ線グラフの四角形が大きいほど自他ともに高い評価であり、四角形が小さいほど評価が低いことになる。視覚的に自分の評価がわかるのでとても興味を持って、グラフに見入る生徒が多かった。自己評価以上に自分がまわりからどの様に思われているかとても関心があり、自分の評価との違いを比較し、目標の持ち方や日々の実習の課題の持ち方の参考にすることができた。

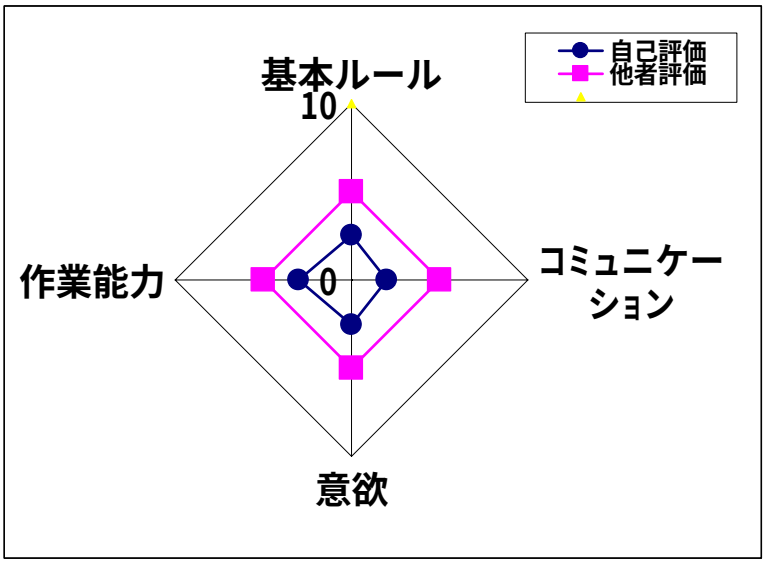
さらに、日常の活動の中では、働く力の評価はなかなかやりにくいが、このような評価を加えることで、毎日の活動の意欲につなげることができた。

表ｖ－４　作業自己評価観点

| | |
|---|---|
| 1　報告・連絡・相談 | 12 自主性・自発性 |
| 2　清潔（みだしなみ） | 13 集中力・持続力 |
| 3　清掃 | 14 危険への対応・認識 |
| 4　整理・整頓 | 15 理解力・判断力 |
| 5　節約 | 16 責任感 |
| 6　節制 | 17 作業に耐える力 |
| 7　時間の把握・調整 | 18 道具等の使用 |
| 8　挨拶・返事 | 19 作業の正確性 |
| 9　謝罪 | 20 作業の能率 |
| 10 感情の表現 | 21 習熟度 |
| 11 他者との協力・協調性 | |

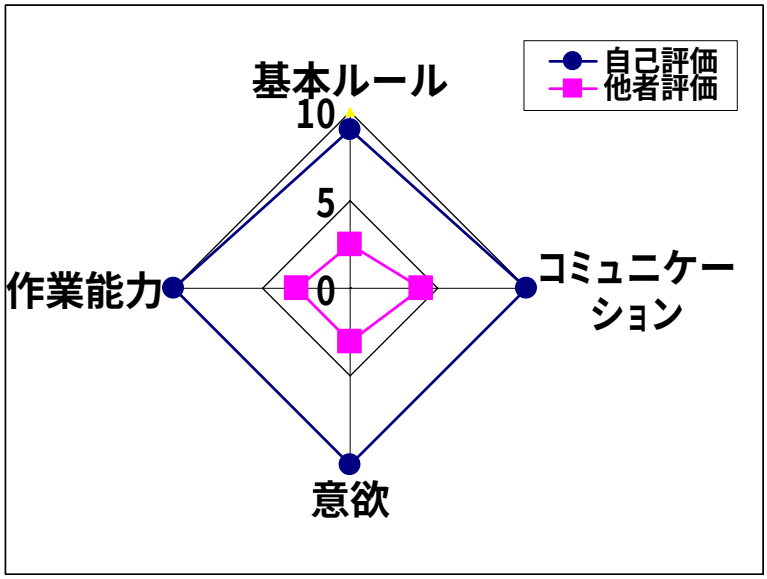
表ｖ－５　評価グラフ

・他者評価に比べて、自己評価が低い例




自己評価の中でも、自分では、コミュニケーションと意欲がないと思っているが、周囲の評価はちがう。

・自己評価に比べて、他者評価が低い例




自分では、いずれの項目も完璧と思っているが、周囲からの評価は厳しい。他者評価の中では、コミュニケーションが一番高い。

③　実践を振り返って

今年度から取り入れた取り組みなので、まだ１回しか実践していないが、生徒は他者評価の入ったグラフをとても興味深く見入っていた。自己評価の中で、自分の苦手な部分がわかり、専門実習に活かすことができる。また、そこに他者の客観的な評価が加わることで、常に自分に厳しく、だめだという評価になってしまう生徒は、まわりの評価を知って自信を持たせることができた。また、自己評価が甘い生徒には、まわりからは、こんな風に思われているのだということで、正しい評価を自分にすることができる機会となった。今後は年に２回この評価を行い、積み重ねていくことで、自己評価力を高めて、自己肯定感を促し、人間力を高めていく契機としていきたい。

## （3）専門教科における授業実践【工業技術科　成型コース】

① ねらい

成型コースでは、年間を通して手練りやターボミキサーなどの機械を使って生コンを作り、梨畑ブロック、平板、地先ブロックの３製品を製造している。完成した製品は建築建材卸や農業資材卸に納品している。

コンクリート製品の製造を行う過程で、将来、社会人・職業人として自立する時に必要な力や勤労観・職業観を身につけることが大切と考え、職業自立・社会自立に必要な知識・技能・態度の向上やコミュニケーション能力、体力の向上を目指して取り組んでいる。

② 実践経過

成型コースでは生徒一人一人が自分の仕事に責任を持てるように、いろいろな係を決めている。成型コースの係は週ごとに話し合いで決め、その内容は係が決める。

・班　長

班長の主な仕事・・・班会議の司会、仕事分担決め、手練りの回数決め（当日の仕事量）、作業終了時間の設定、始めの会、終わりの会の発表などを行う。

・手練り責任者

手練り責任者の主な仕事・・・手練りの回数決め（練り回数）、道具・材料の準備の分担決め、休憩時間の設定、清掃場所の分担決め、手練りの水の量判断などをおこなう。

・安全責任者

安全責任者の主な仕事・・・安全に配慮し、道具や材料を置く位置の確認、服装・安全点検（ゴーグル・マスクの点検）などを行う。

班会議で使う通常の活動用確認表（表ｖ－６）を活用し、作業を自分で選択し、話し合い活動で決定できるようにしている。

表ｖ－６　作業確認表

**第　　班　　作　業　確　認　表**

月　　日　　本日のできる作業　（できる場所を班長が確認し、○をつけておく）

| | | | |
|---|---|---|---|
| コンクリート | 型枠　脱型・掃除・組立 | 打ち込み | その他（ペーパーウエイト等） |
| 手練り・ターボ　・ミキサー | 梨畑　地先　平板（大・小） | 梨畑　地先　平板（大・小） | |

本日の作業担当　（担当者を記入）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 手練り・ターボ　・ミキサー | 型枠　脱型・掃除・組立 | 打ち込み | その他（ペーパーウエイト等） |
| | | | |

知識・技能・態度の向上のための「Ｃ－ＬＡＮＤ検定」を行っている。

・「チャレンジ！『C-LAND 検定』」**（１１／２５～１／３０）**

単元目標

a 作業手順書を元に、各作業工程で正確な作業を身につける。

b 「C-LAND 検定」を受検して、知識・技能・態度の向上をめざし、できる限り上位の級に合格する。

主な活動内容

a 作業手順書を確認し、実際にやってみて評価欄をチェックしながら、ていねいで正確な作業を進める。

b 「C-LAND 検定」を実施する。作業工程ごとに手順書通り正確にできたかどうかで合格・不合格を判定する。また、知識や態度についても筆記および実技試験を行い、合格基準点をクリアしたかどうかで合格・不合格を判定する。これらの合格した合計数によって１級から５級までを検定する。

c 工業技術科ワイド実習では、１年生は他コースの実習に取り組み、２・３年生は他コースの１年生の指導者として取り組む。

C-LAND 検定期間用確認表（表ｖ－７）では、検定合格表を確認し、話し合い活動で検定内容を決定できるようにしている。

表ｖ－７　検定期間用確認表

**第　　班　　作　業　確　認　表　　月　　日（　　）**

**本日のできる作業**　（できる場所を班長が確認し、〇をつけておく）

| | | | |
|---|---|---|---|
| コンクリート | 型枠　脱型・掃除・組立 | 打ち込み | その他（ペーパーウエイト等） |
| 手練り・ターボ・ミキサー | 梨畑　地先　平板（大・小） | 梨畑 地先 平板（大・小） | |

本日の決定した作業　（決定した場所に〇をつける）

| | | | |
|---|---|---|---|
| コンクリート | 型枠　脱型・掃除・組立 | 打ち込み | その他（ペーパーウエイト等） |
| 手練り・ターボ・ミキサー | 梨畑　地先　平板（大・小） | 梨畑 地先 平板（大・小） | |

本日の作業担当　（担当者を記入）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 手練り・ターボ・ミキサー | 型枠　脱型・掃除・組立 | 打ち込み | その他（ペーパーウエイト等） |
| | | | |

本日検定希望者　（検定希望者名と検定内容に〇を記入）

| 手練り　・ターボ　・ミキサー | | 型枠　脱型・掃除・組立 | | 打ち込み | | その他（ペーパーウエイト等） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 名前 | 検定作業名 | 名前 | 検定作業名 | 名前 | 検定作業名 | 名前 | 検定作業名 |
| | 手練り　ターボ<br>ミキサー　スランプ | | 梨畑 地先 平板<br>脱型 掃除 組立 | | 梨畑 地先 平板 | | |
| | 手練り　ターボ<br>ミキサー　スランプ | | 梨畑 地先 平板<br>脱型 掃除 組立 | | 梨畑 地先 平板 | | |
| | | | | | | | |

検定期間中に生徒が持っている検定期間記録表（表ｖ－８）である。生徒はこれを見て班会議でその日の検定希望を決定する。

表ｖ－８　「Ｃ－ＬＡＮＤ検定」結果記録表

| 生コン作り | 検定日 | 合格印 | 地先ブロック | 検定日 | 合格印 |
|---|---|---|---|---|---|
| 手練り | | | 脱型 | | |
| ポットミキサー | | | 型枠掃除 | | |
| ターボミキサー | | | 型枠組立 | | |
| スランプ試験 | | | 打ち込み<br>締め固め<br>表面仕上げ | | |
| 平板 | 検定日 | 合格印 | 梨畑ブロック | 検定日 | 合格印 |
| 脱型 | | | 脱型 | | |
| 型枠掃除 | | | 型枠掃除 | | |
| 型枠組立 | | | 型枠組立 | | |
| 打ち込み<br>締め固め<br>表面仕上げ | | | 打ち込み<br>締め固め<br>表面仕上げ | | |
| 態度 | 検定日 | 合格印 | 知識 | 検定日 | 合格印 |
| あいさつ<br>返事<br>ホウレンソウ | | | 知識A<br>（事典第１章） | | |
| あいさつ・<br>返事・<br>ホウレンソウ | 11/26<br>12/5･10･18 | | 知識B<br>（事典第２章） | １２／１１ | |
| 安全第一 | 11/26<br>12/5･10･ | | 知識C<br>(事典第３・４章) | １／１８ | |
| | | | 知識D（前期末ﾁｪｯｸﾃｽﾄ応用） | １／１９ | |

③　実践を振り返って

成型コースでは上記のような活動を行うことで、正しい知識、工程の確実性、作業の正確さも向上してきている。また、話し合い活動の場面を多く設定することで、今までは指示待ちの生徒が多く見られたが、自己選択の機会を設けることで、自己決定能力も高くなってきている。作業に対する意欲も高まり、生徒一人一人の自信につながっている。成型コースの考える人間力にもつながっていると考えている。

## （4）専門教科における授業実践【生活技術科　縫製コース】

① ねらい

a ミシンを使った製品作りを通して、一人一人が自信を持って製作に取り組む。

b 縫製の基本的知識と技能を高めながら、働く意欲と態度を育てる。

C 製作活動や販売活動を通してコミュニケーション能力の向上を図る。

縫製コースでは、以上３点を目標に取り組んでいる。

② 実践経過

a ミシンを使った製品作りを通して、一人一人が自信を持って製作に取り組めるように分かりやすい作業分担（表ｖ－９）、工程（流れ作業）で製品作りを行う。

表ｖ－９

＜裁断グループ＞
ｉ生地の裁断と印付

＜ペンケースグループ＞
ｉファスナー付け
ⅱワッペン付け
ⅲ周り縫い
ⅳマチ縫い

＜部品グループ＞
ｉ縁かがり
ⅱ部品作り
ⅲファスナー付け
Ⅳワッペン付け

＜縫い合わせグループ＞
ｉひも、ポケット縫い
ⅱ脇縫い
ⅲマチ縫い
ⅳ口元縫い
ｖ補強縫い

b 縫製の基本的知識と技法を高めながら、働く意欲と態度を育てる。

ステップアップ表の活用（表ｖ－１０）、各作業工程で注意する点を自分で確認し、反省することができる。

表ｖ－１０

**キャンパスバッグの仕事内容（１）**

| 作業内容 | 注意点 | 日付 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | |
| ひも縫い | 太糸、普通の押さえにかえる | | | | | |
| | 曲がらないようにぬう | | | | | |
| | ひものみぞの上を縫う | | | | | |
| | ダイヤルで縫い幅を調節し、印からはずれないように縫う | | | | | |
| 底布つけ | 横・横・たて・たての順番で縫う | | | | | |
| | 横は「押さえ縫い」の上からはみでないように縫う | | | | | |
| | 目打ちを使って布がゆがまないように縫う | | | | | |
| 内ポケットつけ | 袋布の色の太糸・普通の押さえにかえる | | | | | |
| | 袋布の縫い目に合わせて１本縫う | | | | | |
| | １本目から同じ幅で２本目を縫う | | | | | |
| | 始めと終わりに必ず返し縫いをする | | | | | |
| 脇縫い | 始まりは必ず口元から始める | | | | | |
| | 目打ちを使って布がゆがまないように縫う | | | | | |
| | 底布のふちがきちんと重なるように縫う | | | | | |
| | バイアスのセットを正しく行う | | | | | |
| | 袋布の色と同じバイアスの色を使う | | | | | |

・作業工程確認表（表ｖ－１１）、自分の仕事に責任を持って取り組むことができる。

表ｖ－１１　　ポケット充実バック（本革持ち手）

| 順番 | 製作工程 | 製作者 | 日付 |
|---|---|---|---|
| 1 | 裁断 | | |
| 2 | ロックミシン | | |
| 3 | 目打ちでギー | | |
| 4 | 接着芯貼り・アイロンかけ | | |
| 5 | ファスナー付け・レザーワッペン付け | | |
| 6 | 外ポケット・底布付け | | |

・実習日誌の活用（表ｖ－１２）、仕事内容の確認と目標設定、態度面の反省ができ、自己評価する力を育てることができる。

表ｖ－１２

| | | | |
|---|---|---|---|
| 月 | 作業内容： | | |
| | 目標： | | |
| 日（　） | ・進んで仕事に取り組めたか | | 反省 |
| | ・集中して最後まで取り組めたか | | |
| | ・挨拶、返事、報告などがよくできたか | | |
| | ・今日の目標が達成できたか | | |
| | ・そうじはきちんとできたか | | |

週のまとめ

| | | |
|---|---|---|
| ①大きな声であいさつができたか | | 1週間の反省 |
| ②相手に聞き取れる声で返事ができたか | | |
| ③報告や確認がしっかりできたか | | |
| ④指示を聞き、きまりが守れたか | | |
| ⑤材料や道具は丁寧にあつかえたか | | |

c　製作活動や販売活動を通してコミュニケーション能力の向上を図る。

・コース長やグループ長を中心にその日の予定や作業内容の伝達。その場に応じた言葉使い、報告、連絡、相談の徹底。

・年間３回の販売会活動および「注文品を作ろう」単元での活用。

③　実践を振り返って

簡単な工程からある程度の技術を要する工程まで細分化することにより、生徒一人一人に合わせた活動を用意することができ、自信を持って製作に取り組むことができた。ステップアップ表や作業工程確認表の活用で、「情報活用能力」の育成をはかりながら自己評価力を高めることができたのではないかと思われる。また、グループの仲間と共に製品を作り上げることで自分の仕事に対する責任感や協力する姿勢も生まれたと考えられる。

毎日の実習で取り組んだことだけでなく、態度を振り返り、自分の目標について考える実習日誌の活用は、今後も形式的にならないよう、教師との対話を大切にしながら積み上げてさらに自己評価力、自己肯定感を促せるようにしたい。

以上のことを今後も継続しながら、縫製コースが考える人間力により迫っていけるようにしていければと考えている。

# ３　新しい評価方法の作成

## （１）試案作成のねらいと内容について

昨年度は、生徒たちの自立に向けた支援について、「キャリア発達」の視点で捉え、整理することで生徒一人一人の発達段階や発達課題を明らかにして、より実践的な支援に結びつけていこうというねらいで取り組みを進めた。その中で、各教科の指導・支援内容とキャリア発達に関わる諸能力との関連付けを行い、「キャリア発達の諸能力を養う指導・支援内容段階表」を作成した。しかし、「段階表」の作成はできたものの、その活用方法の工夫については今後の課題であった。「キャリア教育」を進めていくことは、個のニーズにせまることである。生徒の実態把握、教科間の連携など、生徒一人一人の発達段階や発達課題を明らかにしてより実践的な支援に結びつけるためには、キャリア発達の視点からの評価を整理し活用していくことが必要である。そこで、キャリア発達に関わる諸能力に関連した新しい評価方法の試案作成を進めた。

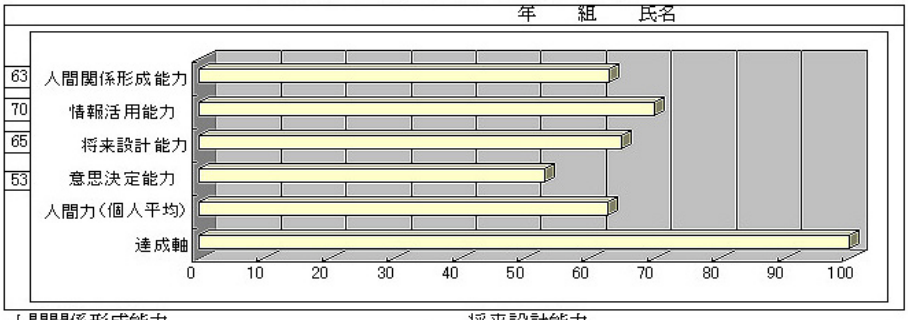
「キャリア発達の諸能力を養う指導・支援内容段階表」は、各教科の「指導・支援内容とキャリア発達に関わる諸能力との関連表」を基に段階を設けて整理した表である。この表はそのまま評価表としての役割が期待できる。各項目についてチェックすることができるように作成してあり、生徒の実態を調べたり、達成できている内容をチェックすることによって能力のバランスを分析したりすることが可能であると考える。これをそのまま活用することもできるが、今年度の研究内容である「人間力」の取り組みから、教師の生徒理解のための評価に加え、生徒の自己理解のための評価方法作成を視野に入れ、より分かりやすく簡潔に生徒の全体像を捉えることができる新たなチェック表を作成することにした。作成にあたっては、昨年度までの取り組みで作成した「キャリア発達の諸能力を養う指導・支援内容段階表」と、平成１８・１９年度に研究協力校の指定を受けた「知的障害者の確かな就労を実現するための指導内容・方法に関する研究」（国立特別支援教育総合研究所）で作成した知的障害のある児童生徒の「キャリア発達段階・内容表（試案）」を基にした。「キャリア発達に関わる４つの諸能力」についてそれぞれ段階別に分かりやすい言葉で表記したチェックリストを設け、キャリア発達の度合いを数字で表した。個人の平均値をキャリア発達段階から見た「人間力」とし、全体像がつかめるようにした。

## （２）キャリア発達段階から見た「人間力」チェック表（試案）について

・チェック表記入例

キャリア発達段階から見た「人間力」チェック表

年　　組　　氏名




人間関係形成能力

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 元気よく挨拶ができる。 | ○ |
| 2 | 大きな声ではっきりと返事をする。 | ○ |
| 3 | 清潔な服装を心がけている。 | ○ |
| 4 | 友達と協力して係活動に参加する。 | ○ |
| 5 | 電車で老人や妊婦に席を譲ったことがある。 | |
| 6 | 電話で待ち合わせの約束をしたことがある。 | ○ |

将来設計能力

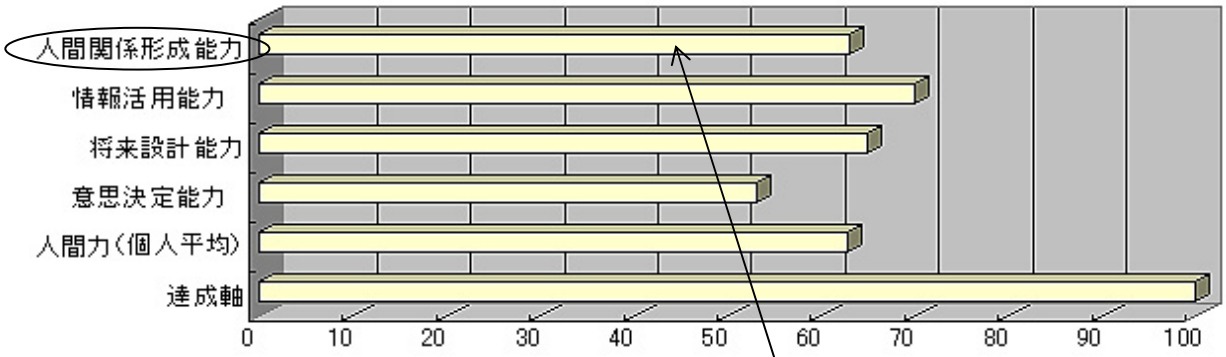
| | | |
|---|---|---|
| 1 | 朝ご飯をきちんと食べている。 | ○ |
| 2 | 専門教科等の学習にまじめに参加する。 | ○ |
| 3 | 夜更かしをしない。 | |
| 4 | 新しいことにチャレンジできる。 | ○ |
| 5 | 好きな教科は熱心に取り組む。 | ○ |
| 6 | 家庭で決まった役割がある。 | ○ |

・内容についての説明

人間関係形成能力

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 元気よく挨拶ができる。 | ○ |
| 2 | 大きな声ではっきりと返事をする。 | ○ |
| 3 | 清潔な服装を心がけている。 | ○ |
| 4 | 友達と協力して係活動に参加する。 | ○ |
| 5 | 電車で老人や妊婦に席を譲ったことがある。 | |
| 6 | 電話で待ち合わせの約束をしたことがある。 | ○ |
| 7 | 見聞きしたことを相手に分かるように話す。 | ○ |
| 8 | 仕事終了時の報告と次の仕事の確認ができる。 | ○ |
| 9 | 言われなくても次の仕事を見つけて動くことができる。 | |
| 10 | 友達の考えや個性を理解し、互いに認め合うことができる。 | |
| 11 | 目上の人には敬語を使う。 | ○ |
| 12 | 相手や場の状況を判断した言動ができる。 | |
| 13 | 困ったときに相談することができる。 | ○ |

４つの諸能力（人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力）それぞれに１３の質問項目があり、「キャリア発達段階・内容表（試案）」を基にキャリア発達段階別に整理している。１～３が段階表によるところの小学部段階、４～８が中学部段階、９～１３が高等部段階に相当する。段階別に得点が異なり、高等部段階が高得点となっている。




人間関係形成能力

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 元気よく挨拶ができる。 | ○ |
| 2 | 大きな声ではっきりと返事をする。 | ○ |
| 3 | 清潔な服装を心がけている。 | ○ |

○でチェックを入れると得点が加算され、グラフで表示される。

・キャリア発達段階から見た「人間力」チェック表（試案）は、関係資料（ｖ－８）参照。

# Ⅵ　考察

## １　現場実習先へのアンケート実施結果

「知的障害者を雇用する場合、あなたの会社でとくに重視する力はどんな力ですか？」という質問で最も重視されたのは、「あいさつ・返事がしっかりできる」と「ルール・マナーを守ることができる」である。本校では、毎日の教育活動における取り組みとして、基礎的な生活態度面での気構えを重要視し、挨拶や返事の徹底に力を入れている。その点において、職場の意向と焦点がぶれない取り組みができていることが確認できた。「基礎学力」について重視すると答えた事業所は少ないが、「正確さ」という項目では重視する事業所が多いことも特徴としてあげられる。仕事の正確さということを考えると、文字を読んだり、数を数えたりという基礎的な学力が必要な場面も多いと考えられ、この回答から安易に基礎学力は重視されていないと考えることはできないので、さらに検証が必要である。

「知的障害者を雇用して、あるいは一緒に働いて困ったことはどんなことですか？」という質問では、「指示理解に時間がかかる」という項目への回答が突出して多い。このことから、本校生徒の障害特性についての課題が明らかになったといえる。今後、指示理解を促すための支援として、系統的なものの考え方の育成や集中力をつけることなど、各教科等で課題にして取り組んでいかなければならないと考える。また、障害特性について会社への啓発を続け、理解を深めてもらう努力もこれまで以上に続けていく必要がある。

今回は、本校生徒の現場実習先へのアンケートであったが、産業種別の区分をしていない。さらに詳しい結果を求めるならば、産業種別ごとの回答が必要である。また、卒業生が就職している事業所へのアンケート等を行うと、もう少し課題が見えてくると考える。また、これまでの本校進路指導の実践から、卒業生の追跡調査や今回と同様のアンケート、その考察などをまとめたものがある。こうしたこれまでの実践を含めて、本校生徒の課題や社会が求める力、豊かに生きていくために身に付けておきたいことなどについて理解を深め、社会が求める力について整理していければと思う。

## ２　自己評価力を高めて自己肯定感を促す授業実践

### （1）自己評価とは

自己評価の定義については諸説あるが、元東京教育大学教授橋本重治氏は「自己評価とは、生徒が、自分で自分の学業、行動、性格、態度等を評価し、それによって得た情報（知見）によって自分を確認する。」と述べている。更に教育課程審議会の答申では次のように示されている。

> 自己評価については自ら学ぶ意欲などを見る上で有効であるばかりでなく、児童生徒が自分自身を評価する力や他人からの評価を受け止める力を身につけ自己の能力や適性などを自分で確認し、将来を探求するためにも大切である。

このことから分かることは「自己評価」とは日頃の学習に主体性を持ったり、意欲を持ったり、自分の将来像を作っていく上で大切な要素であると考えられる。

## （2）自己評価力とは

「総合的な学習の時間の授業と評価の工夫」に自己評価力に言及している部分があるので以下に抜粋する。

| |
|---|
| 評価は、児童生徒にとっては、自己の良さや可能性等に気づき、その後の自己のあり方を考え、豊かな自己実現に資するものと考える。いわゆる自己学習力（あるいは、自己評価力）の向上に向けた評価の機能である。（中略）児童生徒が自らの学習の目当てを決め、その解決のために自己学習を展開し、その過程や成果を自ら振り返り（自己評価し）、以後の活動に備えるといった評価のあり方等を考えることができよう。 |

このことから現在の自分の能力を客観的に見つめ、その能力をさらに高め、次のステージに主体的に進んでいくために必要な力であると思われる。

## （3）自己評価力の発達段階

イギリスのグリーンウェイとクロウザーは自己評価力の発達段階について４つの段階を示している。

| |
|---|
| **＜第一段階＞**　知識段階<br>わたしは何々したとか、何がおもしろかったなどと言いながら、過去の出来事を思い出すことができる。 |
| **＜第二段階＞**　分析／理解段階<br>どうしてそのようなことになったか、うまくいったのはなぜか、どこがむずかしかったかなどについて述べることができる。 |
| **＜第三段階＞**　評価の段階<br>学習の状況について判断し、何を学習したか、何を達成したかを述べることができる。 |
| **＜第四段階＞**　総合の段階<br>何を学習したかについての考察を、より全体的で長期の学習の文脈の中に位置づけることができ、将来の学習の目標を設定できる。 |

これらのことから「自己評価力」とは、自他を見つめ次の目標を見つけるには必要不可欠な力であると言える。本校の生徒の多くは、障害の二次的な問題として自分に自信が持てずに主体的な行動に二の足を踏んでしまう傾向がある。「自己評価力」を 高めることは、自己肯定感を育て本校の目指す「人間力」である「働く喜びを見つけ、主体的に社会に参加しながら自立して生きていくための力」を構成する重要な要素になると考える。

### （4）本校の実践について

本校では前述の通り様々な方法で自己評価力を高める実践を行ってきた。「社会科」では「振り返りシート」を使用しての授業一時間一時間の到達度を自己評価する形式、農業コースでは２１項目の評価の観点を自己に加えて他己評価も加えながら行う形式、「縫製コース」ではステップアップ表を使用して細かく到達してほしいスキルを示し評価を行う形式、「成型コース」では「知識・技能・態度の向上のためのＣ－ＬＡＮＤ検定」と試験を行い評価していく形式と、様々な方法での実践が行われた。各コース・教科共に生徒が前向きに取り組む姿を引き出すことができ、自主性・主体性が育ってきたといえる。逆に自己を過小・過大に評価するという課題もでてきた。評価方法をさらに検討し来年度へつなげたい。

## ３　新しい評価方法の作成

今回作成したキャリア発達段階から見た「人間力」チェック表試案にある質問項目は、「キャリア発達に関わる４つの諸能力」についてそれぞれ段階別に分かりやすい言葉で表記したものである。質問の表記については、今後チェック表を実際に使用しながら、本校の生徒に合ったものかどうか確認していきたい。今回のチェック表は、「キャリア発達段階・内容表（試案）」（国立特別支援教育総合研究所）と「キャリア発達の諸能力を養う指導・支援内容段階表」（本校作成）を基にして作成したものであり、これまでの研究成果を活かしたものである。チェック表を実際に活用していくことで、「キャリア教育」の取り組みをさらに深めていくことができると考えている。また、質問の表記をより簡単で分かりやすいものにし、生徒自身がチェックできる表を作成することで、自己評価力を高め、「人間力」を高めていくことができると考えている。

今回のチェック表では、「キャリア発達に関わる４つの諸能力」の平均点を「人間力」とした。４つの諸能力は、本校の考える「人間力」（働く喜びや生き甲斐を見つけ、主体的に社会に参加しながら自立して生きていくための力）につながる基本的な諸能力であると考えるからである。また、生徒が自分で評価できるチェック表に発展させるというねらいから、分かりやすい表記にするということも考え、このようにした。

今年度は、試案作成までの取り組みであった。今後、実際にチェック表を活用しながら検証を進め、実践に活かしていければと考える。

# Ⅶ　まとめ

## １　「人間力」をどうとらえるか

社会自立・職業自立に向けた支援を大きな柱とする本校では、卒業後にどう生きていくか、そのために今何をしなくてはいけないのかについて理解を深め、生徒の自立に向けた支援をさらに充実したものにしていかなければならない。本校では、これまでの研究の成果を踏まえ、「生きる力」をはぐくむ教育実践を根幹にした取り組みをさらに深めていくことが必要であると考え、「人間力」をテーマにした研究主題を設定した。「人間力」は、平成１５年の内閣府「人間力戦略研究会報告書」では、「人間として、社会の中で、自立して力強く生きていくための総合的な力」と定義されている。本校では、主題にある「人間力」について、流山高等学園ではぐくんでいきたい「人間力」とはどのようなものなのか、この研究を通して明らかにしていきたいと考えている。「人間力」をテーマに取り組みを進めていくには、本校生徒の実態に即した流山高等学園の考える「人間力」を明らかにすることが必要である。これまでの研究成果から、「キャリア発達の視点」を踏まえた取り組みをさらに発展させ、本校の「キャリア教育」をより一層充実させて「生きる力」をはぐくむという観点から取り組みを進めた。

### （1）「キャリア教育」から「人間力」へ

「生きる力」をはぐくむ教育実践をさらに深めていくことが必要であると考え、「人間力」を主題に置いた背景として、本校の成果や課題を就労に関わる部分について整理する。

本校のこれまでの実践における成果面として、一つめは、９８％という高い就職率があげられる。専門教科だけではなく、普通教科や「ＳＴ学習」にも力を入れており、それらが相互に作用し合うことで、生徒一人一人の個の力を育てていく支援の結実であると考えている。二つめは、離職しても再就職して就労生活を送っている卒業生の割合である就労率が、約９割と高いことがあげられる。これは、本校のこれまでの職業教育や関係機関との連携の成果であると考えている。

本校の就労に関わる諸課題の一つを、卒業生の離職の主な原因から見ると、卒業時に就労した事業所での定着率と離職の原因を示した表（表Ⅶ－１）を見て分かる通り、離職の主な原因は「人間関係」と「労働意欲の減退」である。

表Ⅶ－１卒業時に就労した事業所での定着率と就労率

| 卒業年度 | 就職率 | 定着率 | 離職の主な原因 | 就労率 |
|---|---|---|---|---|
| Ｈ１１年度 | 100% | ５２％ | 人間関係（2）、意欲（1）、自主退職（6）、欠勤（3）、その他（3） | ８６％ |
| Ｈ１２年度 | 100% | ５９％ | 人間関係（3）、意欲（2）、自主退職（6）スキル（1）、その他（2） | ８６％ |
| Ｈ１３年度 | ９８％ | ７３％ | 自主退職（2）、欠勤（4）、体調不良（2）、その他（1） | ９１％ |
| Ｈ１４年度 | 100% | ７３％ | 人間関係（2）意欲（1）、自主退職（1）、欠勤（6）、その他（1） | ８４％ |
| Ｈ１５年度 | ９８％ | ７３％ | 欠勤（4）、意欲（2）、対人トラブル（4）、疾病（2） | ８４％ |
| Ｈ１６年度 | ９５％ | ８６％ | 意欲（1）、自主退職（2）、欠勤（3）、態度（1）、その他（1） | ８９％ |
| Ｈ１７年度 | ９８％ | ９１％ | 人間関係（1）、作業意欲（2）、その他（2） | ９３％ |
| Ｈ１８年度 | ９５％ | ９８％ | 事業縮小（1） | ９３％ |
| Ｈ１９年度 | ９８％ | ９８％ | その他（1） | ９５％ |

平成２０年８月現在

定着率について見ると、卒業年度が新しいほど高い定着率を示しているが、年度が古くなるに従い定着率が下がってきている。このこと自体は、古い年度ほど低い値になるのは至極当然のことと思われる。次に離職の主な原因に着目してみると、「人間関係」や「意欲の減退」が多くなっていることが分かり、この点を克服することが本校の課題の一つであると考えられる。

次に、本校の就労希望先における近年の傾向を見ると、製造業を希望する生徒が多いものの、福祉関係、事務補助作業、小売業への希望が増加する傾向が見られるとともに、当然のことながら、正社員での採用を希望する傾向が強くなってきている。全国的な傾向としては、国立特別支援教育総合研究所の平成２０年「知的障害者の確かな就労を実現するための指導内容・方法に関する研究」によると、「製造・製作」が減少し、「サービス」、「販売」、「事務」などが増加し、就労先が多様化の傾向にある。

以上のことから、次の３つのことが考えられ、また、このことはそのまま本校の課題にも通じるものである。

①コミュニケーション能力や実行力など、「人との関わりの中で仕事をする能力」が重視されてきている。

②自立する意欲を持ち続けることが大切である。

③社会の変化への対応や実践的な問題解決能力が求められている。

本校は、これまでの実践の結果から職業教育を通して「自立」のためのよりよい支援の実践を深め、高い就職率を教育の成果としてきたと言える。しかし、就労に関わる諸課題からは、就職しただけでは不十分で、コミュニケーション能力や実行力、自立への意欲、実践的な問題解決能力などが必要で、生きる力をはぐくむための支援をさらに充実させる必要があることが分かる。

こうした本校の課題を克服するために、昨年度まで取り組んできた「キャリア教育」の実践をさらに発展的なものにしていこうという考えから「人間力」を主題に置いた取り組みを進めている。また、「人間力」を高める教育実践の取り組みは、これまでの本校の教育実践を総合的にまとめるものであると考えている。これまで本校では、専門教科のあり方を研究主題にした取り組み、普通教科を研究主題にした取り組み、総合的な学習の時間のあり方を研究主題にした取り組み、そして昨年度まで行っていたキャリア教育を研究主題にした取り組みを進めてきた。「人間力」を主題に置いた取り組みを進めることは、これまでの取り組みの成果を整理し、社会自立・職業自立に必要な生きる力として、生徒にどんな力を付けたいのかを明らかにしていくことである。

### （2）「キャリア教育」と「人間力」の関係

**～共通する土台は「生きる力」をはぐくむ支援の充実である～**

**「キャリア教育」の取り組み**

「キャリア発達の視点」という共通の視点で生徒を捉え、生徒一人一人の発達段階や発達課題を明らかにして、より実践的な支援をめざす。

指導・支援内容と「キャリア発達に関わる４つの諸能力」との関連を明確にする

【人間関係形成能力】　【情報活用能力】　【将来設計能力】　【意思決定能力】

キャリア発達の視点を踏まえた授業展開や支援方法の工夫

キャリア教育の取り組みをさらに深め、コミュニケーション能力や実行力、自立への意欲、問題解決能力などを培う支援方法の工夫を行う。

**「人間力」の取り組み**

「キャリア教育」の実践を基に、これまでの取り組みをさらに発展させ、生徒が自分らしさを発揮する資質や能力を身につけ、社会人・職業人として自立して生きていくための総合的な力を培うことができるようにする。

## 2　流山高等学園が考える「人間力」

本校が考える「人間力」は、「働く喜びや生き甲斐を見つけ、主体的に社会に参加しながら自立して生きていくための力」と定義する。

「人間力」を高めるためには、生徒の自己評価力を高め、自己肯定感を促す支援の工夫を行い、社会で生きていくために必要な生活力や基礎的な知識・技能、コミュニケーション能力、問題解決能力、体力などを育む支援をニーズに応じて行うことが必要であると考える。

**流山高等学園が考える「人間力」**

働く喜びや生きがいを見つけ、
主体的に社会に参加しながら
自立して生きていくための力

本校生徒の実態・課題

**(アセスメント・個に応じた支援を行う)**

社会や会社等との関わり

**(社会生活・就労生活で必要な力を知る)**

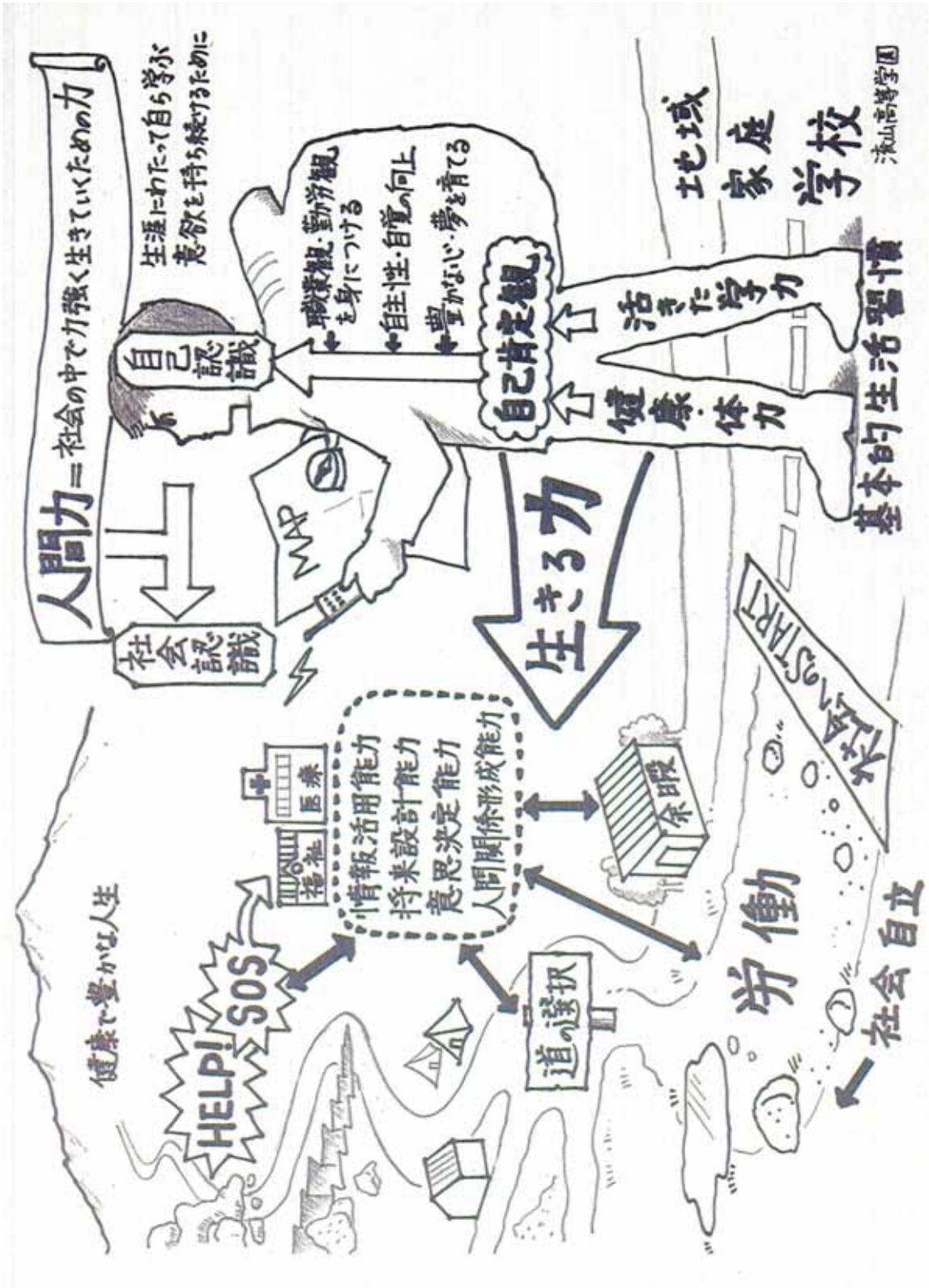
キャリア発達の視点

**(キャリア教育の継続・発展)**

・生徒の自己評価力を高め、自己肯定感を促す支援の工夫。
・社会で生きていくために必要な生活力や基礎的な知識・技能、コミュニケーション能力、問題解決能力、体力などを培う。
・自立への意欲を高めながら、実践的な問題解決能力を培う。

生きる力をはぐくむ支援の充実

「人間力」イメージ図


人間力＝社会の中で力強く生きていくための力
生涯にわたって自ら学ぶ意欲を持ち続けるために
社会認識
自己認識
職業観・勤労観を身につける
自主性・自覚の向上
夢がない・夢を育てる
自己肯定観
MAP
生きる力
活きた学力
健康・体力
基本的生活習慣
地域
家庭
学校
浜山高等学園
健康で豊かな人生
HELP!
SOS
福祉
医療
情報活用能力
将来設計能力
意思決定能力
人間関係形成能力
道の選択
余暇
START
労働
社会自立

# Ⅷ　今後の課題

## １　キャリア発達段階から見た「人間力」チェック表の活用

これまで本校が実践を重ねてきた､｢キャリア発達の視点｣を踏まえた取り組みをさらに発展させ、生徒の一人一人の発達段階を明らかにしてより実践的な支援に結びつけていくために、今回試案した「人間力」チェック表を今後の実践でどのように活用していくかが課題である。活用方法としては次のものが考えられる。
①教師の生徒理解のための評価として活用する。
②生徒の自己理解のための評価として活用する。
③個別の指導計画との連携（生徒の全体像として個別の指導計画に評価の結果を載せるなど)。
今回は試案作成までの取り組みなので、今後活用方法を工夫していくと同時に、実際に使用していく中でチェック表の内容等についても検証を進めていきたい。

## ２　本校がめざす生徒像とそれに向けた実践のあり方

本校の生徒の中には､自分に対する自信が持てず､消極的な生活姿勢に終始している生徒がいる。成功体験や充実感、成就感を持つ機会が少なく、あっても自分自身でその体験を自己肯定感へと結びつけられずにいる生徒である。中学時代までの様々な体験活動（授業）や人との関わりなどにおいて、的確な支援・指導の機会が得られず、自己肯定感や意欲的な姿勢を培えずにきたのである。このような本校生徒の実態から、社会自立・職業自立をめざす生徒にとって、自己肯定感を如何に培い、豊かな人間関係を育むかが大きな教育課題となっている。本校において、自分の成長を自分で確かめながら３年間を過ごすことはとても大切なことである。今年度は、自己肯定感を促すことで「人間力」を高めていくことができるのではないかと考え、各教科の授業で自己評価力を高めて自己肯定感を促す支援の工夫について取り組みを進めた。自己肯定感を促すもとになるものは、自己に対する的確な評価である。それは次の活動を通してもたらされるものである。
①働く喜びを得る（ものを作り出す喜び）
②全力を出し競い合う（やればできる）
③分かる喜びを味わう（教科）
④仲間と活動を共にする（委員会や行事など協力して一つのことを成し遂げる）
⑤人の役に立つ
⑥好きなことに打ち込む（部活）
⑦所属感が持てる（クラス、部活、生徒会）
こうした自己評価を高める場は学校全体にあり、普段から肯定的な自己評価ができる場を作ってきた。なかでも、支援として最も大切なのは、分かる授業の展開である。分かる授業を行い、成就感・達成感を得ることで、的確な自己評価がなされ、自己肯定感が育っていくと考える。
自己評価を高める場においては、自己肯定感を促すために自分を見つめ直す（自己評価）作業が入る。自己評価を進めるにあたって課題になるのは、適切な自己評価が生徒自身でできるか否かである。自身に対する過大評価、あるいは過小評価など、評価が適当にならないよう、自分を見つめる（評価）指針や手段（方法）が適切に設けられることが必要である。また、不適切な評価に対する指導・支援が自己肯定感のあり方を左右すると考えられ、教師側の評価のあり方、力量が求めら

れる。日々の授業、生活場面の中で意図的に教師は関わり、生徒は自分を振り返ることが自己肯定感を促すことにほかならず、教育活動の中では、自己肯定感を促すために、どのような場面でどのような支援が必要か明らかにし、整理していくことが必要である。

「人間力」を主題に置いた取り組みでは、本校が求める生徒の姿が少しずつ明らかになり、生徒を支援する上で育んでいきたい３つの柱がはっきりしてきた。それは、①働く力を育てる（物づくり、人の役に立つ)、②人間関係を豊かにする（仲間、縦割りの関係、集団)、③わかる喜び、できる喜びを味わわせる（成就感・達成感）である。これらを育んでいくために、具体的な支援の内容を整理し、どのような教育課程を組めばいいのか考えていけるようにしたい。

流山高等学園が考える「人間力」を基にして本校の教育活動を整理すると、次のようになる。

①「生活力」――――――――――――家庭との連携
②「知識・技能」――――――――――専門教科・普通教科が考える人間力
③「コミュニケーション能力」―――専門教科・普通教科・自立活動・生徒会
④「問題解決能力」――――――――ＳＴ学習
⑤「体力」――――――――――――――専門教科・普通教科・部活動

各専門コースや各普通教科がとらえる「人間力」を明らかにし、３年間でどのような力をつけて社会に送り出すのか、各教科の３年間の到達目標、教科の内容、個別の目標、支援内容・方法などの整理を進めて行くことが今後の課題である。具体的な支援の内容を整理し、明らかにしていくことで教師の意識、資質を高め、よりよい支援の工夫へ発展させていければと考える。

一方で、学校教育で終始しない「人間力」の見方、考え方にも目を向ける必要がある。特に実社会に出て行く本校の生徒は、より現実的な社会で必要な「人間力」を育むことが求められている。本校生徒が抱える課題や社会が求める力について、さらに理解を深め、日々の実践に活かしていけるようにしたい。

# Ⅸ　関係資料

☆　現場実習先へのアンケート調査内容

☆　「人間力」を高める授業実践　学習指導案

・社会科

・園芸技術科農業コース

・生活技術科縫製コース

・理科

☆　理科研究授業の記録

☆　「人間力」を高める授業実践　各教科研究授業の記録とまとめ一覧

☆　キャリア発達段階から見た「人間力」チェック表（試案）

☆　第１２回公開研究会シンポジウム記録

関係資料ｖ－１　現場実習先へのアンケート

流山高等学園では、今年度「人間力」をテーマに研究を進めています。職場での声をもとに、卒業後にどんな力が必要かについて知り、よりよい支援をめざしていきたいと考え資料を集めています。お忙しい中まことに恐縮ではございますが、アンケートへのご協力よろしくお願いいたします。

| 事業所名 | 記入者の職または部署など |
| --- | --- |
| | |

★知的障害者を雇用して感じたこと（雇用した場合に考えられること）はどんなことですか？

・知的障害者を雇用する場合、あなたの会社でとくに重視する力を５つ選んでください。

□　小学校程度の基礎学力・・・・・・・・・・・・・・・・・・（　　）
□　あいさつ、返事などがしっかりとできる力・・・・・・・（　　）
□　正確な仕事ができる力・・・・・・・・・・・・・・・・・（　　）
□　集中力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（　　）
□　仲間と会話ができる力・・・・・・・・・・・・・・・・・（　　）
□　自分の仕事内容が理解できる力・・・・・・・・・・・・（　　）
□　時間いっぱい働くことができる力・・・・・・・・・・・（　　）
□　言葉での指示が理解できる力・・・・・・・・・・・・・（　　）
□　ルール・マナーを守ることができる力・・・・・・・・・（　　）
□　自分で考えて行動できる力・・・・・・・・・・・・・・（　　）
□　力というよりも人がら・・・・・・・・・・・・・・・・・（　　）
□　力というよりも働く意欲・・・・・・・・・・・・・・・・（　　）
□　その他（　　）

・知的障害者を雇用して、あるいは一緒に働いて困ったことはどんなことですか？

・その他、学校生活の間に身に付けておいた方がよい力など、何かありましたら自由に記入してください。

※お忙しい中ご協力ありがとうございました

流山高等学園　ＴＥＬ　０４―７１４８－０２００
ＦＡＸ　０４―７１４８－００６６

関係資料Ｖ－２

# ２年Ｂ組　社会科　学習指導案

日時　　平成２０年１０月７日（火）第７校時
場所　　２年Ｂ組　教室
授業者

１　題材名　　「流通の仕組み」～小売店（スーパー）の工夫を考えよう

２　題材設定について

（１）題材設定の理由

社会科では「卒業後に必要な決まりや制度を知り、必要に応じて生活に生かす姿勢を育てる」「日常生活に関係の深い公共施設や公共物などの働きを理解し、適切に利用する」「政治、経済、文化などの社会事象に興味や関心を持ち、これらに関する基本的な事柄を理解する」を目標としている。

「流通」とは「生産者などから商品を消費者へ販売するための物・貨幣・情報の流れである」本単元では流通の最終経路である小売店特にスーパーマーケット（以下スーパー）に焦点をあてて授業を展開したい。

現代社会において流通経路が多様化している。特にチェーン店のスーパーでは独自の流通経路を持っており、それは消費者に安心して品物を買ってもらいたいという願いが根底にあることを気づかせたい。さらに消費者には様々なニーズがありそれに応えようとする店側の工夫や努力にも目を向かせたい。しかし、企業側の最終的な目的は「利潤の追求」であり、資本主義社会において押さえなければならないポイントである。昨今の食の安全を脅かす事件と絡めて生徒の思考を深めていきたい。

流通の最終経路にあたる小売店は生徒が社会生活をする上で利用する可能性が高いし、学級全員が利用の経験がある。消費者の立場から上手な買い物をするために必要な知識や思考力を身につけてもらいたい。逆に企業側が利潤追求のためにどのような工夫をしているのかは職業自立をする上で重要と思われる。双方の立場に立ち思考を巡らすのは人間力を向上させることを願っている。さらに小売店の行っている事実に関して「どうしてだろう」と考えることによって思考力の育成を図っている。さらに考えたことをワークシートに整理し発表することによって「表現する力」も育てていきたい。これらの力は間接的ではあるが人間力を育てていく一助になることを願っている。

（２）キャリア発達との関連

○人間関係形成能力　・店員と客になり、ロールプレイングを行うことによりいろいろな立場になる。
　　・自分の意見を発表できる。
○情報活用能力　　・小売店が実際に行っている工夫を理解することができる。
　　・自分の小売店に関するエピソードを発表する。
○将来設計能力　　・自分の消費生活についてイメージができる。
○意思決定能力　　・「買う人の願い」について思考を巡らすことができる。

・スーパーの店員の客に対する対応を考えることができる。

3　題材の目標

〇生産から消費者に渡るまでの流通の経路がわかるようにする。
〇流通の最終経路である小売店舗の工夫を考えることができる。
〇資料から企業側の工夫を読み取ることができる。

4　指導計画（２時間扱い）

| | 目標 | 学習内容 |
|---|---|---|
| （第１回）10 月７日<br>【本時】 | ・スーパーの工夫を考えることができる。<br>・買う人の願いを考えることができる。<br>・簡単な役割演技をすることができる。 | ・流通の最終経路である小売店の仕事を知る。<br>・小売店（特にスーパー）の工夫をロールプレイで演じる。 |
| （第２回）11 月４日 | ・小売店の種類を理解することができる。<br>・コンビニ、スーパー、ホームセンターの違いを考えることができる。 | ・コンビニエンスストアとスーパー、ホームセンターなどの小売店の違いを理解する。 |

5　本時の指導

（１）ねらい

〇スーパーの工夫を考えることができる。
〇買う人の願いを考えることができる。
〇簡単な役割演技をすることができる。

（２）展開

| | 学習活動 | 学習への支援 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 5 | 1　あいさつ<br>2　今日の学習内容・学習課題を確認する。<br>情報活用能力 | ・今日の学習の流れを黒板の右端に貼り、現在行っている項目に矢印をつける。 | |
| | 働く人の工夫は、買う人の願いにどのようにつながっているのだろう | | |
| 35 | 3　取材ビデオを見ながら「働く人の工夫」についてワークシートに記入をする　情報活用能力<br><br>4　買う人の願いについて考えワークシートに記入する。情報活用能力 | 【気づいてほしい点】<br>・野菜売り場には生産者の写真が各野菜の近くに掲示してある<br>・防犯カメラがあ<br>・カートがある<br>・品物の並べ方<br>・安売りの商品がある<br>・店員が笑顔で接している。<br>【出してほしい意見】 | ＶＴＲ<br>ワークシート |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 5　買う人の吹き出しを書いたワークシートに働く人の立場になって吹き出しに書き、それをもとに簡単な役割演技をする。意思決定能力 将来設計能力　人間関係形成能力 | ・安い商品がほしい<br>・安全な商品がほしい<br>・新鮮な食材がほしい<br>・たくさんの在庫の中から選びたい。<br>・簡単な役割演技をする前に吹き出しに書くようにアドバイスする。<br>・教室をスーパーマーケットに見立てることができるようエプロンを用意したり店の様子を教室に張る。<br>・どのような店員（販売者）が買う人（消費者）にとってよいかを考えるようにアドバイスをする。 | |
| 5 | 6　ワークシートに自己評価を記入し今日の授業を振り返る。<br>意思決定能力<br>7　あいさつをする。 | ・キャリア発達にそくした 評価項目を立て、どこが弱いかを振り返ることができる評価表にする。 | 振り返りシート |

（3）評価

①学習の評価

・スーパーの工夫を考えることができたか。

・買う人の願いを考えることができたか。

・簡単な役割演技ができたか。

②支援の評価

・書き込みやすいワークシートだったか。

・買う人の願いと工夫とがリンクしていることをわかりやすく説明できたか。

（4）板書計画

**小売店（スーパー）の工夫を考えよう**

【働く人の工夫】

防犯カメがある　生産者の写真がある　たくさんの商品がきれいにがならべてある　カートがある　安売りの商品がある

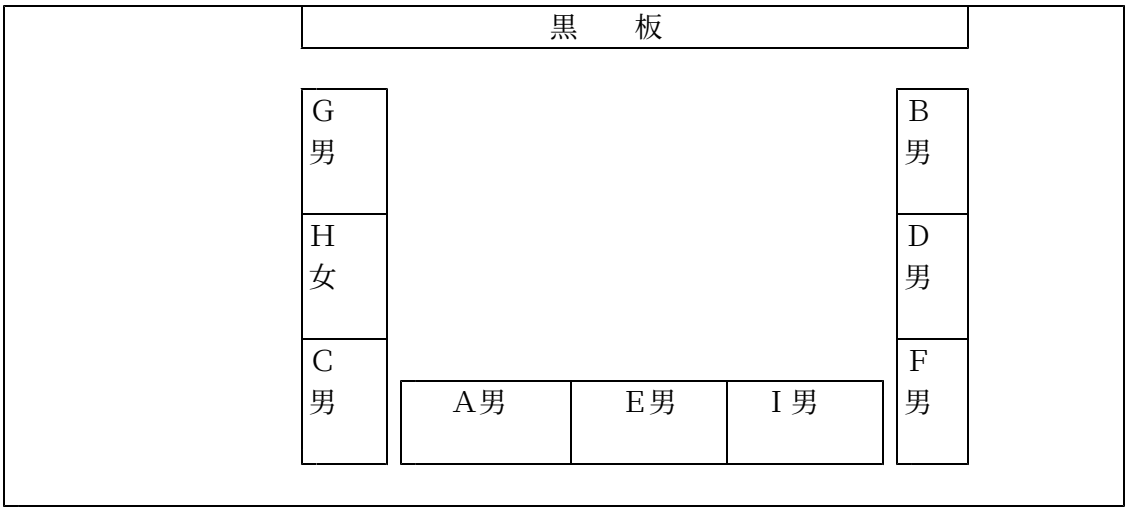
【買う人の願い】

たくさんの在庫の中から選びたい　安全な商品がほしい　安い商品がほしい

→1．店員の工夫を考える
2．買う人の願いについて考える
3．役割演技をする
4．振り返り

（5）配布プリント（別紙参照）

（６）場の設定




【資料】　生徒の様子と本時の目標

| | 生徒の様子 | 本時の目標 | 手だて |
|---|---|---|---|
| A男 | とても真面目な態度で授業に取り組む。質問の内容などの理解が不十分でないことがある。 | スーパーの工夫している点に気づき、ワークシートに書くことができる。 | 絵の吹き出しを利用したり、現在行っていることを黒板に示す。 |
| B男 | 積極的に授業に参加するが発表する内容をよく考えずに質問の意図とは異なる発言をしてしまうことがある。 | スーパーの工夫していることを踏まえながら役割演技をすることができる。 | ワークシートの吹き出しの中にきちんと自分なりの客への対応の仕方が書いてあるか確認する。書いてない場合ヒントを出して助言をする。 |
| C男 | 建設的な社会的な思考ができる。社会的な知識もたくさん持っている。 | スーパーの店員の立場に立って役割演技の台詞を考えることができ、堂々と演じることもできる。 | 授業の中にビデオなど視覚的なヒントを数多く隠しておく。 |
| D男 | ワークシートへの記入など頑張って知識を吸収しようとする意欲が感じられる。物事をより深く思考することが弱い。 | ＶＴＲを見ながら店員の工夫している点に気づき、ワークシートにまとめることができる。 | ＶＴＲを視聴するときにポイントとなる点を説明しながらビデオを流す。 |
| E男 | 授業中の発言が多く意欲が感じられる。ワークシートへの書き込みが苦手で書けないことが多い。 | 箇条書き、一つの文をどんどんワークシートに書き込むことができる。 | ワークシートへ書き込むときに頭に浮かんだことをすぐにワークシートに書くようにアドバイスをする。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| Ｆ男 | 社会的な知識は多く持っており、授業中の発言も多い。発問の意味を理解するのに時間がかかる。 | スーパーの店員の立場に立った台詞を考えることができる。 | ＶＴＲ、コミック会話風な吹き出しなど、視覚的な教材を意識的に盛り込む。 |
| Ｇ男 | 物事への理解度は高く当を得た発言ができる。思考を深めるまで至らないことがある。 | なぜ防犯カメラがあるのか。なぜ生産者の写真があるのか考え発表することができる。 | ＶＴＲをさらっと流すことなく、気づいてほしい点は強調する。 |
| Ｈ女 | 教師がなにをねらっているかすぐに理解して課題に取り組むことができる。 | 働く人の工夫と買う人の関連性に気づくことができる。 | 職場実習での体験を想起できるようにアドバイスをする。 |
| Ｉ男 | 真面目に授業に取り組んでいる。自分の考えを表現するのが苦手である。 | 店員の立場に立って堂々と役割演技ができる。 | 自分の役割がはっきりとわかるような吹き出し付きのワークシートを提示する。 |

# 社会科ワークシート

学習日　　年　　月　　日　　曜日

## 流通の仕組～小売店（スーパー）の工夫を考えよう

★今日のテーマ

働く人の工夫は、買う人の願いにどうつながっているのだろ

**1．ビデオを見ながらスーパーの工夫で気がついた点をワークシートにまとめよう。（箇条書きで）**

**（例）・店員が笑顔であいさつをしている。**

**2．スーパーマーケットで買い物をする人はどんな願いを持っているだろう。（箇条書きで）**

**（例）・たくさんの種類の中から選びたい。**

２年　　組　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

3．スーパーの店員になったつもりでお客さんへの対応を考え、吹き出しに自分のセリフを書き入　れよう。

# 今日の授業振り返りシート

今日の授業を自己評価で振り返りましょう。

| 授業日 | 平成２０年　　月　　日　　曜日 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 単元名<br>**「流通の仕組み」（スーパー）の工夫を考えよう** | | | | |
| | 評価項目 | 自己評価 | | |
| 1 | ビデオを見ながらスーパー側の工夫を３つ以上見つけることができた。【情報活用】 | 3<br>３つ以上見つけられた | 2<br>１つ以上３つ以下だった | 1<br>一つも見つけられない |
| 2 | 「買う人の願い」を考え３つ以上ワークシートに書くことができた。【意思決定】 | 3<br>３つ以上見つけられた | 2<br>一つ以上３つ以下だった | 1<br>一つも見つけられない |
| 3 | 役割演技で友達と仲良く演じることができた。<br>【人間関係形成】 | 3<br>とても仲良く演じられた | 2<br>仲良く演じられた | 1<br>仲良く演じられなかった。 |
| 4 | 将来スーパーで買い物をしたり、仕事をする上で大変勉強になった　【将来設計】 | 3<br>とても勉強になったと思う | 2<br>まあまあ勉強になった | 1<br>勉強にならなかった。 |

※番号（３・２・１）に〇をつけてください。

●今日の授業の感想を書きましょう

２年　　組　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

関係資料Ｖ－３

# 園芸技術科農業コース学習指導案

日　時　　平成２０年１２月９日（火）
　　第１校時～第４校時
場　所　　農業実習室・温室・らくらく畑
　　しんぷる畑
授業者　　Ｔ１　Ｔ２　Ｔ３　Ｔ４
　　Ｔ５　Ｔ６　Ｔ７　Ｔ８　Ｔ９

１、単元名　　「冬野菜の収穫と食品加工」

２、単元設定について

（１）単元設定の理由

農業コースは各学年９名合計２７名（男子２３名女子４名）で構成されている。日々の活動は、通常１年生から３年生を縦割りにして、各学年３名ずつ計９名のグループで活動している。３年生のグループ長、２年生の副グループ長を中心にして、準備から後片付けまで行っている。活動は教師の説明や指示で行われるが、グループ長はリーダーとしての意識も強く、挨拶や仕事の分担、簡単な指示などを行い、グループをまとめている。

農業コースでは、農業実習を通して、社会自立・職業自立の力を養うために、年間を通して四季折々の野菜を、４ヶ所に分かれている畑（校内の畑・らくらく畑・どきどき畑・しんぷる畑）と、温室の水耕で栽培している。実習は播種から、栽培・収穫・販売までの一連の活動を、生徒個々が意識して取り組めるようにしている。１年の実習計画を大きく分けると、４月から前期現場実習まで、春・夏野菜の作付けを行い、前期現場実習後夏休みまでが、夏野菜の収穫を行う。夏休みは土壌の消毒をして、土を休ませる。夏休み後、後期現場実習までが、秋・冬野菜の作付けを行い、現場実習後はKOYO祭にむけて、秋・冬野菜の収穫になる。KOYO祭が終わると、冬野菜の収穫に加えて、収穫した野菜を利用した「食品加工」を行う。年が明けると、土作りをして、春・夏野菜の準備になる。収穫した野菜は、校内で注文をとって販売したり、地域に訪問販売にいったり、各種販売会に参加して、販売している。天候や野菜の生育具合で実習予定が変わることもしばしばである。１年を通して繰り返し行うことが難しい作業だけに、どの活動についても作業の手順とポイントを明確にすることで、「効率のよい仕事」と「確実な仕事」をするという意識がもてるように支援していくことが大切であると考えている。

本単元は、KOYO祭・校外学習終了後、冬休みまでの期間で取り組むものである。KOYO祭で自分たちの作った野菜が皆さんに喜んでいただけることを実感し、実習に対して新たな意欲付けになった。コース校外学習で、学年ごとに食品加工に関係する「そば」・「味噌」・「落花生」などの工場見学し、食品加工に対する興味関心を高めて、冬休みまでの期間を「冬野菜の収穫と食品加工」という単元で取り組んでいる。

KOYO祭という大きな行事を終え、またひとつ、生徒の中に農業の実習に対する自信が生まれた。農業コースでは、教師の指示を受けてからの活動が多いが、本単元では、教師が最初に全体の仕事内容と全体の流れの指示を行い、実習の中では、グループ長を中心に、全体の流れや次の仕事を生徒一人一人が意識しながら活動できるように支援していきたい。そのような中で主体的に活動し、働く喜びを見つけ、人間力を高めるための専門実習としていきたい。

（２）キャリア発達との関連

○人間関係形成能力

・報告・相談・確認などを適時行い、仲間と協力しながら収穫することができる。

・自分の仕事が、全体の中で大切な一部の活動であることを理解して、仕事をすることができる。

〇情報活用能力
・それぞれの作業に必要な道具を正しく使うことができる。
・全体の流れを理解して作業に取り組むことができる。
〇将来設計能力
・販売した野菜や食品加工品がお客様に喜んでもらえることをイメージしながら、仕事をすることができる。
・育ててきた野菜に愛情を持ち、収穫の喜びを味わうことができる。
〇意思決定能力
・自分で目標を持って、根気強く収穫に取り組むことができる。
・すばやく丁寧に仕事を進めることができる。

３、単元の目標
〇全体の流れや次の仕事を生徒一人ひとりが意識しながら活動できる。
〇冬野菜の収穫や食品加工に興味を持ち、意欲的に収穫に取り組むことができる。
〇仲間と協力しながら作業を進めることができる。
〇収穫の喜びを味わいながら大切に収穫し、今後の作業にいかすことができる。
〇収穫した野菜を加工し、食品にする喜びを味わうことができる。

４、指導計画（５７時間扱い）

| 月　　日 | 学　習　内　容 |
|---|---|
| 第１回１１月２５日（火） | ネギの収穫・白菜の収穫・リーキの収穫 |
| 第２回１１月２６日（水） | 大根の収穫と干し・訪問販売<br>ほうれん草の収穫・ネギの収穫 |
| 第３回１１月２８日（金） | 小松菜の播種・ほうれん草の播種・切り干し大根作り<br>白菜の収穫 |
| 第４回１２月　１日（月） | ネギの収穫・大根の収穫・ソラマメの畝作り<br>ニンニクの畝作り |
| 第５回１２月　２日（火） | カブの収穫・ネギの収穫<br>ゆず大根作り |
| 第６回１２月　３日（水） | カブの収穫・ポップの選別 |
| 第７回１２月　４日（木） | 大根の収穫・カブの収穫・ミズナの播種 |
| 第８回１２月　５日（金） | ニンニクの作付け・ネギの収穫・大根の収穫 |
| 第９回１２月　８日（月） | ほうれん草の収穫　ゆず大根作り・切干大根作り |
| 第10回１２月　９日（火）<br>【本時】 | ネギの収穫・ミツバの収穫<br>ニンジンの収穫 |
| 第11回１２月１０日（水） | ネギの収穫・切干大根の袋詰め<br>ミズナの定植 |
| 第12回１２月１２日（金） | ターサイの収穫・ミツバの定植<br>春菊の収穫 |
| 第13回１２月１５日（月） | ニンジンの収穫・ネギの収穫・みその切り返し |
| 第14回１２月１６日（火） | 収穫祭 |
| 第15回１２月１９日（金） | 玉ねぎの畝間の除草・カリフラワーの収穫 |

| | |
|---|---|
| | ポップの選別 |
| 第16回１２月２２日（火） | 大掃除 |

５、本時の指導（３４時間目/総時数５８時間）

（1）ねらい

〇全体の流れをみながら、次の自分の仕事を気がつくことができる。

〇ネギやミツバ、ニンジンを傷めないように収穫、調整し、見映えよく袋詰めすることができる。

〇仲間と協力しながら、作業を進めることができる。

（2）展開

全体の流れ

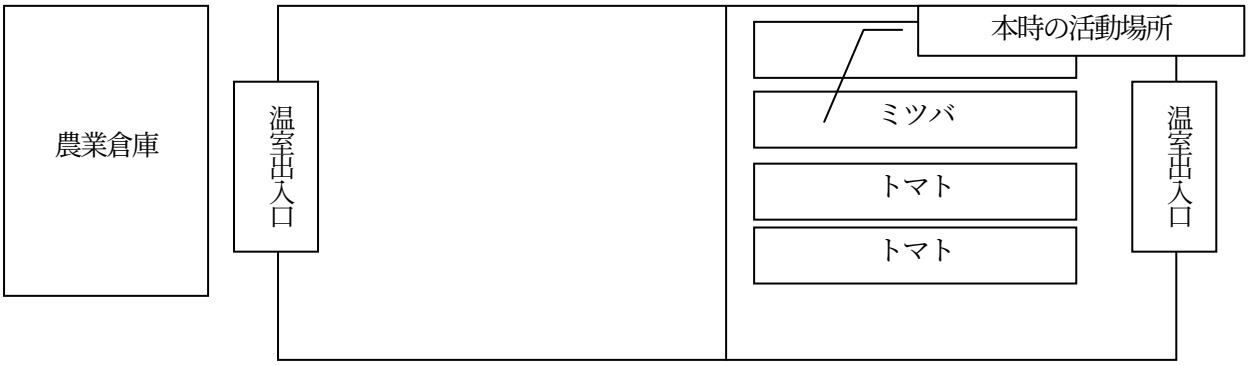
| 時　配 | 学　習　活　動 | 学　習　へ　の　支　援 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| １５分 | 〇始めの会（コース長が司会をする。）<br>・準備体操<br>・挨拶<br>・出席確認<br>・作業内容の確認<br>・先生から（Ｔ１）<br>・作業開始の挨拶<br>情報活用能力<br>**１日の作業内容を知り、活動の見通しを持つ** | ・始業前に、グループ長・副グループ長が、実習内容を見て、道具の準備をするように支援する。<br>・簡単に本時の活動内容を説明し、流れが理解できるようにする。 | |
| 150分 | 〇各グループに分かれて、活動する。<br>展開１・Ａグループ　温室<br>展開２・Ｂグループ　らくらく<br>展開３・Ｃグループ　しんぷる | ・コース長の指示で移動できるようにする。 | |
| １５分 | 〇終わりの会（コース長が司会をする。）<br>・グループごとの活動報告<br>・先生から（Ｔ１）<br>・挨拶<br>将来設計能力 | ・各自が本時の活動を振り返ることができるようにする。<br>・授業者が本時の様子を評価し、今後に生かせるようにする。 | |

展開１　【Ａグループ・ミツバの収穫～袋詰め】　　指導者　Ｔ２・Ｔ７

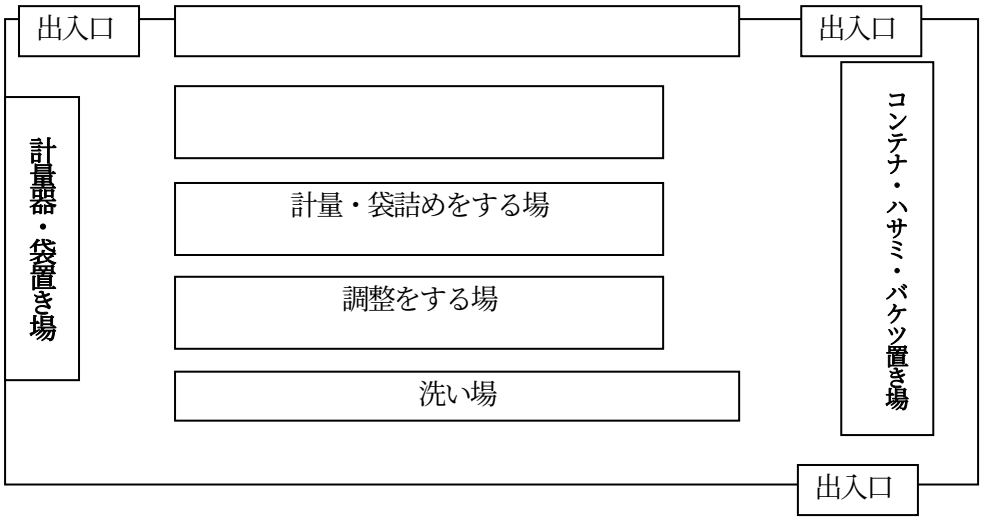
| 時配 | 学　習　活　動 | 活　動　へ　の　支　援 | 備考 |
|---|---|---|---|
| | **ミツバの収穫から袋詰めまで仲間と協力しながら、できるだけ生徒たちの力で作業を進める** | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ５分 | ○道具の確認とメンバーの確認を行い、温室に移動する。　　情報活用能力 | ・Ｔ２が主指導を行い、Ｔは随時個別指導を行う。生徒の役割分担は、その場で話し合いで決めていくが、時間をかけないですぐ決められるように支援する。また、グループ長に協力できるように支援する。 | コンテナ |
| ５分 | ○作業手順と内容の確認を行う。<br>・グループ長を中心に仕事内容や分担を話し合って決める。<br>人間関係形成能力 | | |
| ３０分 | ○ミツバの収穫を行う。<br>・黄色のコンテナにミツバをいれる。<br>・いっぱいになったコンテナは、実習室に運ぶ。<br>・全部収穫が終わったら、トレイを洗い、温室の清掃を行う。 | ・収穫の喜びが味わえるような話をする。<br>・商品であることを意識できるよう、ミツバをていねいに扱うことを伝える。<br>・葉が傷まないように、向きをそろえて、コンテナにいれているか、確認する。<br>・ミツバを傷めないようコンテナに入れているかチェックする。 | |
| ４５分 | ○ミツバの調整をする。<br>・はさみで根やスポンジを切り取る。<br>・枯れ葉や小さな茎を取り除く。<br>情報活用能力<br>意思決定能力 | | はさみ<br>バケツ |
| ４０分 | ○袋詰めを行う。<br>・秤で計量し袋に詰める。<br>・袋詰めしたミツバをコンテナにいれる。<br>情報活用能力 | ・計量する前に、秤のゼロ点調節をきちんとして、正しく使えているか確認する。<br>・１回袋に詰めて見せ，280ｇ～300ｇで計量することを確認する。<br>・コンテナに入れる際は傷まないように，かつ数えやすいよう入れていくことを声かける。<br>・清掃後，次回の定植がスムーズに始められるように清掃できたか点検する | はかり<br>袋<br>コンテナ |
| １５分 | ○後片付けをする。<br>・使用した道具を洗い、片付ける。<br>・実習室の清掃を行う。<br>情報活用能力 | | |

【温室】




【農業実習室】



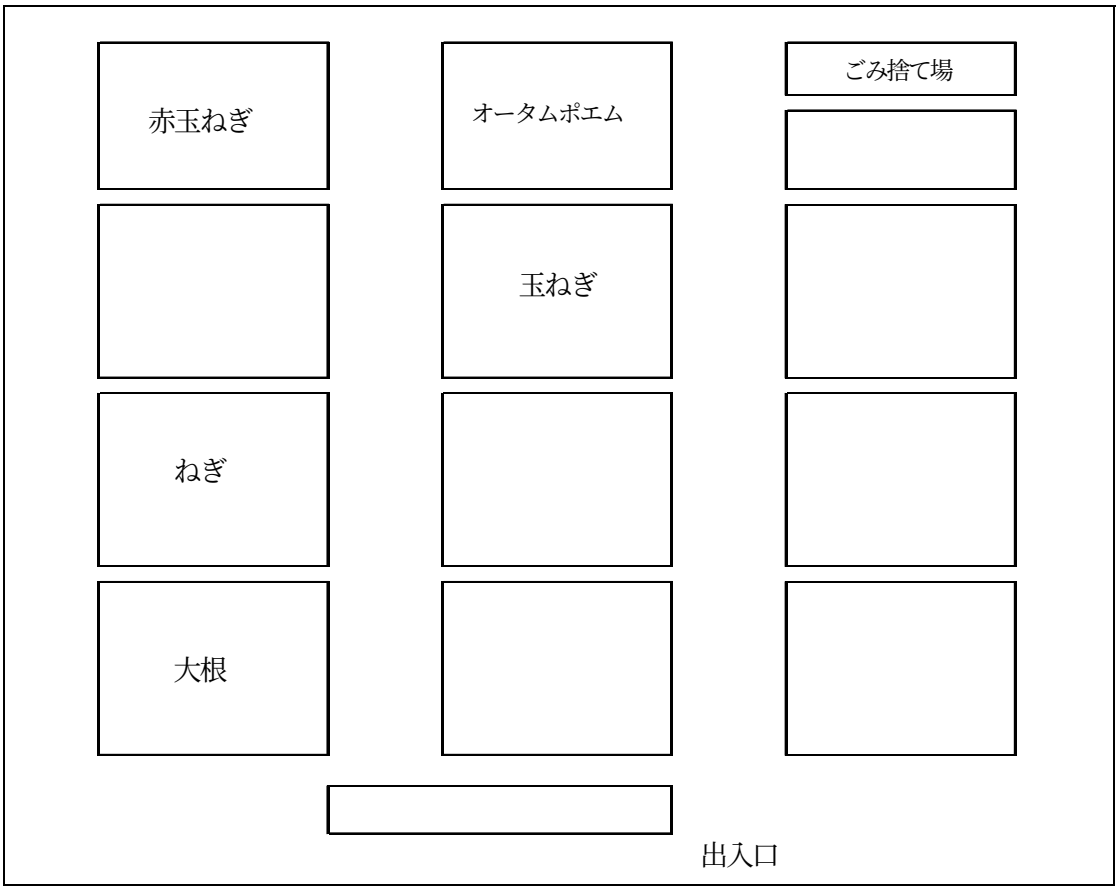

展開２　【Ｂグループ・ネギの収穫～袋詰め】　指導者　Ｔ３・Ｔ５

| 時　配 | 学　習　活　動 | 学　習　へ　の　支　援 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| １５分 | **ネギの収穫から袋詰めまで仲間と協力しながら、できるだけ生徒たちの力で作業を進める** | | |
| | ○道具の確認とメンバーの確認を行い、らくらく畑に出発する。<br>情報活用能力<br>○移動<br>らくらく畑に到着したら、道具をリヤカーからおろし、ねぎの畑の前に集合する。 | ・安全に移動できるように交差点など車に注意するよう促す。<br>・リヤカーの運転などの役割分担は、随時話し合って決めていく。<br>・リヤカーの運転に気をつけ、坂道では協力して後ろから押し、持ち上げられるようにする。 | リヤカー<br>クワ<br>ブルーシート<br>ござ<br>ビニール袋<br>かご |
| １０分 | ○これまでのねぎの収穫の活動を振り返りながら、作業手順と内容の確認を行う。 | ・Ｔ３が全体指導を行い、Ｔ５は個別に理解できているか、 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 情報活用能力<br><br>〇ねぎの収穫のための準備を行う。<br>意思決定能力　人間関係形成能力<br>・ねぎの畝をクワでくずす。<br>・ブルーシートとゴザをひろげる。<br>黄色のかごにビニール袋をわけていれる。 | 随時確認する。Ｔ９はトラックの運転を行う。<br><br>・ねぎの収穫の流れが、理解できたか、確認する。<br>・わからないことは自分から相談するように確認する<br>・ねぎの収穫の喜びを感じられるような話をする。 | |
| ３０分 | 〇収穫　全員でねぎを抜きブルーシートにそろえて並べる。<br>・１畝収穫後畝をならして、隣の畝をクワでくずす。<br>・ネギが並べきれないときはブルーシートを追加する。 | ・根を傷つけないよう注意しながら、クワを使うように促す。<br>・商品であることを意識できるよう、ねぎをていねいに扱うことを伝える。 | |
| ３０分 | 〇並べたねぎの調整を行う。<br>・枯葉を除去して、形を整える。<br>・商品にならない細いネギや、形の悪いネギをゴザの上に置く。<br>意思決定能力 | ・次の作業のことを考えて重ねずに並べられるようにアドバイスする。 | |
| ３０分<br><br>１５分 | 〇袋詰めをする。<br>・ネギを５本組にする。<br>・太いねぎと細いねぎを組み合わせて、・５本ずつの固まりにする。<br>意思決定能力<br>・５本を袋に詰める（２人）<br>・二人組で５本組になっているネギを　袋にいれる<br>人間関係形成能力 | ・全体のバランスを見て葉を取り過ぎないよう、必要に応じて見本を示す。<br>・３人の中の役割分担はその場で話し合って協力して決める。 | |
| | 〇トラックに積み込む。<br>人間関係形成能力 | ・二人組で協力して、能率よく作業できるよう確認する。 | |
| １０分 | 〇後片付けをする。<br>・２畝終了したら、ごみを捨て、畑を平らにする。<br>・使った道具を確認してリヤカーに片付ける。<br>情報活用能力<br>〇移動<br>・安全に注意しながら、学校にもどる。 | ・袋の底まで入っているか確認を行う。<br><br>・同じ向きに整然と入れるようにアドバイスをする。 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| １０分 | ○後片付けをする。<br>・道具を洗い、乾かす。<br>・ねぎをトラックからおろし、農業倉庫に保管する。<br>人間関係形成能力<br>※作業の進み具合や、天候を考え、活動の切れのよい所で休憩をいれる。 | ・忘れ物がないように、畑をきれいにして終わるようにする。<br>・道具には土が残らないようにていねいに洗うように支援する。 | |

【らくらく畑】

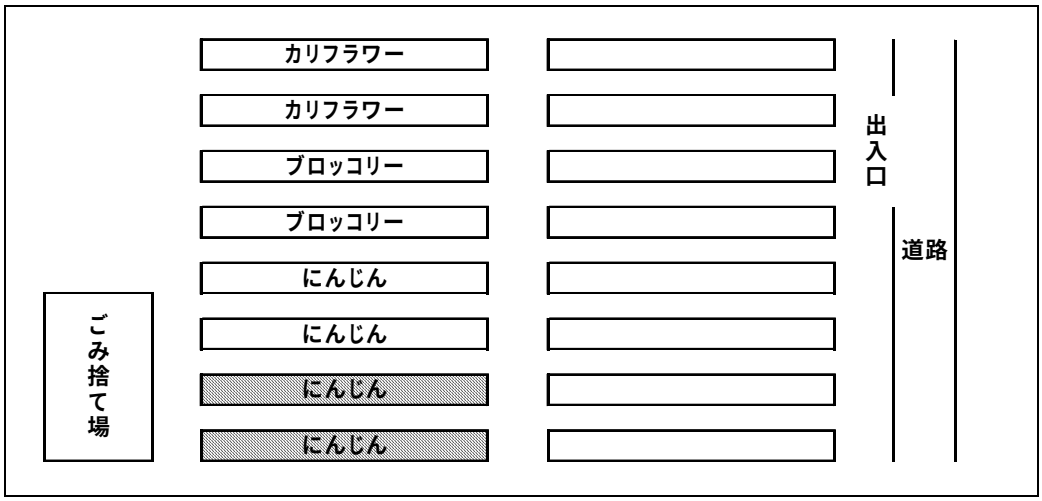



展開３　【C グループ・ニンジンの収穫～袋詰め】　指導者　T4・T8

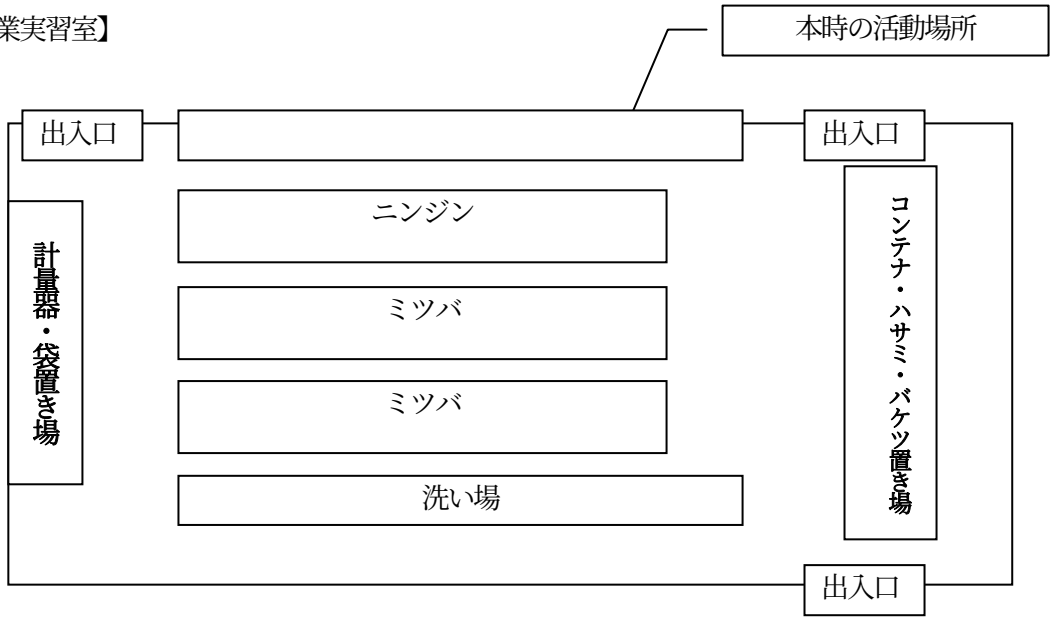
| 時　配 | 学　習　活　動 | 学　習　へ　の　支　援 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| １０分 | **ニンジンの収穫から袋詰めまで仲間と協力しながら、できるだけ生徒たちの力で作業を進める** | | |
| | ○道具の確認とメンバーの確認を行い、しんぷる畑に出発する。<br>情報活用能力 | ・安全に移動できるように交差点など車に注意するよう促す。 | リヤカー<br>クワ<br>ブルーシート |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ○移動<br>しんぷる畑に到着したら、道具をリヤカーからおろし、ニンジンの畑の前に集合する。 | ・リヤカーの運転などの役割分担は、随時話し合って決めていく。<br>・リヤカーの運転に気をつけ、坂道では協力して後ろから押し、持ち上げられるようにする。 | ござ<br>ビニール袋<br>かご |
| ５分 | ○ニンジンの収穫の作業手順と内容の確認を行う。<br>・グループ長を中心に仕事内容や分担を話し合って決める。<br>人間関係形成能力　　情報活用能力 | ・Ｔ４が全体指導を行い、Ｔ８は個別に理解できているか、随時確認する。<br>・収穫の喜びを味わえるような話をする。 | |
| ４５分 | ○ニンジンの収穫を行う。<br>・黄色のコンテナにニンジンをいれる。<br>・いっぱいになったコンテナは、リヤカーに運ぶ。<br>・全部収穫が終わったら、マルチをはずし、レーキをかけてきれいにする。<br>・使った道具をリヤカーに運ぶ。 | ・ニンジンの葉を傷めないようにコンテナに入れているか確認する。<br>・A 級品、B 級品、捨てるニンジンの確認をする。 | |
| １０分 | ○移動<br>・安全に気をつけながら、学校にもどる。 | | |
| ４５分 | ○ニンジンの洗い、調整を行う。<br>・舟に水をはり、スポンジでニンジンを洗う。<br>・枯れ葉や小さな葉を取り除く。 | ・ていねいに、手早くできるように声をかける。<br>・調整のポイントを確認する。 | |
| １５分 | ○袋詰めを行う。<br>・5 本組にして、袋に入れる。<br>・袋詰めしたニンジンをコンテナにいれる。<br>意思決定能力 | ・できあがりの見本を示す。 | |
| １０分 | ○後片付けをする。<br>・使用した道具を洗い、片付ける。<br>・洗い場・実習室の清掃をする。<br>・できた袋数を数え、黒板に記入する。<br>情報活用能力<br><br>※作業の進み具合や、天候を考え、活動の切れのよい所で休憩をいれる。 | ・後片付けがきちんとできているか、確認する。 | |

【しんぷる】




【農業実習室】




（3）評価

①学習の評価

〇全体の流れを見ながら、次の自分の仕事に気がつくことができたか。

〇ねぎやミツバ、ニンジンを傷めないように収穫、調整し、見映えよく袋詰めすることができたか。

〇仲間と協力しながら、作業を進めることができたか。

②支援の評価

〇　授業の導入部では，作業に対する意識を高める事ができたか。

〇　授業の展開では，取り組む活動をしっかりと意識させ，見通しを持たせることができたか。

〇　活動場面では，余分な支援をせずに，常に自分・友達同士で考え手から活動できるような支援ができたか。

〇一人一人の実態に合わせた、適切で具体的な支援ができたか。

６，生徒の様子と本時の目標

Ａグループ　　ミツバの収穫

| | 生徒の様子 | 本時の目標 | 手だて |
|---|---|---|---|
| A男<br>グループ長 | 作業に対して見通しをもって動くことができる。効率よく作業をするためにはどうしたらよいかを考えながら仕事ができる。 | ・全体の動きを確認しながら、仲間に適切な声かけをすることができる。 | ・事前に作業の手順を確認しておく。 |
| B男<br>コース長 | 作業に対して慎重で、きめ細かい指示で作業を進めることができる。 | ・商品であることを意識して見栄えよく調整する。 | ・作業に入る前にポイントを確認しておく。 |
| C女 | 具体的な指示があれば、時間いっぱい取り組むことができる。時間をかけて丁寧に作業をする。 | ・時間を意識して作業に取り組むことができる。 | ・行程終了時間の目安を伝え、時間を意識するように促す。 |
| D男<br>副グループ長 | 作業の流れを理解しており、指示があるとすぐに作業に取り組むことができる。 | ・相手に伝わる声の大きさで報告や相談ができる。 | ・報告の声が小さいときは声をかけてやり直す。 |
| E男 | 指示に対して理解が早く、作業に対して積極的に取り組むことができる。 | ・周りの状況を見て、適切な言動がとれる。 | ・事前に作業工程を確認しておく。 |
| F男 | あいさつや返事がしっかりしていて、作業に対して時間いっぱい集中して取り組むことができる。 | ・全体の流れを理解して、調整や袋詰めの作業に自主的に取り組む。 | ・事前に作業の手順を確認し、見通しをもてるようにする。 |
| G男 | 口頭での指示理解が難しい。作業のポイントが理解できると丁寧に行うことができる。 | ・作業内容や手順がわからないときはすぐに確認や相談ができる。 | ・事前に本時の目標を確認しておく。 |
| H男 | 力仕事は意欲的に取り組むことができるが、単調な作業を持続させることが難しい。返事や報告の声が小さく注意を受けることが多い。自分で考えて作業に取り組むことが課題。 | ・時間いっぱい集中して作業に取り組むことができる。<br>・大きな声で報告や相談ができる。 | ・事前に本時の目標を確認しておく。<br>・声が小さいときは声をかけてやり直す。 |
| Ｉ女 | どのような仕事にも意欲的で、時間いっぱい集中して作業ができる。正確な作業をすることが課題。 | ・三つ葉の調整や袋詰めを正確に行う。 | ・事前にポイントを確認し、時々言葉をかけ、意識させる。 |

Ｂグループ　　ネギの収穫

| | 生徒の様子 | 本時の目標 | 手だて |
|---|---|---|---|
| A男 | 作業によって意欲的である。周囲の様子を見て行動することができ、ネギ収穫の工程をほぼ覚えている。調整で不安な点は相談できる。 | ・ 作業の流れを覚え、自分から周囲の様子を見て次の作業に移ることができる。 | ・次の作業がわからない時は自分から相談するよう確認する。 |
| B男 | 意欲はあるが、自分から進んで作業に取り組むことに躊躇してしまうことがある。ネギ収穫の工程をほぼ覚えている。 | ・周囲の様子を見て次の作業に移ることができる。不明な点は確認し、自信をもって取り組む。 | ・周囲の様子を見て動くように事前に確認をする。 |
| C男 | 全体の指示ではなかなか作業に取りかかれないが、作業内容を具体的に説明すると、ていねいに作業することができる。 | ・ネギ調整の注意点をよく確認してから取りかかり、作業の流れを知ることができる。 | ・不明な点は事前に相談するよう確認をする。 |
| D男 | 作業内容を良く理解して取り組むことができる。後輩と積極的に会話して教えることが少ない。 | ・ネギの調整の仕方や、A級品、B級品の違いなどをていねいに教えることができる。 | ・グルーピングを工夫し、一年生とペアを組むようにする。 |
| E男 | 正確さを意識しながら作業に取り組むことができるが、取りかかるまでに時間がかかることや何をしていいかわからずにたたずんでしまうことがある。 | ・時間いっぱいに仕事を行うことができる。<br>・次に行う仕事を見通して指示を待たずにどんどん行う。 | ・たくさんの作業を用意する。<br>・複数の指示はメモを取るように助言する。 |
| F男 | 積極的に「はいやります」と素直に仕事に取り組むことができる。細かい仕事は苦手で大雑把に行ってしまうことがある。 | ・調整は枯れた葉をつけないように正確に行うことができる。 | ・見本を常に提示し、比較して調整できるようにする。 |
| G男 | ネギの調整では、葉を剥きすぎてしまうことがあった。確認をすれば正確に作業することができ、自信もって取り組むことができた。 | ・わからないことがあった時に、自分から確認・相談することができる。 | ・見本のネギを見せ、正しい調整の仕方を確認してから作業する。 |
| H男 | 何度も行っているネギの調整には自信をもって取り組むことができる。わからないことがあると確認・相談することができる。 | ・商品であることを理解して、調整や袋詰めをすることができる。 | ・ネギの扱い方や袋詰めの注意点を事前に確認する。 |
| Ｉ女<br>グループ長 | グループ長としてメンバーの分担決めを的確にすることができる。工程や道具の配置など工夫でき、周囲の様子を見ながら作業ができる。 | ・全体の流れを理解して、作業しやすいように道具の配置や工程を工夫することができる。 | ・工程の中で不安な点がないか事前に確認する。 |

Ｃグループ　　ニンジンの収穫

| | 生徒の様子 | 本時の目標 | 手だて |
|---|---|---|---|
| A男<br>グループ長 | グループ長として作業の流れを理解しており，効率良く仕事をするために周囲の様子を見ながら指示を出すことができる。 | ・全体の流れを理解して，作業しやすいように道具の配置や工程を工夫し，指示を出すことができる。 | ・事前に作業の手順を確認し、見通しをもてるようにする。 |
| B男 | あいさつや返事がしっかりしていて，時間いっぱい，積極的に取り組むことができる。周囲の様子にも気を配ることができる。 | ・全体の流れを理解して，作業しやすいように，仲間と協力する。 | ・工程の中で不安な点がないか事前に確認する。 |
| C男 | 作業内容を良く理解している。状況を見ながらグループ長と相談して作業を進めることができる。 | ・仲間と協力しながら，周りの状況を見て役割分担や時間配分をする。 | ・グループ長と相談しながら作業することを確認する。 |
| D男<br>副グループ長 | 非常に意欲的に取り組み、集中力もある。慣れない作業では、見通しをもって取り組むことが難しく、失敗するとあわててしまう。 | ・落ち着いて行動する。判断に迷ったときは、自分から確認する。 | ・判断が複雑な場合は、モデルを示して具体的に説明する。 |
| E男 | 周りの状況を見て作業を進めることができる反面、手元の作業に集中できていない時がある。 | ・ニンジンの収穫、洗いでは手元に集中して作業を続ける。 | ・事前に本時の目標を個別に確認する。 |
| F男 | 全体での指示理解が難しいが、不安な点は自分から確認をすることができる。失敗が続くと自分を責めてしまうことがある。 | ・説明や指示を受ける際は、話している人を見るようにする。 | ・話をする前に、注意を向けるようにする。必要に応じて声をかける。 |
| G男 | 気持ちが不安定なときは、作業に集中できないことがある。気持ちの切り替えと円滑な会話のやりとりが課題。 | ・気持ちを集中して、収穫の作業をする。 | ・一方的な会話になった際は、内容を整理できるよう支援する。 |
| H女 | 作業内容を理解し、自分から報告することができる。同じ姿勢での作業では、集中が途切れペースが落ちることがある。 | ・ニンジンの洗いをていねいにする。 | ・報告の声が小さいときは、やり直すように声をかける。 |
| Ｉ男 | 作業の手順が分からないときは、自分から確認することができる。作業内容によっては私語が多くなる。 | ・報告連絡相談を確実にしながら、収穫する。 | ・作業開始前に、必要のない話はしないように確認する。 |

関係資料Ｖ－４

# 生活技術科縫製コース　学習指導案

日時　　平成２０年１１月２８日（金）第１～４校時
場所　　縫製実習室
授業者　Ｔ１　　Ｔ２
　　Ｔ３　　Ｔ４
　　Ｔ５

１　単元名　　「注文品を作ろう」

２　単元設定について

（１）単元設定の理由

後期の活動の中で一番のイベントであるＫＯＹＯ祭では、以前の「新製品を作ろう」単元で開発した商品が飛ぶように売れる経験ができ生徒たちは充実感や達成感を味わわえることができた。

そこで、本単元は生徒一人ひとりが意欲を持って、制作活動に取り組む中で、技術の向上やお客様が望むよりよい製品作りを目指すことを目標に設定した。例年この時期には、ＫＯＹＯ祭において販売数が少ない新製品の注文が殺到するので、今回は、縫製室前廊下に注文品コーナーを設け、定番品や人気商品を並べて、本校職員を対象に注文を承り、生徒が直接注文依頼に関われるように場を設定した。製品についてのアンケート（使いやすさ、改良点など）をとり、よりよい製品作りができるようにしたい。また、お客様が望む特別注文も取り扱うことによってさらに技術の向上が図れるようにしたい。技術の向上においては、前回の「KOYO 祭」単元において目標数の制作場面で一人ひとりの技術向上がかなり図れたと思われる。本単元では、新しい作業工程を増やしさらに新しい技術向上を目指して取り組めるように支援していきたい。また、先輩から後輩へ技術やこつを教える場面も設定し、生徒主体で教えあう場面も大切にしていきたい。よりよい製品作りでは、注文品の依頼者から製品についての使い勝手などの意見を聞き、どのようにしたら注文者が望む製品を作ることができるか等まで考え、制作できるような機会を設定し支援したい。

単元はじめの会で、作業面と態度面での個々の目標を決める。自分が決めた目標を達成させるために、作業面では、手順表の活用や毎時間の目標設定を行い、手順の確認や出来映えを確認しながら仕事を進め、確実な仕事、ていねいな縫製ができるようになってほしい。態度面では、報告、確認を重視し、タイミング良く報告確認を行って欲しい。さらに言葉使いについても社会に通用する言葉使いができるようになってほしい。

自分たちが受けた注文品を自信を持って納品できるように、生徒一人ひとりが縫製の技術を磨き自分の目標を達成できるように取り組んでほしいと願い本単元を設定した。また、この願いが達成できるように取り組むことが、人間力を育てていく一助となるのではと考えている。

（２）キャリア発達との関連

〇人間関係形成能力　・先輩から後輩へ教え合う。
・注文者に製品についての意見を聞く。
・報告、相談をする。

〇情報活用能力　・手順表（ステップアップ表）の活用をする。
・本日の予定、仕事内容の確認。

〇将来設計能力　・単元目標設定、毎時間の目標設定をし、仕事の見通しを持つ。
・注文者に喜ばれる製品作りをする。

〇意思決定能力　・生産数の確認と制作計画。
・目標を決める。

３　単元の目標

〇製品納品を目指し、意欲的に取り組む。
〇よりよい製品作りを目ざし、技術の向上を図る。
〇タイミング良く報告、確認をする。
〇技術やこつを教え合う。

４　指導計画（６７時間扱い）

| 月・日 | 曜日 | 学習内容 |
|---|---|---|
| １１月　１９日 | 水 | 単元はじめの会・個人の目標決め・グループの作業計画　（２） |
| ２０日 | 木 | 注文受付・制作活動(４) |
| ２５日 | 火 | 注文受付・制作活動（３） |
| ２６日 | 水 | 注文受付・制作活動（４） |
| ２７日 | 木 | 注文受付・制作活動（４） |
| ２８日 | 金 | 注文受付・制作活動　・週のまとめ　（本時）（４） |
| １２月　１日 | 月 | 制作活動　（３） |
| ２日 | 火 | 制作活動　（４） |
| ３日 | 水 | 制作活動　【公開研究会】　（２） |
| ５日 | 金 | 制作活動　・週のまとめ　（４） |
| ８日 | 月 | 制作活動　・技術やこつを教え合う　（３） |
| ９日 | 火 | 制作活動　・技術やこつを教え合う　（４） |
| １１日 | 木 | 制作活動　・技術やこつを教え合う　（４） |
| １２日 | 金 | 制作活動　・週のまとめ　（４） |
| １５日 | 月 | 製作活動（３） |
| １６日 | 火 | 制作活動（４） |
| １８日 | 木 | 制作活動・注文品納　（４） |
| １９日 | 金 | 制作活動・大掃除　（４） |
| ２２日 | 月 | 単元まとめの会・反省と評価　（３） |

5　本時の指導

（1）ねらい

〇自分の本時の目標が達成できるように仕事を進める。

〇タイミングや言葉遣いに気をつけ報告、相談をする。

〇手順や出来映えを確認しながら、確実でていねいな製品作りをする。

（2）展開

＜全体の流れ＞

| | 学習活動 | 学習への支援 | 備考 |
|---|---|---|---|
| １０ | ・仕事の準備をする。<br>・拭き掃除。<br>・身支度を整えてグループごとに座る<br>1　始まりの会　情報活用能力<br>・あいさつ、今日の予定（コース長）<br>・注文品の確認<br>製品注文が合った場合は、注文票の記入をする。<br>情報活用能力　人間関係形成能力 | ・事前に打ち合わせをしておく<br>・意欲的に取り組めるように説明をする。<br>・注文内容をきちんと聞き、注文票に記入するようにアドバイスする。<br>・製作グループに確認をとる。 | ノート<br>黒板 |
| １４０ | 手順や出来映え、目標を確認しながら、確実でていねいな製品作りをする。タイミング良く報告、確認をする 。<br>2　各グループに分かれ制作活動に取り組む<br>【縫い合わせグループ】<br>【裁断グループ】<br>【ペンケースグループ】<br>【部品グループ】<br>※ 10:30 を目安に５分間の休憩を取る。<br>※グループごとの活動は別紙参照 | ・副コース長が時間を見てみんなに知らせる。タイミングをアドバイスする。 | |
| ３０ | 3　まとめの会<br>・ 副コース長の声かけで片付、清掃をする。<br>・日誌の記入<br>意思決定能力　将来設計能<br>・反省発表<br>将来設計能力<br>・評価、次時の連絡 | ・日誌の記入をしながら、一人ひとりと本時の取り組みについて振り返り次へ向けてのアドバイスをする | 清掃用具<br>実習日誌<br>手順表 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | |

＜縫い合わせグループ＞

| | 学習活動 | 学習への支援 | 備考 |
|---|---|---|---|
| １４０ | 手順や出来映え、目標を確認しながら、確実でていねいな製品作りをする。タイミング良く報告、確認をする。 | | |
| | ・本時の仕事内容の確認<br>情報活用能力<br>（注文品の製作状況を確認する。） | ・グループ長に仕事内容を伝える。<br>・制作状況、制作数などを伝える。 | 日誌<br>手順表 |
| | ・本時の仕事内容の工程を手順表で確認し目標を立て、ノートに記入する。<br>将来設計能力　情報活用能力 | ・生徒のたてた目標が適切かどうか確認し、必要に応じて助言をする。 | ミシン<br>糸<br>道具箱<br>針山<br>まち針<br>ラベル |
| | ・手順に従い、注意点などを守り制作を進める。<br>情報活用能力　意思決定能力 | ・共に活動しながら、適宜声をかけたり確認したりする。 | |
| | （コンパクトバック）<br>・ポケットを縫い付ける。<br>・脇縫いをする。<br>・バイヤスをかけ、始末をする。<br>・取って付け、口縫いをする。 | ・糸調子やミシンの調整を必要に応じてて行う。<br>・手順表で、工程や縫い方のこつを確認し合う。 | |
| | （花柄キャンパスバック）＜注文品＞<br>・袋布にポケット、取っ手を縫いつける。<br>・袋布に底布を縫いつける 。<br>・内ポケットを縫いつける<br>・脇布を縫いつける。<br>・口元縫いをする | ・一人一製品に分かれて制作するため、工程順序に従って責任を持った仕事ができるように適宜助言する。<br>・仕事を進める中で、さりげなく出来映えを確認し助言する | |
| | （充実・収納バック）＜注文品＞<br>・袋布にポケット、取っ手を縫いつける。<br>・袋布に底布を縫いつける 。<br>・内ポケットを縫いつける。<br>・脇縫いをし、バイヤスをかけ、始末をする。<br>・マチ縫いをする。<br>・ファスナー部品を付ける。 | | |
| | ・確認、相談をする<br>情報活用能力　人間関係形成能力 | ・報告、ミシンの調子の相談がタイミング良くできるように | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ※ 10:30 を目安に５分間の休憩を取る。 | アドバイスする。<br>・ミスに気づかず仕事を進めている時は、声をかけたり、縫い方をアドバイスしたり、点検のポイントを確認したりする。 | |

＜裁断グループ＞

| | 学習活動 | 学習への支援 | 備考 |
|---|---|---|---|
| １４０ | 手順や出来映えを確認しながら、確実でていねいな製品作りをする<br>タイミング良く報告、確認をする。 | | |
| | ・本時の仕事内容の確認<br>情報活用能力 | ・グループ長に仕事内容を伝える。 | |
| | ・本時の仕事内容の工程を手順表で確認し目標を立て、ノートに記入する。<br>将来設計能力　情報活用能力 | ・生徒のたてた目標が適切かどうか確認し、必要に応じて助言をする。 | 日誌<br>手順表 |
| | ・手順に従い、注意点などを守り制作を進める。<br>情報活用能力　意思決定能力<br>(準備片付け)<br>・自分で使う定規、カッターを用意する。<br>・定規についた汚れはリムーバーで落とす。<br>(切り出し)<br>・定規を線に合わせ、ずれないようにしっかり固定する。<br>・ロータリーカッターで切り出す。<br>・始めから終わりまで一定の力で押し切る。 | ・共に活動しながら、適宜声をかけたり確認したりする。<br>・工程順序に従って責任を持った仕事ができるように適宜助言する。<br>・仕事を進める中で、さりげなく出来映えを確認し助言する<br>。 | カッター<br>生地<br>ペン<br>目打ち<br>アイロン |
| | ・確認、相談をする<br>情報活用能力　人間関係形成能力 | ・仕事が終わったら報告、困ったことが起きたら相談をするタイミングをアドバイスする。 | |
| | ※ 10:30 を目安に５分間の休憩を取る。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ・製品注文が合った場合は、注文票の記入をする。<br>情報活用能力　人間関係形成能力<br>・製品が完成したら、納品書を書き納品する。 | ・注文内容をきちんと聞き、注文票に記入するようにアドバイスする。 | |

＜ペンケースグループ＞

| | 学習活動 | 学習への支援 | 備考 |
|---|---|---|---|
| １４０ | 手順や出来映え、目標を確認しながら、確実でていねいな製品作りをする。タイミング良く報告、確認をする。 | | |
| | ・本時の仕事内容の確認<br>情報活用能力<br>（注文数の確認、制作状況確認） | ・グループ長に仕事内容を伝える。 | |
| | ・本時の仕事内容の工程を手順表で確認し目標を立て、ノートに記入する。<br>将来設計能力　情報活用能力 | ・生徒のたてた目標が適切かどうか確認し、必要に応じて助言をする。 | 日誌<br>手順表 |
| | ・手順に従い、注意点などを守り制作を進める。<br>情報活用能力　意思決定能力<br>（ペンケース・ポーチ・小銭入れ）<br>＜ 関宿城の注文品、注文品＞<br>・袋布の口にファスナーを縫いつける。<br>・袋布にラベルを付ける<br>・袋布の脇と底を縫う。<br>・マチを縫って、表に返す。<br>・できあがった製品の点検をする。<br>・製品をラッピングする。 | ・共に活動しながら、適宜声をかけたり確認したりする。<br>・糸調子やミシンの調整を必要に応じてて行う。<br>・仕事が流れやすいように配慮する。<br>・製品の点検をし、出来映えを確認し、次の活動への意欲を高める。 | ミシン<br>糸<br>道具箱<br>針山<br>まち針<br>ラベル |
| | ・確認、相談をする<br>情報活用能力　人間関係形成能力<br>※ 10:30 を目安に５分間の休憩を取る。 | ・仕事が終わったら報告、困ったことが起きたら相談をするタイミングをアドバイスする。 | |

＜部品グループ＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| １４０ | 手順や出来映え、目標を確認しながら、確実でていねいな製品作りをする。タイミング良く報告、確認をする。 | | |
| | ・本時の仕事内容の確認<br>情報活用能力<br><br>・本時の仕事内容の工程を手順表で確認し目標を立て、ノートに記入する。<br>将来設計能力　情報活用能力<br><br>・手順に従い、注意点などを守り制作を進める。<br>情報活用能力　意思決定能力<br>（縁かがり、ロックミシン）<br>・各パーツの縁かがり、ロックをする。<br>（ファスナー付け、ワッペン付け）<br>・ファスナーやラベルを付ける。<br>（周り縫い・各パーツ縫い）<br>・印に合わせて、周りを縫う。<br>・マチを縫って、表に返す。<br>・できあがったの点検をする。<br>（ステッチ縫い）<br>・テープや磁石に布端を合わせて縫う<br>・手動で返し縫いをする。<br>・始めと終わりは目打ちを使って縫う<br>・布の端から同じ幅で縫う<br><br>・確認、相談をする<br>情報活用能力　人間関係形成能力<br><br>※ 10:30 を目安に５分間の休憩を取る。 | ・グループ長に仕事内容を伝える。<br>・生徒のたてた目標が適切かどうか確認し、必要に応じて助言をする。<br><br>・共に活動しながら、適宜声をかけたり確認したりする。<br><br>・糸調子やミシンの調整を必要に応じて行う。<br><br>・それぞれの制作の手順や注意点を確認してから縫い始めるように予め伝えておく。<br>・縫い方や生地に合わせて押さえを換えるように声をかける。<br>・仕事が流れやすいように配慮する。<br>・製品の点検をし、仕上がりを確認し、次の活動への意欲を高める。<br><br>・仕事が終わったら報告、困ったことが起きたら相談をするタイミングをアドバイスする。 | |

（３）評価

①学習の評価

・自分の目標を意識して取り組むことができたか。

・タイミングや言葉遣いに気を付け報告、相談ができたか。

・確実でていねいな製品作りができたか。

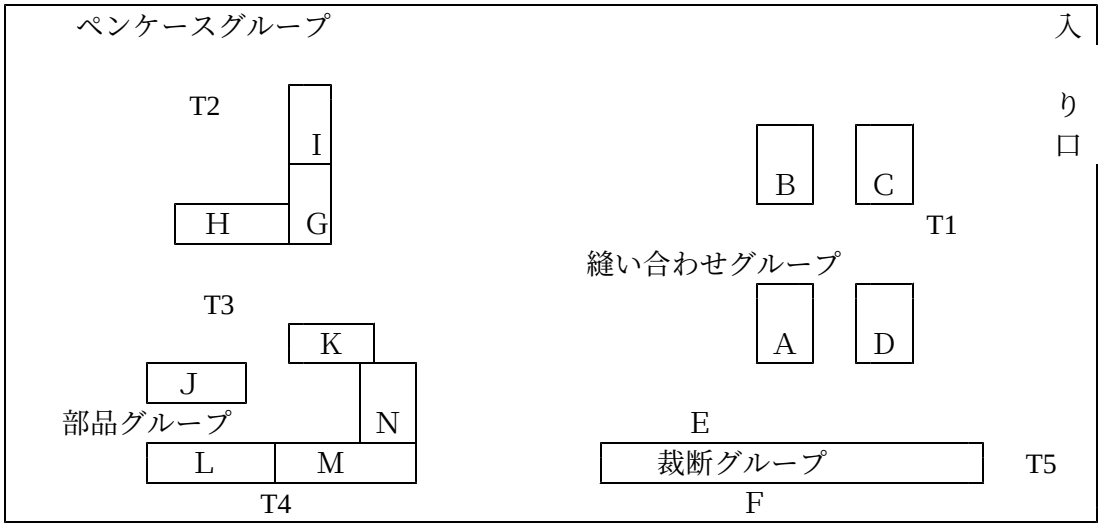
②支援の評価

・本時の仕事の計画は適切であったか。

・手順表や日誌を上手に活用できたか。

・報告、相談などのタイミングや言葉遣いに対しての支援は適切であったか。

（４）場の設定




6　生徒の様子と本時の目標

＜縫い合わせグループ＞

| | 生徒の様子 | 本時の目標 | 手だて |
|---|---|---|---|
| A女<br>３年 | コース長。仕事はていねいにできるが同じ工程が続くと集中持続力に欠ける。 | より良い製品作りを目指し、時間いっぱい確実でていねいな製作をする。 | 同じ製作物が延々と続くときには、気持ちが萎えないように、適宜出来映えを確認して助言する。 |
| B女<br>３年 | 技術的にはかなり高く、バックの縫い合わせができるが、細かいところにこだわり製作が進まないことがある。 | より良い製品作りを目指し、時間いっぱい確実でていねいな製作をする。 | こだわりが出たときには、回避できるような助言などの支援をし、制作がスムーズにできるように支援する。 |
| C女<br>２年 | ミシンの扱いなどまだ、確認を必要とするところが多い。積極的に仕事に取り組む意欲が見 | 手順表で仕事を確認し、仕事を進める。報告、確認を忘れない。 | 手順表で一緒に仕事内容確認をする。<br>報告、確認を促す。<br>手が止まっている時には、 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | られるようになってきた。 | | 原因を突き止め、制作が進められるように支援する。 |
| D女<br>１年 | ミシン縫いの仕事に意欲を持って取り組めるようになってきた。指示も良く聞いて取り組めるが集中力に欠ける部分がある。 | 時間いっぱいミシン作業が継続できるようにする。 | 本人が自信を持ってできる作業を準備し、意欲を持って取り組めるようにする。集中がとぎれるときには、励ましの言葉かけの支援をする。 |

＜裁断グループ＞

| | 生徒の様子 | 本時の目標 | 手だて |
|---|---|---|---|
| E女<br>３年 | 仕事への取り組みがよく、集中して裁断の仕事が出来るようになった。確認・報告が的確に出来るようになってきたが、慣れると言葉使いが乱れることがある。 | より良い製品作りのために正確に裁断作業を進める。<br>言葉使いに気を付けて、確認・報告をする。 | 指示や注意点をきちんと聞き理解できているか、随時確認する。<br>言葉使いが乱れたときには、正しい言い方に直すように支援する。 |
| F女<br>１年 | 素直なので、ほめられると意欲的に活動できる。仕事への集中力が気持ちに左右されることが多い。指示されり、間違いを指摘されると作業能率が低下する。 | 指示や注意点を確認して作業を進める。 | 集中がとぎれる時は、励ましの支援をする。指示や注意点の確認を随時行い作業能率の低下を防ぐようにする。 |

＜ペンケースグループ＞

| | 生徒の様子 | 本時の目標 | 手だて |
|---|---|---|---|
| G男<br>２年 | ミスをした時や、分からない事があった時にしっかりと報告・連絡ができる。時間いっぱい集中してていねいな製作ができるがマイペースである。 | 時間の配分を考えながら、作業のスピードを上げる。 | 時間配分が分かりやすいように、時間と目標数を決めてから、製作に取り組むようにする。途中、確認を行う。 |
| H女<br>２年 | ファスナー付けのこつを覚えてきた。スピードも速く、他の製作工程も難なくこなすことができる。私語が目立つことがある。 | ファスナー付けの時布がゆがまないように製作する。私語をせずに時間いっぱい製作に取り組む。 | 私語が出ているときには、作業に集中させるように声かけの支援をする。目標数を決めて製作に取り組めるようにする。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| Ｉ男<br>１年 | 時間への意識が低く、製作スピードがゆっくりだが、ミシンの扱いに慣れていねいに仕事を進めている。報告ができるようになってきたが、質問ができない。 | ミスした時や分からない事が起きたときに質問できるようになる。<br>目標数達成できるように製作スピードを上げる。 | 始めに、どういう時に質問すれば良いのか確認をしておく。途中手が止まっていたら声かけの支援をして製作を促す。 |

＜部品グループ＞

| | 生徒の様子 | 本時の目標 | 手だて |
|---|---|---|---|
| Ｊ女<br>１年 | 一度覚えた技術は確実に身についている。指示を自分なりに解釈し勝手に制作を進めてしまうことがある。失敗に対する恐怖心が強い。 | 話を良く聞き、製作活動をする。<br>間違えた時や失敗した時には落ち着いて報告するようにする。 | 作業工程を分かりやすく説明し確認する。<br>失敗等の報告を受けた時には、大丈夫だというように意識付けをしたり、出来映えの評価で確認をするようにする。 |
| Ｋ女<br>１年 | ていねいに繰り返し製作活動をすることができる。迷ったり、分からない時に自分から質問することができない。 | 分からないことが起きた時には、自分から質問する。<br>時間いっぱい製作に取り組む。 | 分からないことが起き製作が止まっている時には、何が困っているのか原因を明確にし、伝えられるように支援する。 |
| Ｌ女<br>２年 | ミシンの技術がかなり高く、意欲的に製作に取り組んでいる。集中し過ぎたり、製作以外での事を引きずって落ち込んでいるときもある。 | より良い製品作りを目指し、時間いっぱい確実でていねいな製作をする。 | 適宜出来映えを確認しながら制作を進めるようにする。<br>落ち込んでいる時には、アドバイスや気持ちを切り替えるような支援をする。 |
| Ｍ女<br>２年 | 体調により、仕事量が左右されるが、普段は正確な仕事を心がけている。体調を判断することが難しい。 | 体調に気を付けながら、作業に取り組む。 | 水分補給や体温測定をして体調の変化に気を付ける。<br>無理のない範囲での仕事量を行うように支援する。 |
| Ｎ男<br>３年 | たくさんの仕事をすることができるが、集中が切れることがある。<br>ていねいな製品作りを意識して行えるようになった。 | より良い製品作りを目指し、時間いっぱいていねいな製作をする。 | 適宜出来映えを確認しながら制作を進めるようにする。<br>同じ仕事が続くときには集中がとぎれないように励ましの言葉をかける。 |

関係資料Ｖ－５

# １年Ｄ組　理科　学習指導案

日時　　平成２０年１２月１５日（月）第７校時
場所　　理科室
授業者

１　単元名　　《ものとその重さ》

２　題材設定について

（１）題材設定の理由

本校の研究テーマである「人間力を高める教育実践」について，理科では，①学習意欲の向上　②科学の基礎的・基本的な概念や原理・原則の習得　③思考力・判断力・表現力等の育成　の３点を考えている。その観点から，題材設定の理由を述べる。

１つめの学習意欲の向上については，「人間力を高める教育実践」の最も重要な点であると考える。学習意欲は，様々な学力調査においてその低下が問題となっており，新学習指導要領の基本理念である「生きる力」の育成のための，基本的な考え方の１つにも示されている。そこで，この単元では，学習意欲を喚起するために，体験的・問題解決的な学習を推進していく。まず，生徒たちにとって考えるに値する学習問題を準備し，実験をする前に必ず自分自身の予想を立てていく自己選択・自己決定の場を設定していく。次に，生徒たち同士がその予想の理由を出し合い，考えを発表しあう，討論の場を設定していく。その後，予想の検証結果が明瞭となる実験を実施していく。なお，学習意欲の向上が図れたかどうかについては，単元終了後，生徒に「⑤とても楽しかった　④楽しかった　③楽しかったともつまらなかったともいえない（どちらともいえない）　②つまらなかった　①とてもつまらなかった」の５段階で授業についての自己評価を実施し，⑤④の評価が過半数以上で，①②の評価が例外的にいない状況であれば，学習意欲の向上が図ることができたとし，事前に評価の判断基準を明確化しておく。

２つめの科学の基礎的・基本的な概念や原理・原則の習得については，生徒が科学のすばらしさを自分のものとし，自分自身のすばらしさや学ぶ喜びが実感できるようになるということである。つまり，自己肯定感を獲得するということである。そのためには，生徒たちが自分自身の考えや予想をもって対象に問いかけていくという，目的意識をもった実験を行っていく。また，１時間の授業で完結するものではなく，科学的認識の成立過程にそった一連の学習問題を積み重ねることにより，概念等の習得を図っていく。

今年度，１年生では《虹と光》という単元で，虹の正体と虹の色の謎に迫った授業を展開したが，その単元終了後の生徒の感想である。

**●授業の日は楽しみ（評価４…楽しかった）**

私は，高校に入ってはじめて，虹の勉強をしました。最初は何をするのかもわからずドキドキでしたが，授業をやるにつれて，こんな楽しい授業があると思い，授業の日は楽しみにしていました。これからも楽しい授業をお願いします。

**●虹が２種類あるのがすごい（評価５…とても楽しかった）**

とても楽しかったのは，虹が２種類あるのがすごかったです。おす虹とめす虹を知って探すのが楽しみになったりしたことや，ホログラム製品で１つの粒にいくつも虹が見えたことがすごかったです。霧吹きで実験をやったときや，ホースでの実験で虹を見たことが楽しかったです。フラスコの実験をしたときに自分のフラスコでは虹が見えなかったんですが，他の人のフラスコで虹が見えてうれしかったです。

**●みんなと一緒に虹を作ることが一番の思い出（評価４…楽しかった）**

クラスのみんなと一緒に虹を作ることが一番の思い出です。おす虹とめす虹を作ることと，フラスコを使って虹を作ることを参加できて楽しかったです。また，七色を実感も体験できて，嬉しいです。前期の最初から最後まで，虹についての授業だったけど，安全にできて快い気持ちで語ります。７ヶ月間ありがとうございました。

**●今まで知らなかったことが山のように出てきて（評価４…楽しかった）**

理科は，他の教科より苦手意識が強かったので，実は，あまり受けたくありませんでした。でも，授業を受けていくうちに，今まで知らなかったことが山のように出てきて，特に，オスの虹とメスの虹の存在にびっくり！しました。虹にそんな区別まであるなんて…。苦手意識を持っている授業ほど，知っておかなくちゃいけないことがたくさんある…ということを改めて感じました。

**●本当に勉強は楽しいな～（評価５…とても楽しかった）**

理科で，《虹と光》の授業を受けて，本当に勉強は楽しいな～と思いました。次は違う実験がしたいです。僕は本当に理科の授業が一番好きです。

一部の生徒たちの感想であるが，他の生徒たちも同様なことを書いてくれた。これらの感想を読むと，虹についての単なる断片的な知識・事実についてではなく，新しい世界観や知識を学べたことの喜びや感動，さらに自己肯定感を感じることができる。つまり，科学のすばらしさを自分のものとすることで，自分の喜びとなっていることがわかる。

今回の単元である《ものとその重さ》は，「すべてのものには重さがあり，ものの重さはそのものがなくならなければ変わらない」という，重さの概念を教えることをねらいとする。重さの概念は，近代科学の出発点ともいえるほど，もっとも基礎的・基本的な概念である。その概念を学ぶということは，物事を筋道をたてて考える合理的な考え方というものを学ぶことでもあり，新しい実験問題に対して次々と正しい予想ができるようになるということでもある。生徒たちに，そのような筋道をたてて考えることの素晴らしさや喜びを実感させていきたい。

３つめの思考力・判断力・表現力等の育成につては，授業の中でそのような力を必要とする場を設定していく。具体的には，思考力・判断力は「予想」の場で，表現力は「討論」の場である。その際，授業を進めていく上では次のような点に留意していく。まず，「予

想」では，文章を読んだだけでは学習問題が理解できない生徒が多い実態を踏まえ，学習問題に選択肢を用意し，実験道具や絵カード等を使用しながら，具体的にイメージしやすいように問題説明に努めていく。授業運営上，もっとも支援が必要な場であると考える。次に,「討論」では，まず予想分布を黒板上に集計し，その理由を生徒に発表してもらう。このときは挙手して発言を求めるだけでなく，生徒を指名することもある。ただし，教師の指名で発言させる以上，生徒が何を言ってもよいという権利は保障していく。つまり，「なんとなく」というのも，理由の一つとして認めていく。その後，討論を行うが，討論するかどうかは生徒の主権に属することであって，教師の意図する方向に話し合いをもっていったりする等の押しつけを一切排除し，自由に意見が言えるような雰囲気作りとともに，無理に意見を言う必要のないような雰囲気作りに努めていく。また，友だちの意見を聞いて，予想変更をすることも行っていく。この「討論」を通じて，コミュニケーション能力の育成も図っていきたい。さらに，思考力・判断力・表現力等の基盤である「読む・書く・聞く・話す」等の言語活動を意識しながら,「読み物」を意図的に授業の中に組み入れたり，授業を振り返って感想文を書く等も行っていく。

この単元の学習を通し，人間力を高める教育実践を一歩でも進めることができればと願い，本単元を設定した。

（２）キャリア発達との関連

○人間関係形成能力　・自分の予想に対する理由を述べたり，他人に意見や質問をしたりすることができる。
・他人の考えを聞くことができる。

○情報活用能力　・１つ１つの実験結果を理解し，結果を記入することができる。
・様々な実験を積み重ねることにより,「すべてのものには重さがあり, ものの重さはそのものがなくならなければ変わらない」という重さの概念を理解することができる。
・てんびんの使い方を理解し，いろいろなものの重さをはかることができる。

○将来設計能力　・筋道をたてて考えることのすばらしさを実感することができる。

○意思決定能力　・学習問題に対して，自分で予想をたてることができる。
・他人の考えを取り入れ，自分の予想を変更することができる。

3　題材の目標

○「すべてのものには重さがあり，ものの重さはそのものがなくならなければ変わらない」という重さの概念を理解することができる。

○楽しく授業に参加することができる。

4　指導計画（６時間扱い）

| | 目標 | 学習内容 |
|---|---|---|
| （第１回）12 月 8 日 | ・体重の姿勢をかえても，重さ | 〔質問１〕ものの重さをはかる |

| | | |
|---|---|---|
| 第１部　ものの重さとそのはかり方 | は同じであることを理解できる。 | 道具にはどんなものがあるか<br>〔質問２〕重さの単位にはどんなものがあるか<br>〔実験〕どのはかりではかってもものの重さは同じか<br>〔問題１〕体重計の上で姿勢をかえると重さはどうなるか |
| （第２回）12 月 15 日<br>第１部　ものの重さとそのはかり方<br>〔本時〕 | ・粘土の形をかえても，はかりからはみ出ても，重さは同じであることを理解できる。 | 〔問題２〕粘土の形をかえるとその重さはどうなるか<br>〔問題３〕粘土がはかりからはみ出していても，重さは正しくはかれるか<br>〔問題４〕はみだした部分が他のものにのっているとどうなるか |
| （第３回）1 月 26 日<br>第１部　ものの重さとそのはかり方 | ・せんべいを粉にしても，重さは同じであることを理解できる。<br>・計算して重さを求めることができる。<br>・てんびんの必要性を実感できる。 | 〔問題５〕せんべいを粉にして重さをはかるとどうなるか<br>〔問題６〕紙 10 枚の重さから, (1) １枚の重さ，(2) １枚の半分の重さは<br>〔はかりの話〕 |
| （第４回）2 月 2 日<br>第１部　ものの重さとそのはかり方 | ・てんびんの使い方を理解できる。<br>・重さのはかり方を工夫して，小さな重さでもてんびんではかることができる。 | 〔作業１〕てんびんでいろいろなものの重さをはかってみよう<br>〔問題７〕紙１ $cm^2$ の重さを上皿てんびんではかれるか<br>〔質問３〕紙１ $cm^2$ の重さを知る方法を考えよう<br>〔問題８〕100 枚の紙きれの重さを計算してだそう |
| （第５回）2 月 16 日<br>第１部　ものの重さとそのはかり方 | ・いろいろな重さを調べることにより，重さへの関心を高める。<br>・今までの重さに関する理解度を確認し, 自信を深めていく。 | 〔質問４〕重さのうんと大きいもの，うんと小さいもの<br>〔研究問題〕原子の重さ，地球や太陽の重さ<br>〔練習問題１〕積み木ののせ方を変えても重さは同じか<br>〔練習問題２〕人をおんぶすると，重さはどうなるか |
| （第６回）2 月 23 日 | ・テストでほとんどの生徒が | テスト |

| | | |
|---|---|---|
| まとめ | 80 点以上とることができる。<br>・クラスの過半数以上の生徒が「授業がとても楽しい」「楽しい」という状況の評価を目指す。 | 授業の評価と感想 |

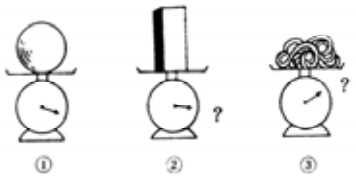
5　本時の指導

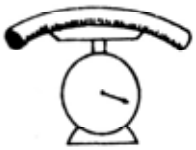
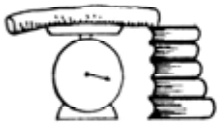
（1）ねらい

〇粘土の形をかえても，はかりからはみ出ても，重さは同じであることを理解できる。

〇楽しく授業に参加できる。

（2）展開

| 時配 | 学習活動 | 学習への支援 |
|---|---|---|
| 5 | ◇前時を振り返るために，授業通信を読む。 | ・授業記録や生徒の授業の感想文を入れた授業通信を，生徒の前で読み上げることで，前時の復習を行う。 |
| ３５ | 〔問題２〕粘土を下の図のように形をかえると，その重さはどうなるか。<br>  <br>予想<br>ア．①の形をしたときが一番重くなる。<br>イ．②の形をしたときが一番重くなる。<br>ウ.③のようにしたときが一番重くなる。<br>エ．みんな同じ重さになる。<br>意思決定能力<br>人間関係形成能力<br>情報活用能力<br>◇プリントを読む。<br>◇予想の選択肢に〇をつける。<br>◇自分の予想に対する理由を発表する。<br>◇他人の意見を聞いて，質問や意見があれば発表し，討論を行う。<br>◇予想変更があれば発表する。<br>◇演示実験を見て，実験結果をプリントに記入する。<br>◇代表生徒は，実験結果を発表する。 | **【準備物】**<br>〇台ばかり<br>〇粘土<br>〇ビニールテープ<br>**【問題説明】**<br>・①丸い形にして，１ Kg であることを確かめ，台ばかりにビニールテープを貼っておく。次に，台ばかりにのせないで，②直方体，③ひも状にして見せ，説明する。<br>・③のひも状の時に，台ばかりから落とさないように気をつける。<br>**【ヒントの扱い】**<br>・ヒントについては，簡単に触れる程度で，参考にして考えられる生徒は考える。<br>**【授業運営】**<br>・予想が立てやすいよう,声かけをする。<br>・全員が予想を立て終わったら，予想の分布を黒板に集計する。<br>・理由の発表は，挙手する生徒がいればその生徒に発表してもらうが，いなければ少数派の生徒から指名して発言を |

| | | |
|---|---|---|
| | | 促す。しかし，無理に言わせるような雰囲気にならないよう,「なんとなく」も理由の一つとして認める。<br>・討論は，無理には発言を求めず，発表したい生徒のみに発言させる。<br>**【実験】**<br>・①丸い形で台ばかりにのせて，次に②直方体の形，③ひもの形の順でのせ，みんな同じになることを確かめる。<br>・実験は，全員が見えるよう配慮し，正解を確認する。 |
| | 〔問題３〕粘土の両端がはかりからはみ出していても，重さは正しくはかれるか。<br>  <br>予想<br>ア．軽くなる。<br>イ．重くなる。<br>ウ．かわらない。<br>意思決定能力<br>人間関係形成能力<br>情報活用能力<br>◇学習活動は，〔問題２〕と同じ | **【準備物】**<br>○台ばかり<br>○粘土<br>○ビニールテープ<br>**【問題説明】**<br>・最初にはかりの針が見えないように，はかりを後ろ向きにして，粘土を折り曲げてのせる。次に，はみ出してのせたとき，折り曲げてはかったときと比べてどうなるか，ということを説明する。<br>**【授業運営】**<br>・〔問題２〕と同じ。<br>**【実験】**<br>・折り曲げてはかった時のところに，テープを貼って，はみ出してはかってみる。同じところに針がいくことを確かめる。 |
| | 〔問題４〕はみだした部分が他のものに少しのっていると，粘土の重さは正しくはかれるか。<br>  <br>予想<br>ア．正しくはかることができる。<br>イ．へったようになってしまう。<br>ウ．ふえたようになってしまう。<br>意思決定能力 | **【準備物】**<br>○台ばかり<br>○粘土<br>○ビニールテープ<br>○本<br>**【問題説明】**<br>・最初に，粘土の重さを確認してテープを貼る。<br>・次に，はかりの針が見えないようにはかりを後ろ向きにして，はみ出した粘 |

| | | |
|---|---|---|
| | 人間関係形成能力<br>情報活用能力<br>◇学習活動は，〔問題２〕と同じ | 土の端を本の上にのせる。<br>・本にのせるのは，１～２ cm 程度にする。<br>**【授業運営】**<br>・〔問題２〕と同じ。<br>**【実験】**<br>・はかりを前向きして改めてのせ，目盛りを確認する。 |
| 5 | ◇授業の評価と感想を記入する。<br>情報活用能力 | ・時間に余裕があれば，何人かの感想を発表する。 |

（３）評価

①学習の評価

・粘土の形をかえても，はかりからはみ出ても，重さは同じであることを理解できたか。

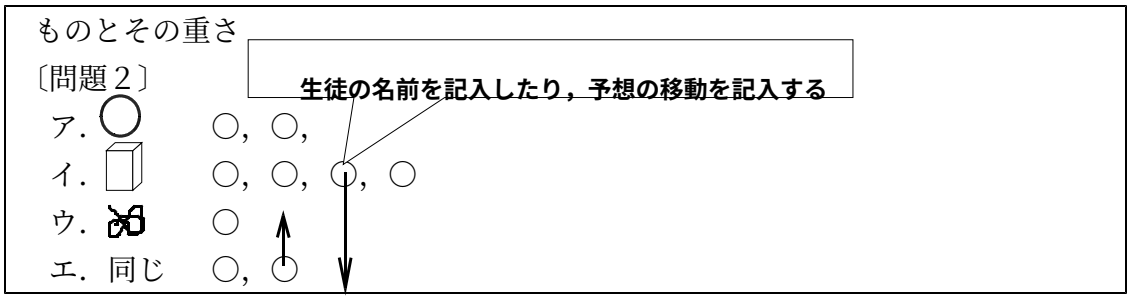
・授業後の生徒による評価（⑤とても楽しかった　④楽しかった　③どちらともいえない　②つまらなかった　①とてもつまらなかった）で，〈クラスの過半数以上が⑤・④で，例外的に①・②がいない〉という状況であるか。

②支援の評価

・学習問題がしっかりと把握できるように，問題説明が適切にできたか。

・押しつけを排除した授業運営を行うことができたか。

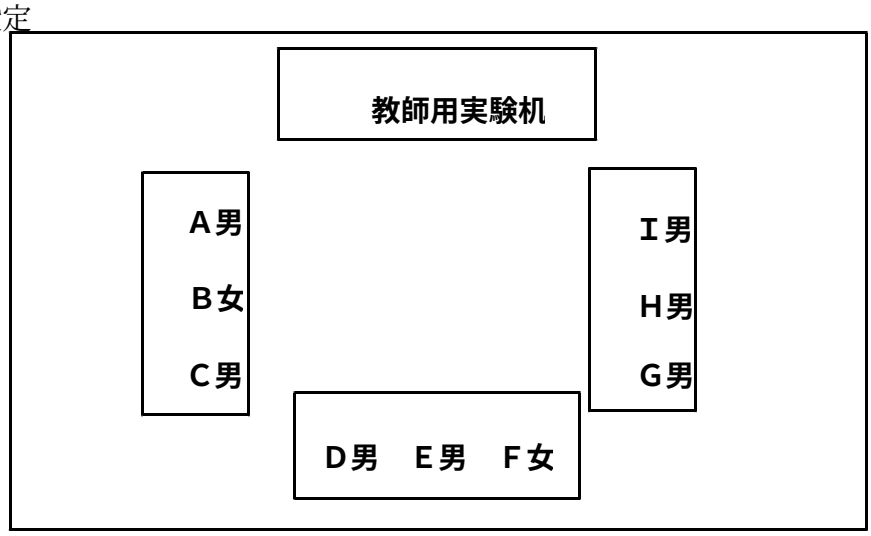
（４）板書計画




（５）配布プリント

＊別紙参照

（６）場の設定



【資料】　生徒の様子と本時の目標

| | 生徒の様子 | 本時の目標 | 手だて |
|---|---|---|---|
| A 男 | まじめに，授業に取り組む。重さに関する学習に少し興味をもってきた。 | 一連の学習問題を通して，学習意欲を喚起する。 | 予想がイメージしやすいように，問題説明に集中するように促す。 |
| B 女 | 授業にまじめに取り組み，意見を述べることができる。意外な実験結果に興味を持ち始めた。 | 一連の学習問題を通じて，重さの概念を徐々に理解できるようになる。 | 実験結果を確認しながら，次の学習問題に進むようにする。 |
| C 男 | 元気があり，授業の雰囲気を盛り上げる。重さの概念を理解しはじめてきた。 | 重さの概念を理解し，自分の考えを述べることができる。 | 問題説明に集中できるように促すとともに，理由発表で指名してみる。 |
| D 男 | 自分の考えを述べることができ，授業を盛り上げることができる。実験結果を理解できる。 | 一連の学習問題を行うことにより，自分の考えを述べることができる。 | 問題の説明に集中するように声かけをするとともに，理由発表で指名してみる。 |
| E 男 | 自分の考えを述べたり，実験に意欲的に取り組む。表現力が豊かである。 | 一連の学習問題を通じて，重さの概念がわかるようになり，自分の考えを述べることができる。 | 授業に集中できるよう，適切な声かけを行うとともに，理由発表で指名してみる。 |
| F 女 | 理解度が極めて高く，積極的に意見を述べることができる。G 男との人間関係が厳しい。 | 自分の考えを積極的に発表するとともに，他人の意見に対して意見や質問ができる。 | G 男の言動に過敏にならないように配慮し，授業に集中できるように促す。 |
| G 男 | 理解度は高く意欲的であるが，自分本意な行動で仲間から注意を受けることが多い。 | 授業に集中し，自分の意見や考えを発表することができる。 | 必要以上に F 女にかまわないように留意し，授業に集中できるように声かけをしていく。 |
| H 男 | まじめな授業の取り組みで，実験に意欲的に取り組む。実験結果の理解もできる。 | 一連の学習問題を通じて，重さの概念の理解を深めることができる。 | 予想がイメージしやすいように，問題説明に集中できるように促す。 |
| I 男 | 理解度は高く，意欲的である。G 男の行動が気になり，注意が散漫になることがある。 | 自分の考えを発表することができ，集中して授業に取り組むことができる。 | G 男の言動に気をとられることなく，授業に集中できるように声かけをするとともに，理由発表の指名を行う。 |

関係資料Ｖ－６

# 理科研究授業の記録

研究授業日時・展開場所　　平成２０年１２月１５日（月）　第７校時　理科室
研究協議会日時・場所　　同日１５：３０～　　本校会議室
講師　　東葛飾教育事務所指導主事（特別支援教育）　　加藤　　悦子　先生
　　東葛飾教育事務所指導主事（理科）　　宇佐見　郁夫　先生
　　東葛飾教育事務所主任指導主事（道徳）　　田邉　　光子　先生

## １　理科研究授業について

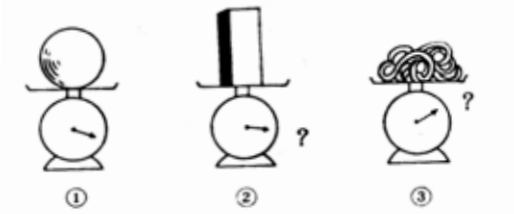
（１）授業内容・ねらい・展開　※別紙理科学習指導案参照

～理科における「人間力」についての考え～

キャリア発達の視点を活かしながら、学習意欲の向上を図り、思考力・判断力・表現力等の能力を育成し、科学の基礎的・基本的な概念や法則の習得を図る。

（２）授業記録（一部）

〔問題２〕
ここにねんどのかたまりがあります。このねんどを、下の図のように形をかえて、はかりの上にのせると、その重さはどうなるでしょうか。




予　想
ア．①の形にしたときがいちばん重くなる。
イ．②の形にしたときがいちばん重くなる。
ウ．③のように、ほそいひものようにしたときがいちばん重くなる。
エ．①②③はみんな同じ重さになる。

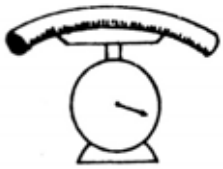
〔予想分布〕
ア……Ａくん、Ｄくん
イ……Ｎくん、Ｙくん、Ｏさん、Ｚくん
ウ……Ｋさん、Ｓくん
エ……Ｍくん

〔討　論〕
Ｍくん（エ）　粘土がぐじゃぐじゃしても、重さはかわらないと思います。
Ａくん（ア）　最初、①は１Ｋｇだったのですが、他の形をしても全然変わらないので、①がいちばん重いと思う。
Ｓくん（ウ→エ）エに予想変更します（まわりから、「はやーい」の声）。
Ｋさん（ウ→イ）イに予想変更します。なんとなく。
Ｄくん（ア→イ）イに予想変更します。カンです。
Ｏさん（イ）　四角がいちばんはかりにのっているからです。

Ｙくん（イ)　　四角だと、上から下に重さがかかって、重さがおもくなると思う。
野尻（授業者）　それでは、質問や意見はありますか？
Ｓくん（エ）　　ア、イ、ウの人に対して質問。ねんどの大きさは変わらないのに、どうして重さか変わるのですか。
Ｏさん（イ）　　同じだと思うけれど、固めたところで違ってくる。
Ｍくん（エ）　　ア、イ、ウの人に意見。形は変えても絶対重さは変わらないと思う。
――結局、アが１人、イが６人、ウは０人、エは２人となりました。さて実験の結果は？

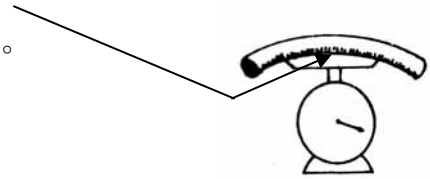
〔実　験〕
結果は、エの「同じ」。大歓声が上がりました。

〔問題３〕
こんどは、ねんどを細長い棒のようにしてはかりの上にのせました。ねんどの両はしがはかりのそとにたくさんはみでてしまっても、重さは正しくはかれるでしょうか。
予　想
ア．両はしがはみ出ていると、かるくなる。
イ．両はしがはみ出ていると、おもくなる。
ウ．はみ出ていても、重さはかわらない



〔予　想〕
ア……Ｍくん
イ……Ａくん、Ｙくん、Ｏさん、Ｓくん
ウ……Ｋさん、Ｎくん、Ｄくん、Ｚくん

〔討　論〕
Ｍくん（ア）　はみ出していると重さがかわってしまうから、軽くなる。
Ｓくん（イ）　今までは、形を変えてもはかりにのっているから重さはかわらなかったけど、出ている分、重心がかかるから、その分、重くなる。
Ｏさん（イ）　長広くて、底が出ている分、重さは違うと思う。
Ｎくん（ウ）　ねんどがはみ出ていても、はかりの上にはのっているので、重さは下にいっているので、かわらないと思いました。
Ｋさん（ウ）　Ｎくんと同じで、ねんどがはみ出ていても、おもさはあまり変わらないと思いました。
野尻（授業者）それでは意見や質問はありますか？
Ｏさん（イ）　アの人に質問。絶対軽くなるのはあり得ないと思います。
Ｍくん（ア）　いや、絶対に軽くなります。
Ｓくん（イ）　Ｍくんに質問。はみ出ているけど、はかりにはちゃんとのっているので、その分はかわらないし、出ている分が軽くなるとは思えません。
Ｍくん（ア）　（実験台のこの部分をさして）
はかりのっていないので、軽くなる。



Ｓくん（イ）　反論です。前にやった人の体重計の問題で、片足で立っているのと同じ状態だから、重さが軽くはならない。

――激しい討論の末、いよいよ実験です。

〔実　験〕

実験の結果は、ウの「かわらない」でした。「ウォッシャー」「何それ？」などの歓声が聞こえました。

（３）生徒の授業後の評価及び感想

授業者より→学習指導案にも記載したが、生徒の学習意欲の向上を判断する材料として、授業後の生徒自身による自己評価を実施した。今回の授業評価と感想文は下記に示した通りである。

授業後の５段階評価で、「５」「４」の積極的評価をした生徒が８０％近くあり、しかも「２」「１」の消極的評価をした生徒が一人もいない状況であった。この結果から、今回の授業については、生徒の学習意欲の向上が図ることができたと判断している。

また、感想文を読んでみても、授業のねらいに迫る内容が書かれており、科学的な認識が深まったことが読み取れる。

〔評価〕

５　とても楽しかった・・・・・・・・・・６人
４　楽しかった・・・・・・・・・・・・・１人
３　どちらともいえない・・・・・・・・・２人
２　つまらなかった・・・・・・・・・・・０人
１　とてもつまらなかった・・・・・・・０人

〔感想〕

●重さは変わらない　　Ｓくん（評価…５　とても楽しかった）

最後の実験以外の実験は、重さが変わらないと分かった。はかるときに、はかるものをささえてしまうものでは、重さがへるようにみえるということがわかった。

●とても楽しく授業に参加できた　　Ｏさん（評価…５）

すごく楽しく授業に参加できました。特に悔しかったことは、プリント(1)と(2)で予想がはずれてしまったことです。問題４でやっと予想が当たったときがものすごくうれしかったです。次回の授業も楽しみながら発言したいと思います。

●どれにしようか迷うところが楽しかった　　Ｙくん（評価…５）

予想で、「どれにしようか」と迷うところが楽しくて、形をかえても重さは同じで、はみだしているやつも同じだったけど、片方が少しのっていたら、重さはへっていたという感じで、楽しかった。

●さみしかったです　　Ｄくん（評価…３　どちらともいえない）
最初は１問正解したけど、最後は１人だけで間違えて、さみしかったです。でも、勉強になりました。

## ２　理科研究授業協議会内容（要約）

授業者　評価チェック表から見ると、学習意欲の向上が図れたと考えられる。自分の意見は言えるが、人の意見を聞くことが難しい傾向がある。討論の場を通し、力がついてきていると思われる。理科の授業では、あえて結論を言わず、自分で気づいてくれることを期待している。

教頭　はかりの使用は将来の生活でも必要なのでよかったと思うが、台ばかりよりも、デジタルのほうが一般的である。体重を計るなど、もっと生活に根ざしたもののほうが分かりやすいのではないだろうか。

加藤氏　小・中で量の概念が入ってない人が多いと思われる。実体験に乏しく、体で学んでいることが少ないからではないか。普通の理科の授業を簡単にしただけでは、個に応じた対応はできないのではないだろうか。自分たちでねんどの形を変化させて操作し、結果を確認することで、実感を伴う理解が深まり、概念として習得できるのではないか。

宇佐見氏　はかりを使用する体験を増やすため、３人に１個当たり使用できると良い。失敗や誤差が出ても、実際の体験が必要である。
「なぜそう思うか？」の問いに答えられない生徒が多い。思考力をつけ、そこをどうクリアするかが課題である。

校長　重さの保存のクリアができていないことに驚いた。経験不足から保存の獲得が遅れているのではないだろうか。科学的な思考をすることにより、自己中心性を消去し、他者を受け入れることができるといわれている。人とやり取りをしながら事実が示され、真実を知るという経験が今まで足りなかったのではないか。

田邉氏　生徒は誰でも、学ぶこと知ることを欲している。授業の中で大事にしたい点は、「思考の揺さぶり」である。体験をふまえて関心を持つ教材を用意し、思考を深めるための切り返しの発問で問いかける。そして、学級における人間関係をしっかり形成し、お互いの意見を聞き合い、言い合い、ぶつかり合う経験を作る必要がある。その中で、人間関係を高め、自己肯定感を味わせることによって、いろいろなことがあっても受け止められる力が身に着くのではないだろうか。

関係資料Ｖ－7

# 平成２０年度「人間力」を高める教育実践のあり方研究授業のまとめ

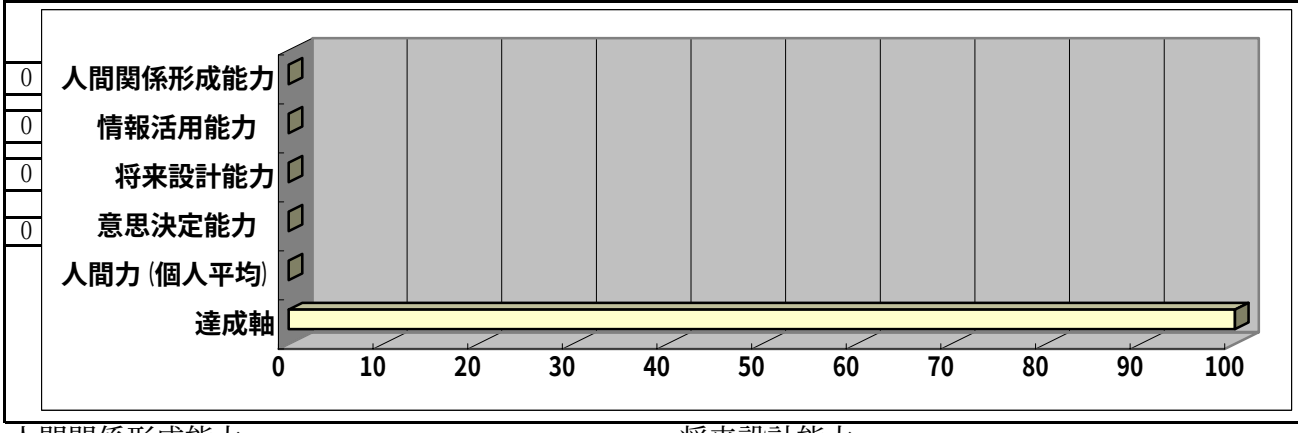
| | 教科名 | 実施日 | 単元（題材）名 | 研究授業協議会のまとめ<br>～各教科の考える人間力に焦点をあてて～ |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 美術 | １０／６（月） | 「和紙のランプシェードを作ろう」 | ものを作ることは自分のまわりに人との関係を作ることであり、それは自分の存在を認識し、自分を発見できることである。それは「生きる」ことと同じであると考える。人間としてたくましく生きていく力につながることを願って授業を展開した。 |
| 2 | 社会 | １０／７（火） | 「流通の仕組み」<br>～小売店（スーパー）の<br>工夫を考えよう～ | 人間力を向上させることを願い、相手の立場に立って思考を巡らすことや、「どうしてだろう」と考えることによって思考力の育成を図っている。また、考えたことを整理し発表することで、「表現する力」も育てていきたいと考えている。 |
| 3 | 保健体育 | １１／４（火） | 「大切なパートナー」 | 自己認識スキルが大切だと考える。<br>情動抑制スキル・・・・ゲームの中でのルールで体験。<br>ライフスキルを１授業で全部取り上げるのは難しいが、３年間を通して取り上げていく必要があると考える。 |
| 4 | 生活技術科<br>縫製コース | １１／２８（金） | 「注文品を作ろう」 | ステップアップ表や工程表を使って、自分の目標を達成できるように取り組んでほしい。この願いが達成できるように取り組むことが、人間力を育てていく一助になると考える。人間力を育み生き甲斐を見付けることが大切である。達成感が生き甲斐につながると思う。 |
| 5 | 園芸技術科<br>農業コース | １２／９（火） | 「冬野菜の収穫と食品加工」 | 人間力につながる力を次のように考えている。<br>①働く力～技術的なものではなくて～<br>・さわやかに連絡報告相談ができる力。<br>・しなやかに失敗をバネに次に活かすことができる力。<br>・ほがらかにハイ喜んでと仕事ができる力。<br>②自己評価、他己評価をして自分を客観的に見る力をつける。 |
| 6 | 生活技術科<br>手芸コース | １２／９（火） | 「オリジナル作品を作ろう」 | 自分の研究課題から達成感・自己肯定感を得ることができると考える。最後までやり遂げる力など、どれも人間力につながる。一番大切なのは意欲だと考える。主体的に取り組む力を育てたい。 |
| 7 | 英語 | １２／９（火） | 「Asking the way」 | 人間力として大切にしたいのは、人間関係であり、コミュニケーション能力である。一人一人の実態にあった力の付け方を探っていきたい。 |
| 8 | 職業 | １２／９（火） | 「職場内の暗黙のルール<br>その1」 | 主体的に、労働を通して社会に関わっていく力。他者との関わりをもち、人間関係をよくするなど、他者と関わる力。こうするといい、こうするとまずい、ということが分かる将来設計能力は、人間力につながると思う。 |
| 9 | 理科 | １２／１５（月） | 「ものとその重さ」 | 人間力を高める教育実践について、理科では、①学習意欲の向上②科学の基礎的・基本的な概念や原理・原則の習得③思考力・判断力・表現力等の育成　の３点を考えている。 |
| 10 | 数学 | １２／１６（火） | 「金銭」～買い物をしよう～ | 本題材においては、「他者とのお金のやりとりができる力」を育むことが人間力を高めることになると考えている。社会生活上お金のやりとりは必要不可欠である。金銭を扱うことで、自立していく一助になると考える。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 国語 | 12／18（木） | 「3年間のまとめ<br>～卒業文集作り～」 | 自分の生活を文章化することができ、未来を踏まえて考えることができれば（将来設計能力）人間力につながると考える。自分の気持ちを言葉に置き換えることで気持ちをスリムにさせる。言葉に向き合いたい。 |
| 12 | 家庭科 | 12／18（木） | 「旬の野菜を使った鍋料理<br>を囲もう！」<br>～野菜の切り方、調理器具<br>の使い方を学ぶ～ | 家庭科の考える人間力～よりよく生きるために～<br>・楽しく取り組める工夫 ・面倒くさがらない工夫 ・買い物の経験。家庭科は衣食住を学び、実生活に即している。卒業後の自立した生活をめざす上でも大切な授業である。 |
| 13 | 工業技術科<br>窯業コース | 1／15（木） | 「質の良い製品を作り、レインボーフェスタを成功させよう」 | 「人間力」とは、客観的に自己診断できる力、反省から学ぶことができる力、意欲をもって積極的に取り組む力、と考える。 |
| 14 | 工業技術科<br>成型コース | 1／15（木） | 「チャレンジ『c－LAND検定』」 | 人間力として主に育てたい力は「コミュニケーション能力」である。話し合いの場面など、「検定」のなかで取り組んでいる。 |
| 15 | 園芸技術科<br>園芸コース | 1／23（金） | 「レインボーフェスタで販売しよう」 | 基礎学力がベースにあって、働く力、精神的自立、生活の自立、自分の存在（体力。気力・忍耐力）が育つことが「人間力」であると考える。育てたい力は、①生き物を育て、育む気持ち　②共同作業で野やりとりを学習し、人間関係（コミュニケーション）を育む　③毎日違う仕事を行うことで予測する力、臨機応変に対応する力を育む　④自分で工夫して活動する力⑤体力、である。 |
| 16 | 音楽 | 1／28（水） | 「卒業式にむけて心をひとつにした歌声をつくろう」 | 声という楽器を用いて仲間と共に表現する活動が「コミュニケーション力」を高め、「人間力」の育成につながると考えている。 |
| 17 | 情報 | 2／3（火） | 「アニメーションを作ろう」 | 情報科の考える「人間力」は、「情報を活用する力」と考えている。情報の収集・分析・整理・表現を行うことができる能力と捉えている。膨大な情報をいかに的確に把握し、分析して活用していくか、その力が求められている。 |
| 18 | 工業技術科<br>木工コース | 2／16（月） | 「先輩から後輩へ、製作技能の伝承を進めよう」 | 木工コースの考える「人間力」とは、今まで習得した技術や技能を次の新しい場面で活用していく力であると考えている。新しい場面にいかに自分を適応させていくか、「調整力」であり、「応用力」であると考える。 |

関係資料Ｖ－8

# キャリア発達段階から見た「人間力」チェック表

年　　組　　氏名




## 人間関係形成能力

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 元気よく挨拶ができる。 | |
| 2 | 大きな声ではっきりと返事をする。 | |
| 3 | 清潔な服装を心がけている。 | |
| 4 | 友達と協力して係活動に参加する。 | |
| 5 | 電車で老人や妊婦に席を譲ったことがある。 | |
| 6 | 電話で待ち合わせの約束をしたことがある。 | |
| 7 | 見聞きしたことを相手に分かるように話す。 | |
| 8 | 仕事終了時の報告と次の仕事の確認ができる。 | |
| 9 | 言われなくても次の仕事を見つけて動くことができる。 | |
| 10 | 友達の考えや個性を理解し、互いに認め合うことができる。 | |
| 11 | 目上の人には敬語を使う。 | |
| 12 | 相手や場の状況を判断した言動ができる。 | |
| 13 | 困ったときに相談することができる。 | |

## 将来設計能力

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 朝ご飯をきちんと食べている。 | |
| 2 | 専門教科等の学習にまじめに参加する。 | |
| 3 | 夜更かしをしない。 | |
| 4 | 新しいことにチャレンジできる。 | |
| 5 | 好きな教科は熱心に取り組む。 | |
| 6 | 家庭で決まった役割がある。 | |
| 7 | あこがれの職業がある。（昔あった） | |
| 8 | どんな仕事にも積極的に取り組む。 | |
| 9 | 自分で目標を立て、目標に向かって取り組むことができる。 | |
| 10 | 就労を目標にし、必要な課題意識を持って取り組んでいる。 | |
| 11 | 自分にあった職種を選ぶことができる。 | |
| 12 | 職業生活に必要な態度を自覚し、専門実習などの授業を積極的に行う。 | |
| 13 | より良い仕事をしようという向上心を持って取り組む。 | |

## 情報活用能力

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 父（母）の仕事について説明できる。 | |
| 2 | お金の大切さや金種が分かる。 | |
| 3 | 身近な公共施設や公共物を利用できる。 | |
| 4 | 作成手順書を見て模型（プラモデル等）を作ることができる。 | |
| 5 | 人混みで大声を出したりふざけたりしない。 | |
| 6 | 車が来なくても青信号をきちんと待つ。（社会のルール） | |
| 7 | 指示をよく聞き、正しく理解できる。 | |
| 8 | インターネットで検索ができる。 | |
| 9 | 政治や経済、社会の出来事などに興味がある。 | |
| 10 | おこづかいを計画的に使っている。 | |
| 11 | 千葉県の最低賃金を知っている。 | |
| 12 | 後輩に生産工程を説明したり、作業内容を教えたりすることができる。 | |
| 13 | 注意･指示をよく聞き、不明な部分は聞き直すなどして間違いなく正しく理解できる。 | |

## 意思決定能力

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 目標に向かってがんばることができる。 | |
| 2 | 約束を守る。 | |
| 3 | やりたい係活動を選ぶことができる。 | |
| 4 | 一度失敗すれば次からは同じ間違いをしないようにする。 | |
| 5 | 両親や先生の忠告を受け入れることができる。 | |
| 6 | 安全に注意して活動できる。 | |
| 7 | 自分の仕事に責任を持ち、最後までやり遂げようとする。 | |
| 8 | ＳＴ学習において、生活や進路に関する自らの学習課題を設定することができる。 | |
| 9 | 自らの目標を実現するための方法を選ぶことができる。 | |
| 10 | 現場実習等の経験を活かして、進路先を自分で決める。 | |
| 11 | 客観的、肯定的に自己を評価することができる。 | |
| 12 | 自らの目標や課題に対して、解決に向けたとり組みを進めていくことができる。 | |
| 13 | 休日は趣味やスポーツ、サークルなどに取り組んでいる。 | |

関係資料　　第１２回公開研究会シンポジウム記録

# 平成２０年度　公開研究会シンポジウム

開催日時　平成２０年１２月３日（水）１２：４５～１４：４５
　　（公開研究会午後のプログラムで開催する）

場所　　本校体育館

テーマ　　自立に必要な「人間力」を育てる　－身に付けてほしい力と支援－

テーマ設定の理由

「人間力」とは、「生きる力」の理念をさらに具体化したもの、すなわち現実の社会で力強く生きていく資質・能力であり、現実の社会に健全に生き、自分らしさを発揮する資質・能力である。こうしたことを踏まえ、本校の生徒が社会で生きていくために必要な生活力や実行力、表現力などを培うために、どのようなことを身に付ければいいのかということを明らかにし、必要な力を培うための支援の充実を本校ではめざしている。本校にいる間に身に付けてほしい力とは何か？今回のシンポジウムでは、様々な立場から「人間力（自立に必要な力、身に付けてほしい力、生き甲斐につながる力)」についての提案をしていただき、多角的な意見を出していただきたい。「人間力」と言っても立場が違えば考え方も様々であり、いろいろな角度からの見方があるはずである。まず、それぞれの立場からの意見を確認する。その後、生徒の「自立」を主テーマにして協議を進めていきたい。協議では、立場の違う意見であるが、共通する部分、つながる部分があると考えている。こうした意見をまとめ、協議を進める中で「人間力」の全体像を浮き彫りにしていきたい。

シンポジスト

細川　雅彦　氏　　さわやかちば県民プラザ主査
坂本　秀美　氏　　Will クラブ事業部長
市岡　　武　氏　　沼南育成園サポートセンター　生活支援ワーカー
伊藤　靖浩　氏　　本校第６期卒業生　JR 東海パッセンジャー勤務

司会進行
加藤　哲　　本校校長

## はじめに

### 加藤校長

「人間力」をどうとらえるかは、非常に広範囲でさまざまな角度からの考えかたがあるため、なかなか理解できないと思います。そこでまず、具体的に４名のパネリストの方から、ご自分の立場から見た「人間力」を語っていただきます。そして、フロアの方々からもご意見をいただくことで、「人間力」をどうとらえるかを皆で考えていきたいと思います。さらに、本校の取り組みに対する期待や、「人間力」という視点で力を入れてほしいことを伺いたいと思います。

## シンポジストより

### 細川雅彦氏　「性・生からみた人間力」

幸せな家庭生活を送るために、日常の些細なことに幸せを感じられるようになってほしいと思います。「熟年離婚しないためのマニュアル」から見なおす日常生活の大切なことは、①「ごめんなさい」と恐れずに言う②「ありがとう」とためらわずに言う③「愛している」と照れずに言うことです。

ある事例として、ジョブコーチに恋をして離職した男性がいます。彼は相手に打ち明けることで離職を余儀なくし、再就職をしてカウンセリングを受けました。その経験を通して学んだこともあると思います。ただ、それで人間力がついたとは言えません。

自分を好きになる力、人を好きになる力、好きな人を思いやる力、好きな人以外も思いやることのできる力、そして、自分を守る力をつけることが、人間力へつながるのではないでしょうか。

### 坂本秀美氏　「家庭生活からみた人間力」

現在３３歳の自閉症の次男がおります。生後６か月で医師から診断を受け、２歳半の時に保健婦さんから「情緒に問題がある」と告げられました。以降、特別支援を受ける中で、いろいろなお子さんとのかかわりを通し、現在の自分の子供の成長と照らし合わし、客観的に子どもを見る目と、主観的に子どもを捉える目が育ちました。

小学校３年生の時、「どうして僕は普通ではないんだろう・・・」と彼は悩みを口にしました。「特殊教育センター」の比留間先生からは、「お子さんは自分のことがよく分かるから、親子ともに障害を受け入れ、欠ける部分を補う手だてを一緒に考えていくように」とアドバイスをいただきました。そして小学校４年からは、年齢相応の対応を心がけました。まず、銀行口座を自分で開き、お金の管理を自分で行えるようにしました。また、出かけるときは社会のマナーやルールが身に着くように常に心掛け、電車賃を自分で払うなどして、お金の価値観も身に着くようにしました。最近は、お金の価値が分からない子が多すぎます。それは、親がお金を与えすぎているからに他ありません。また、身の回りのことは自

分で行うようにしました。洗濯は子供のころから現在でも、靴や帽子にいたるまですべて自分で行っています。お風呂掃除やお湯はりも彼の仕事で、その日に入浴する人数に合わせ、水位も自分で考え管理しています。

家では、彼の成長の中で「自己選択」「自己決定」「自己責任」を大切にしました。言いなりや指示待ちにならないように自分で考えること、進路などは親が勝手に決めず、納得いくまで話し合うこと、失敗したときにそれを受容し責任をもって対処できるようにすることなどです。生きていく中で色々な事件や問題にぶつかります。その時に対処できる力を家庭で育てなくてはなりません。家庭の中で、確固とした「愛」を本人に伝えることで人間への信頼感がもてるようになり、それが人間力となるのだと思います。

現在息子は水泳を趣味に週２回スイミングに通い、日曜は銭湯へ行くことを楽しみにしています。夜勤のときは「お母さんの作る弁当は、僕の活力の源です」と言って弁当をもって元気に出勤しています。

小さい時から家事を通していろいろなことを身につけることで、自分が必要とされているという自信を持ち、これだけしっかりと社会生活を送っているのです。

**市岡　武氏　「地域支援から見た人間力」**

地域の学校や家庭の中に入って、いろいろな話をする中で、「なぜ障害者がこんなに増えたのだろう」という疑問があります。子供が減ってきているにもかかわらずです。
一般的に今の子供は、総合的な「生きる力」が失われてきおり、個性も喪失してきています。食欲に関してでさえ、お菓子でいいやとか、食べなくていいやという人が増えてきているのです。管理され、守られた社会では、危険な目に出会わなくなり、無気力さが目立っています。安全を優先させるために、いろいろな経験や体験が圧倒的に不足しています。ネットで情報や知識を得て満足してしまっています。そして、思い通りにならないと人のせいにしがちです。自己責任が不足しているのです。家庭や集団生活の中で、もっともまれる経験が必要です。そうでないと社会へ出た時のギャップが大きすぎるのです。もっと体験を通した活動をするために、信頼関係を十分に結び、家庭や社会の理解協力の下、危険を伴うことも覚悟して実体験を広げていく必要性を感じます。

**伊藤靖浩氏　「卒業生から見た人間力」**

農業コースで最も思い出深い活動は、「堆肥の切り返し」と「除草作業」です。堆肥が臭いんです。「堆肥の切り返し」を時間いっぱいしたあとは、体中臭くて友だちに近寄れないこともありました。「除草作業」は一定の作業が長時間続くもので、それは僕にとって苦手なことでした。でも、それを３年間続けることで、長時間の集中力と忍耐力をつけることができました。

生徒会活動に参加したことも大きな力になりました。小学校、中学校では、リーダーになったことは全くありませんでした。会長として、自分が感じた生徒会と委員会の距離を縮め、情報の共有化を進められるように工夫しました。この活動を通し、自分の意見を正

確に伝える力をつけることができたと思います。中学校のころは、色々なことに集中できず雑になっていましたが、流山高等学園の３年間で、いろいろな人とコミュニケーションを取れるようになりました。自分の思っていることをきちんと伝えることは難しいと思いますが、その力を身につけることができました。

最後に、学校に対しての要望としては、勉強については個々のレベルに合った授業をしてほしかったと思います。

**パネルディスカッション**

**Q 専門実習における体験学習についてのご意見をお願いします。**

市岡：農業コースの炎天下での活動など大変な仕事です。普通高校ではとてもできない貴重な体験だと思います。また、生徒会での人をまとめる力は、社会に役立つことだと思います。

**Q 地域のなかで育てることで心がけたことは何ですか？**

坂本：学級の中で親子、先生を含めて休みの日に野外活動をしました。親子全員の顔が分かり、皆で子どもを見ることができました。１クラスから始まった活動が、他クラス、他学年と輪が広がりました。また、姉の学級懇談会にも自閉症の弟を連れて行き、姉に面倒を見させながら、学級の保護者に理解を広げるようにしました。

**Q「自分を好きになること」についてどう考えますか？**

伊藤：僕は小中学校で普通学級にいました。そこでは、背が低いことでかなり虐めにあい、ケンカにもなっていました。流山高等学園で同じような経験をした人たちと出会い、どんなにつらいことがあっても、仲間と一緒にやっていけば、おのずと道が開けると考えられるようになりました。自分自身のことを理解し、相手の気持ちを考えながら、ケンカにならないように話し合えるようになりました。自分の意見を押し通すのではなく、人の話を聞き、学ぶべきことは学び、感謝することを学びました。

一般より：KOYO 祭ではグランドゴルフを開催させてもらっております。流山の生徒はみな礼儀正しい印象がありますが、以前より挨拶の声が小さくなってきたような気がします。最近地域の中で気になることは、小さい子や弱い子を受け入れる輪が育ってないことです。公園で子どもを遊ばせていて、障害児が来ると親が受け入れることができず、子どもを連れて帰ってしまうのです。人を思いやる心が社会の中で失われてきているように思います。

保護者より：二人の子どもが在学しています。障害についての告知をしたところ、二人に

まったく違う反応がありました。１人は、もやが取れたようにすっきりとし、もう１人は自己否定的になってしましました。「カミングアウト」についてのご意見を聞かせてください。

坂本：「カミングアウト」はとても大きな問題です。受け止め方の違いは、その時の心理状態、環境に差があるからです。告知の後のフォローも大切です。専門家に相談することが必要だと思います。

伊藤：小６の時に母から告げられ、正直最初は「なんで？」と思いました。でも、いずれは自分で気づくことですし、それが早いか遅いかの違いだけです。僕としては、はっきりと言ってくれたほうが「自分はこうなんだ」と自覚することができるので、良いと思います。障害があっても健常の人とコミュニケーションが取れるようになる道を、努力して探すことができました。

**Q 最後に流山高等学園に一言お願いします。**

細川：流山高等学園の職員はその自覚をもち、生徒は希望をもって下さい。

坂本：もっと周囲を巻き込んで、コマ切れのワークシェアリングではない知的障害者の就労を進めていってもらいたいです。

市岡：１２０名体制になっても、今までの「体験を通した」実践成果を大切に、ぶれない学校であって下さい。

伊藤：できる人とできない人の区別をしないでください。達成感が味わえるようなレベルに合った授業を考えてください。また、生徒同士の意見がぶつかり合えるような場を作ってほしいです。卒業生と在校生の交流を深め、意見交換ができたら良いと思います。

# あ　と　が　き

教頭　鎌田　哲夫

平成２０年度の研究紀要第１２号がまとまりましたのでここにお届けいたします。

今年度の研究は、新たに「人間力」に焦点を当て研究をすすめてきました。昨年までの３年間で「キャリア発達」の視点から各教科の指導・支援内容とキャリア発達に関わる諸能力との関連づけを行い「キャリア発達の諸能力を養う指導・支援の内容段階表」を作成し授業実践への活用と関連づけを研究してきました。

この成果と課題を踏まえ、今年度はキャリア発達に関わる諸能力に関連した新しい評価方法を検討してきました。各教科で考える「人間力」とは何かを明らかにした授業研究を行い、その結果、キャリア発達段階から見た「人間力チェック表」（試案）を示すことができました。キャリア発達の段階から見た「人間力」を全体像でつかめるようにしたものです。あわせて評価表としての役割を持たせたものです。

この表は未だ不完全なものですので、次年度は活用しながらより有効な「人間力チェック表」としていくことで、一人一人のニーズに迫ることができるようにすることが研究課題となります。

本校は、平成２２年度から大幅な定員の増加とそれに伴い学科の見直しが検討されています。平成２０年度の新学習指導要領の改訂の方向として、高等部の専門教科では、社会の変化や時代の進展、近年の障害者の就業状況などを踏まえて必要な見直しが行われました。このことを踏まえた検討になります。今年は、これまで培ってきた良さを生かして本校が新しく変わっていく準備の年でした。このような年に、私たちはしっかりと「社会自立・職業自立」に結びつけるための研鑽・研究を重ねていくことが大切であると考えます。今後とも暖かくそして厳しく見守り、御指導・御鞭撻くださるようお願いいたします。

研究同人

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 校長 | 加藤　哲 | 教頭 | 鎌田　哲夫 | | 事務長 | 梶　祐治 |
| 教務主任 | 鈴木　英樹 | 教務副主任・研究主任 | ○松見　和樹 | | | |
| 福田弘俊 | 宮下香織 | 石井葉子 | 淵上由美 | 古江大介 | 淺利邦子 | 宮津由承 |
| 久保田智子 | 斎藤雅文 | 藤森良憲 | ○鳥潟朝子 | 飯田圭一 | 坂中興栄 | 稲垣順平 |
| 戸田奈美子 | 藤原幸成 | 安田敦子 | 阿部佑亮 | 高橋照代 | 大久保敦史 | 細川美奈子 |
| 菅原雅子 | ○椎橋克夫 | 平井優美 | 森千賀子 | 加藤健次郎 | 永松武志 | 三橋隆行 |
| 内田務 | 平瀬麻依子 | 西尾香里 | 鈴木智美 | 伊藤貴之 | 鈴木優子 | 日暮富男 |
| 河野聖子 | 海老原玲子 | 高橋鉄 | 児島昌子 | 加藤誠 | 河野行雄 | 太田逸子 |
| 落合泰長 | 細井真弓 | 遠藤文男 | 長谷川緑 | 手塚幸子 | 野尻浩 | 清水晶子 |
| 堤原佐知子 | 海野賀世子 | 平賀博巳 | ○研究係 | | | |

平成20年度　研究紀要　第１２号　実践のあゆみ
編集・発行　千葉県立特別支援学校流山高等学園
〒270-0135　千葉県流山市野々下２－４９６－１
TEL　04-7148-0200　FAX　04-7148-0066
発行日　平成21年3月21日
印刷　飯島印刷サービス